

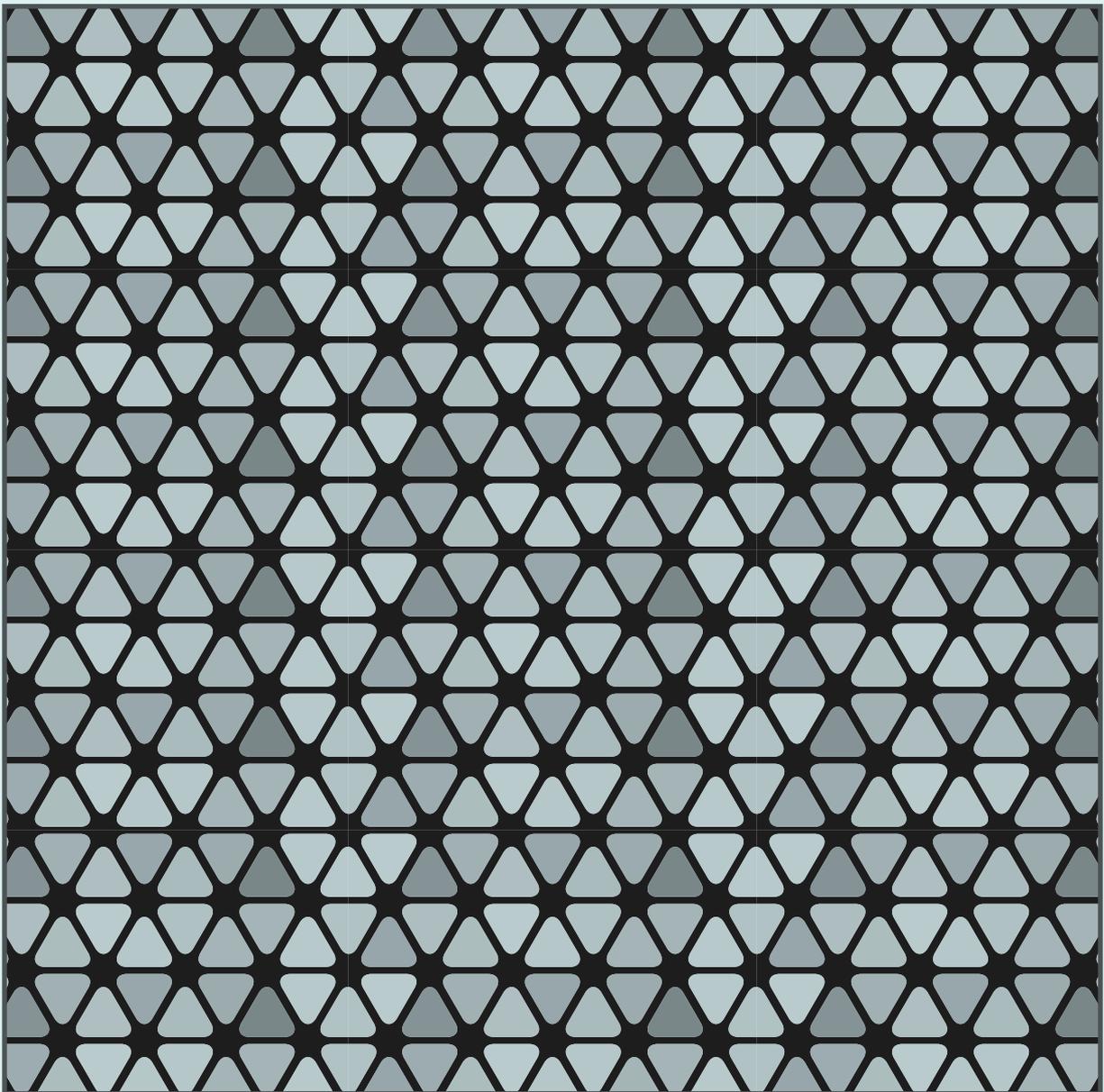
---

2018年度

---

# シラバス

# フランス語学科



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

---

獨協大学

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

## 【シラバスの見方】

### 1. 目次について

#### ①シラバスページの検索方法

ページ端にあるインデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを探してください。

目次の科目は、授業科目表(学則別表)と同じ順序で掲載しています。

※入学年度によっては授業科目表とシラバスの順序が一致していない場合があります。ご注意ください。

#### ②履修できない科目

「履修不可」の欄に入学年度・所属学部・学科名等が記されている場合は、該当者はその科目を履修することができません。

〈略称説明〉

外：外国語学部

養：国際教養学部

経：経済学部

独：ドイツ語学科

養(\*1)：国際教養学部、スペイン語履修者

済：経済学科

英：英語学科

養(\*2)：国際教養学部、中国語履修者

営：経営学科

仏：フランス語学科

養(\*3)：国際教養学部、韓国語履修者

環：国際環境経済学科

交：交流文化学科

法：法学部

律：法律学科

国：国際関係法学科

総：総合政策学科

免：2013年度以降入学の教職課程登録者

### 2. シラバスページの見方(右図参照)

#### ①入学年度

#### ②入学年度に対応した科目名

#### ③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望

#### ④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。

授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。

#### ⑤到達目標

#### ⑥事前・事後学修の内容

#### ⑦授業で使用するテキスト

#### ⑧授業で使用する参考文献

#### ⑨評価方法

※「全学総合講座」および一部の科目は、記載方法が異なる場合があります。

①	②	担当者
講義目的、講義概要		授業計画
③	④	
<b>春学期</b>		
到達目標	⑤	
事前・事後学修の内容	⑥	
テキスト	⑦	
参考文献	⑧	
評価方法	⑨	

①	②	担当者
講義目的、講義概要		授業計画
③	④	
<b>秋学期</b>		
到達目標	⑤	
事前・事後学修の内容	⑥	
テキスト	⑦	
参考文献	⑧	
評価方法	⑨	

### 3. 注意事項

#### ①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。

必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および『授業時間割表』を確認してください。

#### ②定員

「全学共通授業科目」は定員を設けています。『授業時間割表』の「定員」の欄を参照してください。

#### ③集中講義

集中講義を伴うスポーツ・レクリエーション科目は上・下両段に記載してあります。

開講学期に注意してください。

# — 総 合 目 次 —

2009 年度以降入学者用目次	-----2
外国語学部共通科目（2006 年度以降入学者用）	-----6
担当者別授業内容	-----7

# フランス語学科 授業科目(2009年度以降入学者用 目次)

## 学科基礎科目

開講科目名称	担当者	開講 学期	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス語Ⅰ(文法)	授業時間割表を参照してください。	春	1	1	全	7
フランス語Ⅱ(文法)		秋	1	1	全	7
フランス語Ⅰ(講読)既修者のみ	若森 栄樹	春	1	1	全	8
フランス語Ⅱ(講読)既修者のみ	若森 栄樹	秋	1	1	全	8
フランス語Ⅰ(総合)	授業時間割表を参照してください。	春	1	1	全	9
フランス語Ⅱ(総合)		秋	1	1	全	9
フランス語Ⅰ(TP) 既修者のみ	江花 輝昭	春	1	1	全	10
フランス語Ⅱ(TP) 既修者のみ	江花 輝昭	秋	1	1	全	10
フランス語Ⅰ(会話)未修者のみ	授業時間割表を参照してください。	春	1	1	全	11
フランス語Ⅱ(会話)未修者のみ		秋	1	1	全	11
フランス語Ⅰ(LL)	授業時間割表を参照してください。	春	1	1	全	12
フランス語Ⅱ(LL)		秋	1	1	全	12
フランス語Ⅲ(文法)	授業時間割表を参照してください。	春	1	2	全	13
フランス語Ⅳ(文法)		秋	1	2	全	13
フランス語Ⅲ(講読)	竹内 久雄	春	1	2	全	14
フランス語Ⅳ(講読)	竹内 久雄	秋	1	2	全	14
フランス語Ⅲ(講読)	野澤 丈二	春	1	2	全	15
フランス語Ⅳ(講読)	野澤 丈二	秋	1	2	全	15
フランス語Ⅲ(講読)	若森 栄樹	春	1	2	全	16
フランス語Ⅳ(講読)	若森 栄樹	秋	1	2	全	16
フランス語Ⅲ(講読)	福田 美雪	春	1	2	全	17
フランス語Ⅳ(講読)	阿部 明日香	秋	1	2	全	17
フランス語Ⅲ(講読)	鈴木 隆	春	1	2	全	18
フランス語Ⅳ(講読)	鈴木 隆	秋	1	2	全	18
フランス語Ⅲ(総合)	授業時間割表を参照してください。	春	1	2	全	19
フランス語Ⅳ(総合)		秋	1	2	全	19
フランス語Ⅲ(TP) 既修者のみ	堀 晋也	春	1	2	全	20
フランス語Ⅳ(TP) 既修者のみ	堀 晋也	秋	1	2	全	20
フランス語Ⅲ(会話)未修者のみ	授業時間割表を参照してください。	春	1	2	全	21
フランス語Ⅳ(会話)未修者のみ		秋	1	2	全	21
フランス語Ⅲ(構文)	井上 美穂	春	1	2	全	22
フランス語Ⅳ(構文)	井上 美穂	秋	1	2	全	22
フランス語Ⅲ(構文)	藤田 朋久	春	1	2	全	23
フランス語Ⅳ(構文)	藤田 朋久	秋	1	2	全	23
フランス語Ⅲ(構文)	竹内 久雄	春	1	2	全	24
フランス語Ⅳ(構文)	竹内 久雄	秋	1	2	全	24
フランス語Ⅲ(構文)	木田 剛	春	1	2	全	25
フランス語Ⅳ(構文)	木田 剛	秋	1	2	全	25
フランス語Ⅲ(構文)	富塚 真理子	春	1	2	全	26
フランス語Ⅳ(構文)	富塚 真理子	秋	1	2	全	26

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜日	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス芸術文化入門Ⅰ	阿部 明日香	春	木1	2	1		27
フランス芸術文化入門Ⅱ	阿部 明日香	秋	木1	2	1		27
フランス現代社会入門Ⅰ	藤田 朋久	春	水3	2	1		28
フランス現代社会入門Ⅱ	藤田 朋久	秋	水3	2	1		28

## 学科共通科目

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
総合フランス語Ⅰ	授業時間割表を参照してください。	春		2	3	全	29
総合フランス語Ⅱ		秋		2	3	全	29
フランス語文章表現法Ⅰ	Ph. ヴァネ	春	月1	2	3		30
フランス語文章表現法Ⅱ	Ph. ヴァネ	秋	月1	2	3		30
フランス語文章表現法Ⅰ	C. パジエス	春	月2	2	3		31
フランス語文章表現法Ⅱ	C. パジエス	秋	月2	2	3		31
フランス語文章表現法Ⅰ	M. ミズバヤシ	春	火2	2	3		32
フランス語文章表現法Ⅱ	M. ミズバヤシ	秋	火2	2	3		32
フランス語文章表現法Ⅰ	Ch. ペリセロ	春	火3	2	3		33
フランス語文章表現法Ⅱ	Ch. ペリセロ	秋	火3	2	3		33
フランス語文章表現法Ⅰ	山崎 夏絵	春	水3	2	3		34
フランス語文章表現法Ⅱ	山崎 夏絵	秋	水3	2	3		34
フランス語文章表現法Ⅰ	横地 卓哉	春	木1	2	3		35
フランス語文章表現法Ⅱ	横地 卓哉	秋	木1	2	3		35
フランス語文章表現法Ⅰ	C. ラビニヤス	春	木3	2	3		36
フランス語文章表現法Ⅱ	C. ラビニヤス	秋	木3	2	3		36
フランス語文章表現法Ⅰ	D. ベルテ	春	金3	2	3		37
フランス語文章表現法Ⅱ	D. ベルテ	秋	金3	2	3		37
フランス語会話Ⅰ	F. -A. メール	春	月2	2	3		38
フランス語会話Ⅱ	F. -A. メール	秋	月2	2	3		38
フランス語会話Ⅰ	A. ラモン	春	火3	2	3		39
フランス語会話Ⅱ	A. ラモン	秋	火3	2	3		39
フランス語会話Ⅰ	G. ヴェスイエール	春	水5	2	3		40
フランス語会話Ⅱ	G. ヴェスイエール	秋	水5	2	3		40
フランス語会話Ⅰ	M. ミズバヤシ	春	木2	2	3		41
フランス語会話Ⅱ	M. ミズバヤシ	秋	木2	2	3		41
フランス語会話Ⅰ	Ph. ヴァネ	春	土1	2	3		42
フランス語会話Ⅱ	Ph. ヴァネ	秋	土1	2	3		42
ビジネスフランス語Ⅰ	C. パジエス	春	月3	2	3		43
ビジネスフランス語Ⅱ	C. パジエス	秋	月3	2	3		43
上級フランス語Ⅰ	井上 美穂	春	木3	2	3		44
上級フランス語Ⅱ	井上 美穂	秋	木3	2	3		44

## 学科専門科目

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス語学論Ⅰ	田中 善英	春	水2	2	2		45
フランス語学論Ⅱ	田中 善英	秋	水2	2	2		45
フランス語文章理論Ⅰ	不開講						
フランス語文章理論Ⅱ	不開講						
フランス語言語教育論Ⅰ	中村 公子	春	木2	2	2		46
フランス語言語教育論Ⅱ	中村 公子	秋	木2	2	2		46
マスメディアのフランス語Ⅰ	野澤 文二	春	金2	2	3		47
マスメディアのフランス語Ⅱ	野澤 文二	秋	金2	2	3		47
フランス語コミュニケーション各論Ⅰ	堀 晋也	春	木3	2	3		48
フランス語コミュニケーション各論Ⅱ	堀 晋也	秋	木3	2	3		48
フランス語コミュニケーション各論Ⅰ	木田 剛	春	金3	2	3		49
フランス語コミュニケーション各論Ⅱ	木田 剛	秋	金3	2	3		49
フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	Ph. ヴァネ	春	月2	2	3		50
フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	Ph. ヴァネ	秋	月2	2	3		50
フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	田中 善英	春	水1	2	3		51
フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	田中 善英	秋	水1	2	3		51
フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	横地 卓哉	春	水2	2	3		52
フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	横地 卓哉	秋	水2	2	3		52
フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	G. ヴェスイエール	春	水4	2	3		53
フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	G. ヴェスイエール	秋	水4	2	3		53
フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	堀 晋也	春	木4	2	3		54
フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	堀 晋也	秋	木4	2	3		54

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランスの美術Ⅰ	阿部 明日香	春	木3	2	2	交	55
フランスの美術Ⅱ	阿部 明日香	秋	木3	2	2	交	55
フランスの音楽Ⅰ	松橋 麻利	春	木2	2	2	交	56
フランスの音楽Ⅱ	松橋 麻利	秋	木2	2	2	交	56
フランスの舞台芸術Ⅰ	江花 輝昭	春	木3	2	3		57
フランスの舞台芸術Ⅱ	江花 輝昭	秋	木3	2	3		57
フランス文学史Ⅰ	筒井 伸保	春	木4	2	2		58
フランス文学史Ⅱ	筒井 伸保	秋	木4	2	2		58
フランス語圏の文学Ⅰ【2013年度以降入学者】	不開講						
フランスの文学Ⅰ【2012年度以前入学者】	不開講						
フランス語圏の文学Ⅱ【2013年度以降入学者】	不開講						
フランスの文学Ⅱ【2012年度以前入学者】	不開講						
フランス芸術文化各論Ⅰ	福田 美雪	春	水2	2	3		59
フランス芸術文化各論Ⅱ	不開講						
フランス芸術文化各論Ⅰ	福井 憲彦	春	水4	2	3		60
フランス芸術文化各論Ⅱ	福井 憲彦	秋	水4	2	3		60
フランス芸術文化講読Ⅰ	福井 憲彦	春	月2	2	3		61
フランス芸術文化講読Ⅱ	福井 憲彦	秋	月2	2	3		61
フランス芸術文化講読Ⅰ	江花 輝昭	春	火2	2	3		62
フランス芸術文化講読Ⅱ	江花 輝昭	秋	火2	2	3		62
フランス芸術文化講読Ⅰ	福田 美雪	春	水1	2	3		63
フランス芸術文化講読Ⅱ	不開講						
フランス芸術文化講読Ⅰ	阿部 明日香	春	水2	2	3		64
フランス芸術文化講読Ⅱ	阿部 明日香	秋	水2	2	3		64
フランス芸術文化講読Ⅰ	M. ミズバヤシ	春	木1	2	3		65
フランス芸術文化講読Ⅱ	M. ミズバヤシ	秋	木1	2	3		65

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス地域論Ⅰ	尾玉 剛士	春	火3	2	2		66
フランス地域論Ⅱ	尾玉 剛士	秋	火3	2	2		66
フランスの歴史Ⅰ	藤田 朋久	春	水2	2	2		67
フランスの歴史Ⅱ	藤田 朋久	秋	水2	2	2		67
フランスの政治経済Ⅰ	廣田 愛理	春	月3	2	3	交	68
フランスの政治経済Ⅱ	廣田 愛理	秋	月3	2	3	交	68
フランスの政治経済Ⅰ	尾玉 剛士	春	火2	2	3	交	69
フランスの政治経済Ⅱ	尾玉 剛士	秋	火2	2	3	交	69
フランス現代思想Ⅰ	根木 昭英	春	木3	2	3		70
フランス現代思想Ⅱ	根木 昭英	秋	木3	2	3		70
フランス語圏の現代社会Ⅰ【2013年度以降入学者】	根木 昭英	春	水1	2	2		71
現代フランス論Ⅰ【2012年度以前入学者】	根木 昭英	秋	水1	2	2		71
フランス語圏の現代社会Ⅱ【2013年度以降入学者】	根木 昭英	秋	水1	2	2		71
現代フランス論Ⅱ【2012年度以前入学者】	根木 昭英	秋	水1	2	2		71
フランス現代社会各論Ⅰ	福井 憲彦	春	月3	2	3		72
フランス現代社会各論Ⅱ	福井 憲彦	秋	月3	2	3		72
フランス現代社会各論Ⅰ	Ph. ヴァネ	春	火2	2	3		73
フランス現代社会各論Ⅱ	Ph. ヴァネ	秋	火2	2	3		73
フランス現代社会講読Ⅰ	廣田 愛理	春	月2	2	3		74
フランス現代社会講読Ⅱ	廣田 愛理	秋	月2	2	3		74
フランス現代社会講読Ⅰ	藤田 朋久	春	火1	2	3		75
フランス現代社会講読Ⅱ	藤田 朋久	秋	火1	2	3		75
フランス現代社会講読Ⅰ	尾玉 剛士	春	水1	2	3		76
フランス現代社会講読Ⅱ	尾玉 剛士	秋	水1	2	3		76
フランス現代社会講読Ⅰ	福井 憲彦	春	水2	2	3		77
フランス現代社会講読Ⅱ	福井 憲彦	秋	水2	2	3		77
フランス現代社会講読Ⅰ	根木 昭英	春	金3	2	3		78
フランス現代社会講読Ⅱ	根木 昭英	秋	金3	2	3		78

## 交流文化論

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修不可	ページ
交流文化論(航空産業論)	井上 泰日子	春	月3	2	2	交・養・経・法	79
交流文化論(ツーリズム特殊講義 (紛争事例から学ぶ旅行契約法入門))【2013年度以降入学者】	花本 広志	春	月3	2	2	交・養・経・法	80
交流文化論(ツーリズム・マネジメント論)	鈴木 涼太郎	春	火3	2	2	交・養・経・法	81
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (グローバル化と子ども))【2013年度以降入学者】	堀 芳枝	春	水2	2	2	交・養・経・法	82
交流文化論(トランスナショナル・メディア論)	山口 誠	春	木1	2	2	交・養・経・法	83
交流文化論(表象文化論)	高橋 雄一郎	春	木2	2	2	交・養・経・法	84
交流文化論(ツーリズム人類学)	須永 和博	春	木4	2	2	交・養・経・法	85
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (東南アジアのナショナリズム、民主主義と平和))【2013年度以降入学者】	堀 芳枝	春	金1	2	2	交・養・経・法	86
交流文化論(国際会議・イベント事業論)	井上 泰日子	秋	月1	2	2	交・養・経・法	87
交流文化論(ツーリズム政策論)	井上 泰日子	秋	月3	2	2	交・養・経・法	88
交流文化論(ツーリズム文化論)	鈴木 涼太郎	秋	火3	2	2	交・養・経・法	89
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (グローバル経済とジェンダー))【2013年度以降入学者】	堀 芳枝	秋	水2	2	2	交・養・経・法	90
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (「観る」ことの文化史))【2013年度以降入学者】	山口 誠	秋	木1	2	2	交・養・経・法	91
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (シティズンシップ教育論))【2013年度以降入学者】	花本 広志	秋	木3	2	2	交・養・経・法	92
交流文化論(旅行・宿泊産業論)	井上 泰日子	秋	木4	2	2	交・養・経・法	93
交流文化論(オルタナティブ・ツーリズム論)	須永 和博	秋	木4	2	2	交・養・経・法	94
交流文化論(食の文化論)	中野 美季	秋	木4	2	2	交・養・経・法	95
交流文化論(地域開発論)【2013年度以降入学者】 交流文化論(市民参加のまちづくり論)【2012年度以前入学者】	中野 美季	秋	木5	2	2	交・養・経・法	96
交流文化論(ツーリズム特殊講義 (ツーリズム・メディア論))【2013年度以降入学者】 交流文化論(ツーリズム・メディア論)【2012年度以前入学者】	山口 誠	秋	金1	2	2	交・養・経・法	97

## 外国語学部共通科目

科目名	担当者	開講 学期	曜日	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
総合講座	柿田 秀樹	春	水3	2	1	養・経・法	99
総合講座	A. ゴーリンジャー	秋	水3	2	1	養・経・法	99
総合講座	木村 佐千子	春	火3	2	1	養・経・法	100
総合講座	木村 佐千子	秋	火3	2	1	養・経・法	100
情報科学概論a	呉 浩東	春	月2	2	1	養・経・法	101
情報科学概論b	休講						
(入門)情報科学各論	各担当教員						
(情報処理演習)[総合]	金子 憲一	春	月3	2	1	養・経・法	102
(情報処理演習)[総合]	金子 憲一	春	月4	2	1	養・経・法	102
(情報処理演習)[総合]	金子 憲一	春	木3	2	1	養・経・法	102
(情報処理演習)[英語]	黄 海湘	春	金1	2	1	養・経・法	103
(情報処理演習)[英語]	黄 海湘	秋	金1	2	1	養・経・法	103
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	木1	2	1	養・経・法	104
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	春	木2	2	1	養・経・法	104
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	金2	2	1	養・経・法	104
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	木1	2	1	養・経・法	104
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	秋	木2	2	1	養・経・法	104
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	金2	2	1	養・経・法	104
(応用)情報科学各論	各担当教員						
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	秋	月2	2	1	養・経・法	105
(Excel・プレゼンテーション中級)	金子 憲一	秋	木3	2	1	養・経・法	105
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	秋	月4	2	1	養・経・法	106
(Word中級)	松山 恵美子	春	月1	2	1	養・経・法	107
(Word中級)	松山 恵美子	秋	月1	2	1	養・経・法	107
(Word中級)	金子 憲一	秋	月3	2	1	養・経・法	107
(Word中級)	金子 憲一	秋	月5	2	1	養・経・法	107
(Office中級)	松山 恵美子	春	月2	2	1	養・経・法	108
(Office中級)	休講						
(言語情報処理1)【2015年度以前入学者】/ (コーパス言語学a)【2016年度以降入学者】	羽山 恵	春	木2	2	2	英・養・経・法	109
(言語情報処理2)【2015年度以前入学者】/ (コーパス言語学b)【2016年度以降入学者】	羽山 恵	秋	木2	2	2	英・養・経・法	109
(HTML)情報科学各論	各担当教員						
(HTML初級)	金子 憲一	春	月5	2	1	養・経・法	110
(HTML初級)	金子 憲一	春	木4	2	1	養・経・法	111
(HTML中級)	金子 憲一	秋	木4	2	1	養・経・法	111
経済原論a	野村 容康	春	木3	2	2	養・経・法	112
経済原論b	野村 容康	秋	木3	2	2	養・経・法	112
社会心理学a	樋口 匡貴	春	金2	2	2	養・経・法	113
社会心理学b	樋口 匡貴	秋	金2	2	2	養・経・法	113
社会心理学b	樋口 匡貴	秋	金3	2	2	養・経・法	114

※定員のある科目はオンライン登録による抽選となります。必ず抽選結果を確認してください。  
 ※「情報科学各論(情報処理演習)」は言語が異なる場合でも重複履修はできません。

# フランス語学科シラバス

09年度以降	フランス語Ⅰ（文法）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
1年間でフランス語文法の概略を学ぶことを目的としています。未修クラスは週2回、既修クラスは週1回授業が行われます。使用教材や授業の進め方については、最初の授業時に各クラスの担当教員より説明があります。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション・音と綴り</li> <li>2. 基本的な動詞の活用</li> <li>3. 名詞・冠詞・形容詞</li> <li>4. 疑問文</li> <li>5. 否定文</li> <li>6. 指示形容詞・所有形容詞・数形容詞</li> <li>7. 直接法現在の活用1</li> <li>8. 直接法現在の活用2</li> <li>9. 直接法現在の活用3</li> <li>10. 命令法</li> <li>11. 疑問詞</li> <li>12. 近接未来と近接過去</li> <li>13. 半過去</li> <li>14. 複合過去</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>*クラスによって使用教材と進度が異なるため、各回の内容はここに挙げた項目と異なることがあります。</p>	
<b>到達目標</b>	フランス語の文法と時制、代名詞といった基礎的な文法項目を理解し、運用できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。		
<b>テキスト</b>	文法の教科書は担当教員から指示があります。		
<b>参考文献</b>	必要に応じて各担当教員から指示。		
<b>評価方法</b>	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。		

09年度以降	フランス語Ⅱ（文法）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
1年間でフランス語文法の概略を学ぶことを目的としています。未修クラスは週2回、既修クラスは週1回授業が行われます。使用教材や授業の進め方については、最初の授業時に各クラスの担当教員より説明があります。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション・音と綴り</li> <li>2. 基本的な動詞の活用</li> <li>3. 名詞・冠詞・形容詞</li> <li>4. 疑問文</li> <li>5. 否定文</li> <li>6. 指示形容詞・所有形容詞・数形容詞</li> <li>7. 直接法現在の活用1</li> <li>8. 直接法現在の活用2</li> <li>9. 直接法現在の活用3</li> <li>10. 命令法</li> <li>11. 疑問詞</li> <li>12. 近接未来と近接過去</li> <li>13. 半過去</li> <li>14. 複合過去</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>*クラスによって使用教材と進度が異なるため、各回の内容はここに挙げた項目と異なることがあります。</p>	
<b>到達目標</b>	フランス語の文法と時制、代名詞といった基礎的な文法項目を理解し、運用できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。		
<b>テキスト</b>	文法の教科書は担当教員から指示があります。		
<b>参考文献</b>	必要に応じて各担当教員から指示。		
<b>評価方法</b>	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。		

09年度以降	フランス語Ⅰ（講読）（既修クラスのみ履修）	担当者	若森 栄樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Antoine de Saint-Exupéryの「Le Petit Prince」を一年かけて通読します。この本は日本でもよく読まれています。フランス語で読まないとは本当の意味はわかりません。文の一つ一つに現れているフランス語の微妙な表現を通じて普通とは異なるものの見方、考え方を身に付けるのが授業の目的です。それはみなさんが生きていく上で大きな助けとなるでしょう。</p> <p>授業ではみなさんに当てて訳してもらいだけでなく、テキストに登場する単語や言い回し、構文などについてのexercicesも行う予定です。</p> <p>毎回担当を決めて授業を進めるので、当たった人はきちんと下調べをしてください。</p>		<p>第1回 インTRODakションと第1章</p> <p>第2回 第2章</p> <p>第3回 第3章</p> <p>第4回 第4章</p> <p>第5回 第5章</p> <p>第6回 第6章</p> <p>第7回 第7章</p> <p>第8回 第8章</p> <p>第9回 第9章</p> <p>第10回 第10章</p> <p>第11回 第11章</p> <p>第12回 第12章</p> <p>第13回 第13章</p> <p>第14回 第14章</p> <p>第15回 まとめ</p>	
<b>到達目標</b>	文法事項を踏まえて体系的な文章を講読し、フランス語の基礎的な語彙や表現を習得し、運用できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	下調べをしっかりと行うこと、文法問題などを家で解くこと。		
<b>テキスト</b>	Antoine de Sant-Exupéry, <i>Le Petit Prince</i> , Folio		
<b>参考文献</b>	必要があれば授業の際指示します。		
<b>評価方法</b>	授業への参加度、及び学期末テストの結果		

09年度以降	フランス語Ⅱ（講読）（既修クラスのみ履修）	担当者	若森 栄樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Antoine de Saint-Exupéryの「Le Petit Prince」を一年かけて通読します。この本は日本でもよく読まれています。フランス語で読まないとは本当の意味はわかりません。文の一つ一つに現れているフランス語の微妙な表現を通じて、普通とは異なるものの見方、考え方を身に付けるのが授業の目的です。それはみなさんが生きていく上で大きな助けとなるでしょう。</p> <p>授業ではみなさんに当てて訳してもらいだけでなく、テキストに登場する単語や言い回し、構文などについてのexercicesも行う予定です。</p> <p>毎回担当を決めて授業を進めるので、当たった人はきちんと下調べをしてください。</p>		<p>第1回 第15章</p> <p>第2回 第16章</p> <p>第3回 第17章</p> <p>第4回 第18章</p> <p>第5回 第19章</p> <p>第6回 第20章</p> <p>第7回 第21章（1）</p> <p>第8回 第21章（2）</p> <p>第9回 第22章と23章</p> <p>第10回 第24章</p> <p>第11回 第25章</p> <p>第12回 第26章</p> <p>第13回 第27章（1）</p> <p>第14回 第27章（2）</p> <p>第15回 まとめ</p>	
<b>到達目標</b>	文法事項を踏まえて体系的な文章を講読し、フランス語の基礎的な語彙や表現を習得し、運用できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	下調べをしっかりと行うこと、文法問題などを家で解くこと。		
<b>テキスト</b>	Antoine de Sant-Exupéry, <i>Le Petit Prince</i> , Folio		
<b>参考文献</b>	必要があれば授業の際指示します。		
<b>評価方法</b>	授業への参加度、及び学期末テストの結果		

09年度以降	フランス語Ⅰ（総合）	担当者	各担当教員																																
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>																																	
<p>この授業はフランス語の実力を総合的に養うことを目的としています。授業は週2回あり（同日2コマ連続）、未修クラスは「LL」、「会話」と同じ教科書<i>Amical 1</i>を用います。既修クラスでは「LL」と同じ<i>Totem 2</i>を使います。</p> <p>未修クラスでは特に文法や語彙の修得に中心を置きます。</p> <p>各課の最初にあるdialogueの理解、関連した文法事項の学習、口頭練習、練習問題を通して、フランス語の基礎となる知識と基本的な表現を確実に身につけてゆきます。</p> <p>既修クラスではネイティブ・スピーカーが授業を担当し、会話を中心に、総合的な運用能力を身につけることを目標にします。</p> <p>授業の進め方については、各担当教員から説明があります。</p>		<table border="0"> <tr> <td><i>Amical 1</i></td> <td><i>Totem 2</i></td> </tr> <tr> <td>1. Leçon 0</td> <td>Dossier 1-Leçon 1</td> </tr> <tr> <td>2. Unité 1-Leçon 1~2</td> <td>Dossier 1-Leçon 2</td> </tr> <tr> <td>3. Unité 1-Leçon 1~2</td> <td>Dossier 1-Leçon 3</td> </tr> <tr> <td>4. Unité 1-Leçon 1~2</td> <td>Dossier 1-Leçon 4</td> </tr> <tr> <td>5. Unité 1-Leçon 3~4</td> <td>Révision</td> </tr> <tr> <td>6. Unité 1-Leçon 3~4</td> <td>Dossier 2-Leçon 5</td> </tr> <tr> <td>7. Unité 1-Leçon 3~4</td> <td>Dossier 2-Leçon 6</td> </tr> <tr> <td>8. Unité 2-Leçon 5~6</td> <td>Dossier 2-Leçon 7</td> </tr> <tr> <td>9. Unité 2-Leçon 5~6</td> <td>Dossier 2-Leçon 8</td> </tr> <tr> <td>10. Unité 2-Leçon 5~6</td> <td>Révision</td> </tr> <tr> <td>11. Unité 2-Leçon 7~8</td> <td>Dossier 3-Leçon 9</td> </tr> <tr> <td>12. Unité 2-Leçon 7~8</td> <td>Dossier 3-Leçon 10</td> </tr> <tr> <td>13. Unité 2-Leçon 7~8</td> <td>Dossier 3-Leçon 11</td> </tr> <tr> <td>14. Révision</td> <td>Dossier 3-Leçon 12</td> </tr> <tr> <td>15. Révision</td> <td>Révision</td> </tr> </table> <p>※原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。</p>		<i>Amical 1</i>	<i>Totem 2</i>	1. Leçon 0	Dossier 1-Leçon 1	2. Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1-Leçon 2	3. Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1-Leçon 3	4. Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1-Leçon 4	5. Unité 1-Leçon 3~4	Révision	6. Unité 1-Leçon 3~4	Dossier 2-Leçon 5	7. Unité 1-Leçon 3~4	Dossier 2-Leçon 6	8. Unité 2-Leçon 5~6	Dossier 2-Leçon 7	9. Unité 2-Leçon 5~6	Dossier 2-Leçon 8	10. Unité 2-Leçon 5~6	Révision	11. Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 3-Leçon 9	12. Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 3-Leçon 10	13. Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 3-Leçon 11	14. Révision	Dossier 3-Leçon 12	15. Révision	Révision
<i>Amical 1</i>	<i>Totem 2</i>																																		
1. Leçon 0	Dossier 1-Leçon 1																																		
2. Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1-Leçon 2																																		
3. Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1-Leçon 3																																		
4. Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1-Leçon 4																																		
5. Unité 1-Leçon 3~4	Révision																																		
6. Unité 1-Leçon 3~4	Dossier 2-Leçon 5																																		
7. Unité 1-Leçon 3~4	Dossier 2-Leçon 6																																		
8. Unité 2-Leçon 5~6	Dossier 2-Leçon 7																																		
9. Unité 2-Leçon 5~6	Dossier 2-Leçon 8																																		
10. Unité 2-Leçon 5~6	Révision																																		
11. Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 3-Leçon 9																																		
12. Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 3-Leçon 10																																		
13. Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 3-Leçon 11																																		
14. Révision	Dossier 3-Leçon 12																																		
15. Révision	Révision																																		
<b>到達目標</b>	フランス語の基礎的な文法、語彙、文語・口語表現を総合的に習得し、運用できるようにする。																																		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。																																		
<b>テキスト</b>	未修クラス： <i>Amical 1</i> 既修クラス： <i>Totem 2</i>																																		
<b>参考文献</b>	必要に応じて各担当教員から指示。																																		
<b>評価方法</b>	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。																																		

09年度以降	フランス語Ⅱ（総合）	担当者	各担当教員																																
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>																																	
<p>この授業はフランス語の実力を総合的に養うことを目的としています。授業は週2回あり（同日2コマ連続）、未修クラスは「LL」、「会話」と同じ教科書<i>Amical 1</i>を用います。既修クラスでは「LL」と同じ<i>Totem 2</i>を使います。</p> <p>未修クラスでは特に文法や語彙の修得に中心を置きます。</p> <p>各課の最初にあるdialogueの理解、関連した文法事項の学習、口頭練習、練習問題を通して、フランス語の基礎となる知識と基本的な表現を確実に身につけてゆきます。</p> <p>既修クラスではネイティブ・スピーカーが授業を担当し、会話を中心に、総合的な運用能力を身につけることを目標にします。</p> <p>授業の進め方については、各担当教員から説明があります。</p>		<table border="0"> <tr> <td><i>Amical 1</i></td> <td><i>Totem 2</i></td> </tr> <tr> <td>1. 春学期の復習</td> <td>Dossiers 4-Leçon 13</td> </tr> <tr> <td>2. Unité 3-Leçon 9~10</td> <td>Dossiers 4-Leçon 14</td> </tr> <tr> <td>3. Unité 3-Leçon 9~10</td> <td>Dossiers 4-Leçon 15</td> </tr> <tr> <td>4. Unité 3-Leçon 9~10</td> <td>Dossiers 4-Leçon 16</td> </tr> <tr> <td>5. Unité 3-Leçon 11~12</td> <td>Révision</td> </tr> <tr> <td>6. Unité 3-Leçon 11~12</td> <td>Dossiers 5-Leçon 17</td> </tr> <tr> <td>7. Unité 3-Leçon 11~12</td> <td>Dossiers 5-Leçon 18</td> </tr> <tr> <td>8. Unité 4-Leçon 13~14</td> <td>Dossiers 5-Leçon 19</td> </tr> <tr> <td>9. Unité 4-Leçon 13~14</td> <td>Dossiers 5-Leçon 20</td> </tr> <tr> <td>10. Unité 4-Leçon 13~14</td> <td>Révision</td> </tr> <tr> <td>11. Unité 4-Leçon 15~16</td> <td>Dossiers 6-Leçon 21</td> </tr> <tr> <td>12. Unité 4-Leçon 15~16</td> <td>Dossiers 6-Leçon 22</td> </tr> <tr> <td>13. Unité 4-Leçon 15~16</td> <td>Dossiers 6-Leçon 23</td> </tr> <tr> <td>14. Révision</td> <td>Dossiers 6-Leçon 24</td> </tr> <tr> <td>15. Révision</td> <td>Révision</td> </tr> </table> <p>※原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。</p>		<i>Amical 1</i>	<i>Totem 2</i>	1. 春学期の復習	Dossiers 4-Leçon 13	2. Unité 3-Leçon 9~10	Dossiers 4-Leçon 14	3. Unité 3-Leçon 9~10	Dossiers 4-Leçon 15	4. Unité 3-Leçon 9~10	Dossiers 4-Leçon 16	5. Unité 3-Leçon 11~12	Révision	6. Unité 3-Leçon 11~12	Dossiers 5-Leçon 17	7. Unité 3-Leçon 11~12	Dossiers 5-Leçon 18	8. Unité 4-Leçon 13~14	Dossiers 5-Leçon 19	9. Unité 4-Leçon 13~14	Dossiers 5-Leçon 20	10. Unité 4-Leçon 13~14	Révision	11. Unité 4-Leçon 15~16	Dossiers 6-Leçon 21	12. Unité 4-Leçon 15~16	Dossiers 6-Leçon 22	13. Unité 4-Leçon 15~16	Dossiers 6-Leçon 23	14. Révision	Dossiers 6-Leçon 24	15. Révision	Révision
<i>Amical 1</i>	<i>Totem 2</i>																																		
1. 春学期の復習	Dossiers 4-Leçon 13																																		
2. Unité 3-Leçon 9~10	Dossiers 4-Leçon 14																																		
3. Unité 3-Leçon 9~10	Dossiers 4-Leçon 15																																		
4. Unité 3-Leçon 9~10	Dossiers 4-Leçon 16																																		
5. Unité 3-Leçon 11~12	Révision																																		
6. Unité 3-Leçon 11~12	Dossiers 5-Leçon 17																																		
7. Unité 3-Leçon 11~12	Dossiers 5-Leçon 18																																		
8. Unité 4-Leçon 13~14	Dossiers 5-Leçon 19																																		
9. Unité 4-Leçon 13~14	Dossiers 5-Leçon 20																																		
10. Unité 4-Leçon 13~14	Révision																																		
11. Unité 4-Leçon 15~16	Dossiers 6-Leçon 21																																		
12. Unité 4-Leçon 15~16	Dossiers 6-Leçon 22																																		
13. Unité 4-Leçon 15~16	Dossiers 6-Leçon 23																																		
14. Révision	Dossiers 6-Leçon 24																																		
15. Révision	Révision																																		
<b>到達目標</b>	フランス語の基礎的な文法、語彙、文語・口語表現を総合的に習得し、運用できるようにする。																																		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。																																		
<b>テキスト</b>	未修クラス： <i>Amical 1</i> 既修クラス： <i>Totem 2</i>																																		
<b>参考文献</b>	必要に応じて各担当教員から指示。																																		
<b>評価方法</b>	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。																																		

09年度以降	フランス語Ⅰ (TP) (既修クラスのみ履修)	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>フランスには、英語におけるTOEICのようなTest de connaissance du français (以下TCF) と呼ばれる資格試験があります。フランスの大学編入に使えるフランス語資格はこれしかありません。本学でも12月にこの試験を実施しています。</p> <p>この授業では、TCFの模擬テスト練習を通じて受講者の総合的なフランス語力レベルアップを目指します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業概要の説明、キーボード入力練習</li> <li>2. TCF対策模擬テスト練習と解説</li> <li>3. "</li> <li>4. "</li> <li>5. "</li> <li>6. "</li> <li>7. "</li> <li>8. "</li> <li>9. "</li> <li>10. "</li> <li>11. "</li> <li>12. "</li> <li>13. "</li> <li>14. "</li> <li>15. "</li> </ol>	
到達目標	PC等を使った学習により、フランス語の基礎、および、フランスに関する情報に自らアクセスする方法の基礎を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テスト練習で間違えた箇所を確認し次に備えること。		
テキスト	プリントで配付		
参考文献	授業中に指示		
評価方法	定期試験 50%、平常点 50%		

09年度以降	フランス語Ⅱ (TP) (既修クラスのみ履修)	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. TCF対策模擬テスト練習と解説</li> <li>2. "</li> <li>3. "</li> <li>4. "</li> <li>5. "</li> <li>6. "</li> <li>7. "</li> <li>8. "</li> <li>9. "</li> <li>10. "</li> <li>11. "</li> <li>12. "</li> <li>13. "</li> <li>14. "</li> <li>15. "</li> </ol>	
到達目標	PC等を使った学習により、フランス語の基礎、および、フランスに関する情報に自らアクセスする方法の基礎を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テスト練習で間違えた箇所を確認し次に備えること。		
テキスト	プリントで配付		
参考文献	授業中に指示		
評価方法	定期試験 50%、平常点 50%		

09年度以降	フランス語Ⅰ（会話）（未修クラスのみ履修）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業はフランス語の運用能力をつけることを目的としています。フランス語のネイティブ・スピーカーが担当して、特に会話と決まった言い回しの修得を中心とした授業になります。教科書は、「総合」「LL」と連動して、同じ<i>Amical 1</i>を使用します。</p> <p>授業の進め方については各担当教員から説明があります。</p>		<p><i>Amical 1</i></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Leçon 0</li> <li>2. Unité 1-Leçon 1~2</li> <li>3. Unité 1-Leçon 1~2</li> <li>4. Unité 1-Leçon 1~2</li> <li>5. Unité 1-Leçon 3~4</li> <li>6. Unité 1-Leçon 3~4</li> <li>7. Unité 1-Leçon 3~4</li> <li>8. Unité 2-Leçon 5~6</li> <li>9. Unité 2-Leçon 5~6</li> <li>10. Unité 2-Leçon 5~6</li> <li>11. Unité 2-Leçon 7~8</li> <li>12. Unité 2-Leçon 7~8</li> <li>13. Unité 2-Leçon 7~8</li> <li>14. Révision</li> <li>15. Révision</li> </ol> <p>※原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。</p>	
到達目標	基礎的な事柄について口述のやりとりができるフランス語会話力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。		
テキスト	<i>Amical 1</i>		
参考文献	必要に応じて各担当教員から指示。		
評価方法	平常点と学期末試験（担当教員から指示があります）。		

09年度以降	フランス語Ⅱ（会話）（未修クラスのみ履修）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業はフランス語の運用能力をつけることを目的としています。フランス語のネイティブ・スピーカーが担当して、特に会話と決まった言い回しの修得を中心とした授業になります。教科書は、「総合」「LL」と連動して、同じ<i>Amical 1</i>を使用します。</p> <p>授業の進め方については各担当教員から説明があります。</p>		<p><i>Amical 1</i></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 春学期の復習</li> <li>2. Unité 3-Leçon 9~10</li> <li>3. Unité 3-Leçon 9~10</li> <li>4. Unité 3-Leçon 9~10</li> <li>5. Unité 3-Leçon 11~12</li> <li>6. Unité 3-Leçon 11~12</li> <li>7. Unité 3-Leçon 11~12</li> <li>8. Unité 4-Leçon 13~14</li> <li>9. Unité 4-Leçon 13~14</li> <li>10. Unité 4-Leçon 13~14</li> <li>11. Unité 4-Leçon 15~16</li> <li>12. Unité 4-Leçon 15~16</li> <li>13. Unité 4-Leçon 15~16</li> <li>14. Révision</li> <li>15. Révision</li> </ol> <p>※原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。</p>	
到達目標	基礎的な事柄について口述のやりとりができるフランス語会話力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。		
テキスト	<i>Amical 1</i>		
参考文献	必要に応じて各担当教員から指示。		
評価方法	平常点と学期末試験（担当教員から指示があります）。		

09年度以降	フランス語 I (LL)	担当者	各担当教員																																
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>																																	
<p>この授業では、発音、綴り字と音、聞き取りの練習に力を入れます。未修クラスでは「総合」や「会話」と同じ教科書Amical 1、既修クラスでは「総合」と同じTotem 2を使用します。どちらのクラスも通常この授業はCAL教室で行います。</p> <p>授業の進め方については各担当教員から説明があります。</p>		<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"><i>Amical 1</i></td> <td style="vertical-align: top;"><i>Totem 2</i></td> </tr> <tr> <td>1. Leçon 0</td> <td>Dossier 1-Leçon 1</td> </tr> <tr> <td>2. Unité 1-Leçon 1~2</td> <td>Dossier 1-Leçon 2</td> </tr> <tr> <td>3. Unité 1-Leçon 1~2</td> <td>Dossier 1-Leçon 3</td> </tr> <tr> <td>4. Unité 1-Leçon 1~2</td> <td>Dossier 1-Leçon 4</td> </tr> <tr> <td>5. Unité 1-Leçon 3~4</td> <td>Révision</td> </tr> <tr> <td>6. Unité 1-Leçon 3~4</td> <td>Dossier 2-Leçon 5</td> </tr> <tr> <td>7. Unité 1-Leçon 3~4</td> <td>Dossier 2-Leçon 6</td> </tr> <tr> <td>8. Unité 2-Leçon 5~6</td> <td>Dossier 2-Leçon 7</td> </tr> <tr> <td>9. Unité 2-Leçon 5~6</td> <td>Dossier 2-Leçon 8</td> </tr> <tr> <td>10. Unité 2-Leçon 5~6</td> <td>Révision</td> </tr> <tr> <td>11. Unité 2-Leçon 7~8</td> <td>Dossier 3-Leçon 9</td> </tr> <tr> <td>12. Unité 2-Leçon 7~8</td> <td>Dossier 3-Leçon 10</td> </tr> <tr> <td>13. Unité 2-Leçon 7~8</td> <td>Dossier 3-Leçon 11</td> </tr> <tr> <td>14. Révision</td> <td>Dossier 3-Leçon 12</td> </tr> <tr> <td>15. Révision</td> <td>Révision</td> </tr> </table> <p>※原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。</p>		<i>Amical 1</i>	<i>Totem 2</i>	1. Leçon 0	Dossier 1-Leçon 1	2. Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1-Leçon 2	3. Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1-Leçon 3	4. Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1-Leçon 4	5. Unité 1-Leçon 3~4	Révision	6. Unité 1-Leçon 3~4	Dossier 2-Leçon 5	7. Unité 1-Leçon 3~4	Dossier 2-Leçon 6	8. Unité 2-Leçon 5~6	Dossier 2-Leçon 7	9. Unité 2-Leçon 5~6	Dossier 2-Leçon 8	10. Unité 2-Leçon 5~6	Révision	11. Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 3-Leçon 9	12. Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 3-Leçon 10	13. Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 3-Leçon 11	14. Révision	Dossier 3-Leçon 12	15. Révision	Révision
<i>Amical 1</i>	<i>Totem 2</i>																																		
1. Leçon 0	Dossier 1-Leçon 1																																		
2. Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1-Leçon 2																																		
3. Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1-Leçon 3																																		
4. Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1-Leçon 4																																		
5. Unité 1-Leçon 3~4	Révision																																		
6. Unité 1-Leçon 3~4	Dossier 2-Leçon 5																																		
7. Unité 1-Leçon 3~4	Dossier 2-Leçon 6																																		
8. Unité 2-Leçon 5~6	Dossier 2-Leçon 7																																		
9. Unité 2-Leçon 5~6	Dossier 2-Leçon 8																																		
10. Unité 2-Leçon 5~6	Révision																																		
11. Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 3-Leçon 9																																		
12. Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 3-Leçon 10																																		
13. Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 3-Leçon 11																																		
14. Révision	Dossier 3-Leçon 12																																		
15. Révision	Révision																																		
<b>到達目標</b>	フランス語の発音・リズム、綴りと発音に関する基礎を理解し、運用できるようにする。																																		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前に教科書に目を通す、音源を聞いて練習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。																																		
<b>テキスト</b>	未修クラス： <i>Amical 1</i> 既修クラス： <i>Totem 2</i>																																		
<b>参考文献</b>	必要に応じて各担当教員から指示。																																		
<b>評価方法</b>	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。																																		

09年度以降	フランス語 II (LL)	担当者	各担当教員																																
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>																																	
<p>この授業では、発音、綴り字と音、聞き取りの練習に力を入れます。未修クラスでは「総合」や「会話」と同じ教科書Amical 1、既修クラスでは「総合」と同じTotem 2を使用します。どちらのクラスも通常この授業はCAL教室で行います。</p> <p>授業の進め方については各担当教員から説明があります。</p>		<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"><i>Amical 1</i></td> <td style="vertical-align: top;"><i>Totem 2</i></td> </tr> <tr> <td>1. 春学期の復習</td> <td>Dossier 4-Leçon 13</td> </tr> <tr> <td>2. Unité 3-Leçon 9~10</td> <td>Dossier 4-Leçon 14</td> </tr> <tr> <td>3. Unité 3-Leçon 9~10</td> <td>Dossier 4-Leçon 15</td> </tr> <tr> <td>4. Unité 3-Leçon 9~10</td> <td>Dossier 4-Leçon 16</td> </tr> <tr> <td>5. Unité 3-Leçon 11~12</td> <td>Révision</td> </tr> <tr> <td>6. Unité 3-Leçon 11~12</td> <td>Dossier 5-Leçon 17</td> </tr> <tr> <td>7. Unité 3-Leçon 11~12</td> <td>Dossier 5-Leçon 18</td> </tr> <tr> <td>8. Unité 4-Leçon 13~14</td> <td>Dossier 5-Leçon 19</td> </tr> <tr> <td>9. Unité 4-Leçon 13~14</td> <td>Dossier 5-Leçon 20</td> </tr> <tr> <td>10. Unité 4-Leçon 13~14</td> <td>Révision</td> </tr> <tr> <td>11. Unité 4-Leçon 15~16</td> <td>Dossier 6-Leçon 21</td> </tr> <tr> <td>12. Unité 4-Leçon 15~16</td> <td>Dossier 6-Leçon 22</td> </tr> <tr> <td>13. Unité 4-Leçon 15~16</td> <td>Dossier 6-Leçon 23</td> </tr> <tr> <td>14. Révision</td> <td>Dossier 6-Leçon 24</td> </tr> <tr> <td>15. Révision</td> <td>Révision</td> </tr> </table> <p>※原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。</p>		<i>Amical 1</i>	<i>Totem 2</i>	1. 春学期の復習	Dossier 4-Leçon 13	2. Unité 3-Leçon 9~10	Dossier 4-Leçon 14	3. Unité 3-Leçon 9~10	Dossier 4-Leçon 15	4. Unité 3-Leçon 9~10	Dossier 4-Leçon 16	5. Unité 3-Leçon 11~12	Révision	6. Unité 3-Leçon 11~12	Dossier 5-Leçon 17	7. Unité 3-Leçon 11~12	Dossier 5-Leçon 18	8. Unité 4-Leçon 13~14	Dossier 5-Leçon 19	9. Unité 4-Leçon 13~14	Dossier 5-Leçon 20	10. Unité 4-Leçon 13~14	Révision	11. Unité 4-Leçon 15~16	Dossier 6-Leçon 21	12. Unité 4-Leçon 15~16	Dossier 6-Leçon 22	13. Unité 4-Leçon 15~16	Dossier 6-Leçon 23	14. Révision	Dossier 6-Leçon 24	15. Révision	Révision
<i>Amical 1</i>	<i>Totem 2</i>																																		
1. 春学期の復習	Dossier 4-Leçon 13																																		
2. Unité 3-Leçon 9~10	Dossier 4-Leçon 14																																		
3. Unité 3-Leçon 9~10	Dossier 4-Leçon 15																																		
4. Unité 3-Leçon 9~10	Dossier 4-Leçon 16																																		
5. Unité 3-Leçon 11~12	Révision																																		
6. Unité 3-Leçon 11~12	Dossier 5-Leçon 17																																		
7. Unité 3-Leçon 11~12	Dossier 5-Leçon 18																																		
8. Unité 4-Leçon 13~14	Dossier 5-Leçon 19																																		
9. Unité 4-Leçon 13~14	Dossier 5-Leçon 20																																		
10. Unité 4-Leçon 13~14	Révision																																		
11. Unité 4-Leçon 15~16	Dossier 6-Leçon 21																																		
12. Unité 4-Leçon 15~16	Dossier 6-Leçon 22																																		
13. Unité 4-Leçon 15~16	Dossier 6-Leçon 23																																		
14. Révision	Dossier 6-Leçon 24																																		
15. Révision	Révision																																		
<b>到達目標</b>	フランス語の発音・リズム、綴りと発音に関する基礎を理解し、運用できるようにする。																																		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前に教科書に目を通す、音源を聞いて練習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。																																		
<b>テキスト</b>	未修クラス： <i>Amical 1</i> 既修クラス： <i>Totem 2</i>																																		
<b>参考文献</b>	必要に応じて各担当教員から指示。																																		
<b>評価方法</b>	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。																																		

09年度以降	フランス語Ⅲ（文法）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>基礎フランス語の初級文法（文法Ⅰ、Ⅱ）を踏まえて、その内容を発展させたより詳細な文法を学びます。実際の言葉の表現の中で文法を活かして、正しいフランス語を修得することを目的とします。</p> <p>授業で使用する教材および進め方などについては、担当教員から具体的な指示・説明があります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 名詞の性と数</li> <li>2. 形容詞のはたらき</li> <li>3. 冠詞の使い方</li> <li>4. 指示形容詞と所有形容詞</li> <li>5. 疑問形容詞</li> <li>6. 不定形容詞</li> <li>7. 分量を表す表現</li> <li>8. 人称代名詞</li> <li>9. 再帰代名詞・代名動詞</li> <li>10. 中性代名詞</li> <li>11. 指示代名詞</li> <li>12. 不定代名詞</li> <li>13. 関係代名詞</li> <li>14. 否定の表現</li> <li>15. 直接話法と間接話法</li> </ol> <p>*クラスによって使用教材と進度が異なるため、各回の内容はここに挙げた項目と異なることがあります。</p>	
<b>到達目標</b>	フランス語の初級文法を理解し、運用できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。		
<b>テキスト</b>	文法の教科書は担当教員から指示があります。		
<b>参考文献</b>	必要に応じて各担当教員から指示。		
<b>評価方法</b>	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。		

09年度以降	フランス語Ⅳ（文法）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>基礎フランス語の初級文法（文法Ⅰ、Ⅱ）を踏まえて、その内容を発展させたより詳細な文法を学びます。実際の言葉の表現の中で文法を活かして、正しいフランス語を修得することを目的とします。</p> <p>授業で使用する教材および進め方などについては、担当教員から具体的な指示・説明があります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 動詞の法と時制</li> <li>2. 直接法現在・複合過去・半過去・大過去（1）</li> <li>3. 直接法現在・複合過去・半過去・大過去（2）</li> <li>4. 直接法単純過去・前過去・重複過去</li> <li>5. 北摂法単純未来・前未来</li> <li>6. 条件法現在</li> <li>7. 条件法過去</li> <li>8. 接続法現在</li> <li>9. 接続法過去</li> <li>10. 接続法半過去・大過去</li> <li>11. 命令法</li> <li>12. 不定法</li> <li>13. 現在分詞・ジェロンディフ</li> <li>14. 過去分詞</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>*クラスによって使用教材と進度が異なるため、各回の内容はここに挙げた項目と異なることがあります。</p>	
<b>到達目標</b>	フランス語の中級文法を理解し、運用できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。		
<b>テキスト</b>	文法の教科書は担当教員から指示があります。		
<b>参考文献</b>	必要に応じて各担当教員から指示。		
<b>評価方法</b>	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。		

09年度以降	フランス語Ⅲ（講読）	担当者	竹内 久雄
講義目的、講義概要		授業計画	
1) 初級文法の知識を実際のフランス語を読むことに応用する力をつける。(2) 絵画の説明を通して、事物を描写する力をつける。		(1) être, avoir, 提示表現 (2) être, avoir, 規則動詞, Jongkind 1 (3) être, avoir, 規則動詞, Jongkind 2 (4) 2つ目のタイプの動詞, Sisley 1 (5) 2つ目のタイプの動詞, Sisley 2 (6) 2つ目のタイプの動詞, Ingres 1 (7) 2つ目のタイプの動詞, Ingres 2 (8) まとめ, 復習 (9) 関係代名詞, 複文, Renoir 1 (10) 関係代名詞, 複文, Renoir 2 (11) 関係代名詞, 複文, Cézanne 1 (12) 関係代名詞, 複文, Cézanne 2 (13) 複合過去, Courbet 1 (14) 複合過去, Courbet 2 (15) 総まとめ	
到達目標	フランス語の初歩的なテキストを講読できる力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	前：文法部分を読んでおいてください。事後：本文内容を把握しているか確認してください。		
テキスト	中山真彦, オルセー美術館にて, 朝日出版社		
参考文献	白水社中級フランス語シリーズ		
評価方法	平常点（発表, 宿題など：50%）と期末試験（50%）		

09年度以降	フランス語Ⅳ（講読）	担当者	竹内 久雄
講義目的、講義概要		授業計画	
1) 初級文法の知識を実際のフランス語を読むことに応用する力をつける。(2) 絵画の説明を通して、事物を描写する力をつける。		(1) 複合過去, 半過去, Luce (2) 複合過去, 半過去, Luce 2 (3) 複合過去, 半過去, Seurat 1 (4) 複合過去, 半過去, Seurat 2 (5) 分詞, 大過去, Van Gogh 1 (6) 分詞, 大過去, Van Gogh 2 (7) 単純未来, 前未来, Degas 1 (8) 単純未来, 前未来, Degas 2 (9) 条件法, Monet 1 (10) 条件法, Monet 2 (11) 接続法, Rousseau 1 (12) 接続法, Rousseau 2 (13) まとめ Gauguin 1 (14) まとめ Gauguin 2 (15) 総まとめ	
到達目標	フランス語の初歩的なテキストを講読できる力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	前：文法部分を読んでおいてください。事後：本文内容を把握しているか確認してください。		
テキスト	中山真彦, オルセー美術館にて, 朝日出版社		
参考文献	白水社中級フランス語シリーズ		
評価方法	平常点（発表, 宿題など：50%）と期末試験（50%）		

09年度以降	フランス語Ⅲ（講読）	担当者	野澤 丈二
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>【講義目的】</b> フランス語圏に滞在したり、フランス語を話す友人ができたとき、まず最初に話題となるのは、自分自身に関する事柄です。この講義では、これまでに学んできたフランス語の能力を土台として、日本に関する基礎知識をフランス語で読み、理解し、説明できるようになることを目的とします。</p> <p><b>【講義概要】</b> 教材に沿って進行し、日本の地理、歴史、教育、政治・経済、信仰、日常生活、言語、伝統文化などを、フランスとの比較の視点を重視しながら考えていきます。 授業では、文法事項も再確認し、語彙やさまざまな表現も身に付けていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Leçon 1 : Tokyo et la mégalopole</li> <li>2. 文法事項と語彙の確認、小テスト</li> <li>3. Leçon 2 : D'Edo à Tokyo</li> <li>4. 文法事項と語彙の確認、小テスト</li> <li>5. Leçon 3 : Les Jeux Olympiques à Tokyo</li> <li>6. 文法事項と語彙の確認、小テスト</li> <li>7. Leçon 4 : L'éducation au Japon</li> <li>8. 文法事項と語彙の確認、小テスト</li> <li>9. Leçon 5 : Tokyo, capitale économique et politique</li> <li>10. 文法事項と語彙の確認、小テスト</li> <li>11. Leçon 6 : La religion des Japonais</li> <li>12. 文法事項と語彙の確認、小テスト</li> <li>13. Leçon 7 : Une journée à Tokyo</li> <li>14. 文法事項と語彙の確認、小テスト</li> <li>15. 試験とまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	フランス語の初歩的なテキストを講読できる力を習得し、運用できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	講読の授業です、予習は欠かさないようにしましょう。		
<b>テキスト</b>	ジェローム・ルボワ、井上櫻子『日本再発見！』（2016年、白水社）		
<b>参考文献</b>	授業時に適宜指示します		
<b>評価方法</b>	平常点（積極的な参加、授業内課題、小テストなど）と期末試験の結果を総合的に判断し、評価する。		

09年度以降	フランス語Ⅳ（講読）	担当者	野澤 丈二
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>【講義目的】</b> フランス語圏に滞在したり、フランス語を話す友人ができたとき、まず一番最初に話題となるのは、自分自身に関する事柄です。この講義では、これまでに学んできたフランス語の能力を土台として、日本に関する基礎知識をフランス語で読み、理解し、説明できるようになることを目的とします。</p> <p><b>【講義概要】</b> 教材に沿って進行し、日本の地理、歴史、教育、政治・経済、信仰、日常生活、言語、伝統文化などを、とりわけフランスとの比較の視点から考えていきます。 授業では、文法事項も再確認し、語彙やさまざまな表現も身に付けていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Leçon 8 : Une année à Tokyo</li> <li>2. 文法事項と語彙の確認、小テスト</li> <li>3. Leçon 9 : La langue japonaise</li> <li>4. 文法事項と語彙の確認、小テスト</li> <li>5. Leçon 10 : Tokyo traditionnel</li> <li>6. 文法事項と語彙の確認、小テスト</li> <li>7. Leçon 11 : Tokyo modern</li> <li>8. 文法事項と語彙の確認、小テスト</li> <li>9. Leçon 12 : Autour de Tokyo (1)</li> <li>10. 文法事項と語彙の確認、小テスト</li> <li>11. Leçon 13 : Autour de Tokyo (2)</li> <li>12. 文法事項と語彙の確認、小テスト</li> <li>13. Leçon 14 : Ukiyoe : les images du monde flottant</li> <li>14. 文法事項と語彙の確認、小テスト</li> <li>15. 試験とまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	フランス語の初歩的なテキストを講読できる力を習得し、運用できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	講読の授業です、予習は欠かさないようにしましょう。		
<b>テキスト</b>	ジェローム・ルボワ、井上櫻子『日本再発見！』（2016年、白水社）		
<b>参考文献</b>	授業時に適宜指示します		
<b>評価方法</b>	平常点（積極的な参加、授業内課題、小テストなど）と期末試験の結果を総合的に判断し、評価する。		

09年度以降	フランス語Ⅲ（講読）	担当者	若森 栄樹																														
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>																															
<p>この授業ではアルベール・カミュが20代で書いた小説 <i>L'étranger</i> を読みます。この作品には翻訳がありますが、フランス語で読まない本当にはわからないと私は思っています。春学期には第一部、秋学期には第二部を読みます。日常的なフランス語で書かれているので、読みやすいと思います。文法事項の <i>exercices</i> をするときもあります。</p> <p>毎回担当を決めるので、当たった人は必ず予習してください。この授業を通じてフランス語だけでなく、フランス文化、フランス人の生き方などに触れることができると考えています。</p>		<table border="1"> <tr><td>第1回</td><td>第1章（1）</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>第1章（2）</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>第1章（3）</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>第2章（1）</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>第3章（1）</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>第3章（2）</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>第4章（1）</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>第4章（2）</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>第5章（1）</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>第5章（2）</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>第6章（1）</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>第6章（2）</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>第6章（3）</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>第6章（4）</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>まとめ</td></tr> </table>		第1回	第1章（1）	第2回	第1章（2）	第3回	第1章（3）	第4回	第2章（1）	第5回	第3章（1）	第6回	第3章（2）	第7回	第4章（1）	第8回	第4章（2）	第9回	第5章（1）	第10回	第5章（2）	第11回	第6章（1）	第12回	第6章（2）	第13回	第6章（3）	第14回	第6章（4）	第15回	まとめ
第1回	第1章（1）																																
第2回	第1章（2）																																
第3回	第1章（3）																																
第4回	第2章（1）																																
第5回	第3章（1）																																
第6回	第3章（2）																																
第7回	第4章（1）																																
第8回	第4章（2）																																
第9回	第5章（1）																																
第10回	第5章（2）																																
第11回	第6章（1）																																
第12回	第6章（2）																																
第13回	第6章（3）																																
第14回	第6章（4）																																
第15回	まとめ																																
<b>到達目標</b>	フランス語の初歩的なテキストを講読できる力を習得し、運用できるようにする。																																
<b>事前・事後学修の内容</b>	当たった人は事前の予習を必ずすること																																
<b>テキスト</b>	Albert Camus, <i>L'étranger</i> , Folio (Gallimard)																																
<b>参考文献</b>	なし																																
<b>評価方法</b>	平常点及び期末試験の結果																																

09年度以降	フランス語Ⅳ（講読）	担当者	若森 栄樹																														
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>																															
<p>この授業ではアルベール・カミュが20代で書いた小説 <i>L'étranger</i> を読みます。この作品には翻訳がありますが、フランス語で読まない本当にはわからないと私は思っています。春学期には第一部、秋学期には第二部を読みます。日常的なフランス語で書かれているので、読みやすいと思います。文法事項の <i>exercices</i> をすることもあります。</p> <p>毎回担当を決めるので、当たった人は必ず予習してください。この授業を通じてフランス語だけでなく、フランス文化、フランス人の生き方などに触れることができると考えています。</p>		<table border="1"> <tr><td>第1回</td><td>第二部 第1章（1）</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>第1章（2）</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>第1章（3）</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>第2章（1）</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>第2章（2）</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>第2章（3）</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>第3章（1）</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>第3章（2）</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>第3章（3）</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>第4章（1）</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>第4章（2）</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>第4章（3）</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>第5章（1）</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>第5章（2）</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>第5章（3）</td></tr> </table>		第1回	第二部 第1章（1）	第2回	第1章（2）	第3回	第1章（3）	第4回	第2章（1）	第5回	第2章（2）	第6回	第2章（3）	第7回	第3章（1）	第8回	第3章（2）	第9回	第3章（3）	第10回	第4章（1）	第11回	第4章（2）	第12回	第4章（3）	第13回	第5章（1）	第14回	第5章（2）	第15回	第5章（3）
第1回	第二部 第1章（1）																																
第2回	第1章（2）																																
第3回	第1章（3）																																
第4回	第2章（1）																																
第5回	第2章（2）																																
第6回	第2章（3）																																
第7回	第3章（1）																																
第8回	第3章（2）																																
第9回	第3章（3）																																
第10回	第4章（1）																																
第11回	第4章（2）																																
第12回	第4章（3）																																
第13回	第5章（1）																																
第14回	第5章（2）																																
第15回	第5章（3）																																
<b>到達目標</b>	フランス語の初歩的なテキストを講読できる力を習得し、運用できるようにする。																																
<b>事前・事後学修の内容</b>	当たった人は事前の予習を必ずすること																																
<b>テキスト</b>	Albert Camus, <i>L'étranger</i> , Folio (Gallimard)																																
<b>参考文献</b>	なし																																
<b>評価方法</b>	平常点及び期末試験の結果																																

09年度以降	フランス語Ⅲ（講読）	担当者	福田 美雪
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>一年間に身につけたフランス語を活かし、より高度な内容でまとまった分量の文章を読みこなす力を身につけます。フランスの時事問題をいろいろな角度から扱った教科書を用い、文法と構文の正確な知識があれば、日本語に訳せる分量のテキストを読み進めていきます。</p> <p>必ず各課の予習をしてから授業にのぞむこと。授業内では毎回1人1回当たるペースで訳読をしてもらいます。授業には辞書をかならず持参すること。学期後半では授業内容に応じた課題をPorta経由で課すこともあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第1課（通読）</li> <li>2. 第1課（訳読、まとめ）</li> <li>3. 第2課（通読）</li> <li>4. 第2課（訳読、まとめ）</li> <li>5. 第3課（通読）</li> <li>6. 第3課（訳読、まとめ）</li> <li>7. 第4課（通読）</li> <li>8. 第4課（訳読、まとめ）</li> <li>9. 第5課（通読）</li> <li>10. 第5課（訳読、まとめ）</li> <li>11. 第6課（通読）</li> <li>12. 第6課（訳読、まとめ）</li> <li>13. 第7課（通読）</li> <li>14. 第7課（訳読、まとめ）</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	フランス語の初歩的なテキストを講読できる力を習得し、運用できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの予習と復習、翻訳課題		
<b>テキスト</b>	『A la page 時事フランス語 2018』（ミシェル・サガス、加藤晴久、朝日出版社）		
<b>参考文献</b>	授業内で指示		
<b>評価方法</b>	授業内での訳読（50%）、学期末試験（50%）		

09年度以降	フランス語Ⅳ（講読）	担当者	阿部 明日香
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>初等文法で学んだ知識を最大限活用し、フランス語で書かれた平易なテキストを読む力を養うことを目的とします。同時に、授業であつかうトピックを通じて、フランス（フランス語圏）の文化や社会などについても学んでいきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. フランスの歴史1</li> <li>3. フランスの歴史2</li> <li>4. フランスの歴史3</li> <li>5. フランスの歴史4</li> <li>6. フランスの文化1</li> <li>7. フランスの文化2</li> <li>8. フランスの文化3</li> <li>9. フランスの文化4</li> <li>10. 現代フランスの諸問題1</li> <li>11. 現代フランスの諸問題2</li> <li>12. 現代フランスの諸問題3</li> <li>13. 現代フランスの諸問題4</li> <li>14. まとめ1</li> <li>15. まとめ2</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	フランス語の初歩的なテキストを講読できる力を習得し、運用できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	辞書で単語の意味を調べるだけでなく、文法事項についても確認し、自分なりの訳をつくって授業に臨んでください。授業後は、授業で扱った箇所を読み返して重要事項を確認してください。		
<b>テキスト</b>	プリントを配布します。		
<b>参考文献</b>	授業中に適宜指示します。		
<b>評価方法</b>	平常点（30%）、学期末試験（70%）		

09年度以降	フランス語Ⅲ（講読）	担当者	鈴木 隆
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>フランス語テキストの講読を通して、フランス語の読解力および表現力を養うことを目的とする。</p> <p>授業では、フランスの社会・文化について多様な角度から論じたテキストを学生が音読し、内容の説明発表を行う。教師はそれについて論評し、テキストの正しい読み方および内容を示し、さらに関連した知識を教授する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 表現の自由</li> <li>2. 表現の自由／生地主義</li> <li>3. 生地主義</li> <li>4. フランス人＝ユダヤ人であること</li> <li>5. フランス人＝ユダヤ人であること／フランスの死刑廃止</li> <li>6. フランスの死刑廃止</li> <li>7. フランスの経済学者たち</li> <li>8. フランスの経済学者たち／ドローン</li> <li>9. ドローン</li> <li>10. 食料の浪費</li> <li>11. 食料の浪費／主日の安息</li> <li>12. 主日の安息</li> <li>13. フランスの出生率</li> <li>14. フランスの出生率／フランスの大麻問題</li> <li>15. フランスの大麻問題</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	フランス語の初歩的なテキストを講読できる力を習得し、運用できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前にテキストの音読、内容の下調べをし、事後に授業で得た知識を復習すること。		
<b>テキスト</b>	A la page（時事フランス語）		
<b>参考文献</b>	なし		
<b>評価方法</b>	授業中の発表および小テストの結果によって評価する。		

09年度以降	フランス語Ⅳ（講読）	担当者	鈴木 隆
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>フランス語テキストの講読を通して、フランス語の読解力および表現力を養うことを目的とする。</p> <p>授業では、フランスの社会・文化について多様な角度から論じたテキストを学生が音読し、内容の説明発表を行う。教師はそれについて論評し、テキストの正しい読み方および内容を示し、さらに関連した知識を教授する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. レジオン・ドヌール</li> <li>2. レジオン・ドヌール／アカデミー・フランセーズ</li> <li>3. アカデミー・フランセーズ</li> <li>4. オラドゥール・シュール・グラヌ</li> <li>5. オラドゥール・シュール・グラヌ／ラスコー洞窟</li> <li>6. ラスコー洞窟</li> <li>7. ディエン・ビエン・フー</li> <li>8. ディエン・ビエン・フー／カキ</li> <li>9. カキ</li> <li>10. セルジュ・ゲンズブール</li> <li>11. セルジュ・ゲンズブール／サンタクロース</li> <li>12. サンタクロース</li> <li>13. オリガミ</li> <li>14. オリガミ／チュニジア</li> <li>15. チュニジア</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	フランス語の初歩的なテキストを講読できる力を習得し、運用できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前にテキストの音読、内容の下調べをし、事後に授業で得た知識を復習すること。		
<b>テキスト</b>	A la page（時事フランス語）		
<b>参考文献</b>	なし		
<b>評価方法</b>	授業中の発表、小テストの結果によって評価する。		



09年度以降	フランス語Ⅲ (TP) (既修クラスのみ履修)	担当者	堀 晋也
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業の目的は、フランス語による日常的なやり取りの基礎となるリスニング力を習得することです。春学期では比較的ゆっくりとしたスピードでのやり取りを扱います。聞き取りの練習と並行して、その手がかりとなる文法や関連語彙についても学習していきます。</p> <p>授業は講義と演習を並行して行います。春学期はDELFのA2～B1に対応したリスニング教材を使用し、Dialogueの聞き取り練習と問題演習を行います。内容は日常的な場面でのやり取りを扱ったものとなっています。それぞれのLeçonごとにテーマとなっている文法や関連語彙が紹介されているので、必要に応じて説明をしていきます。</p>		<p>第1回 Unité 1 Leçon 1: Faire une rencontre  第2回 Unité 1 Leçon 2: Faire connaissance  第3回 Unité 1 Leçon 3: Sortir ensemble  第4回 Unité 2 Leçon 1: Organiser sa journée  第5回 Unité 2 Leçon 2: Faire des choix  第6回 Unité 2 Leçon 3: Garder la forme  第7回 Unité 3 Leçon 1: Louer un appartement  第8回 Unité 3 Leçon 2: Déménager  第9回 Unité 3 Leçon 3: S'installer  第10回 Unité 4 Leçon 1: Partager un repas  第11回 Unité 4 Leçon 2: Faire les courses  第12回 Unité 4 Leçon 3: Faire les magasins  第13回 Unité 5 Leçon 1: Découvrir la ville  第14回 Unité 5 Leçon 2: Voyager  第15回 Unité 5 Leçon 3: Aller en vacances</p>	
<b>到達目標</b>	フランス語のインターネットサイトやメディア等を活用して実践的なフランス語を習得し、運用できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	その週に扱った内容の音声ファイルとスクリプトを配布しますので、復習として繰り返し聞いておくこと		
<b>テキスト</b>	授業中に配布します		
<b>参考文献</b>	必要に応じて授業中に紹介します		
<b>評価方法</b>	平常点（授業での発言）40%，定期試験60%		

09年度以降	フランス語Ⅳ (TP) (既修クラスのみ履修)	担当者	堀 晋也
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業の目的は、フランス語による日常的なやり取りの基礎となるリスニング力を習得することです。秋学期ではより自然なスピードでのやり取りを扱います。聞き取りの練習と並行して、その手がかりとなる文法や関連語彙についても学習していきます。</p> <p>授業は講義と演習を並行して行います。秋学期はDELFのB1～B2に対応したリスニング教材を使用し、Dialogueの聞き取り練習と問題演習を行います。内容は春学期と同様に日常的な場面でのやり取りとなっています。それぞれのLeçonごとにテーマとなっている文法や関連語彙が紹介されているので、必要に応じて説明をしていきます。</p>		<p>第1回 Unité 1 Leçon 1: Trouver un emploi  第2回 Unité 1 Leçon 2: Faire carrière  第3回 Unité 1 Leçon 3: Rencontrer des difficultés  第4回 Unité 2 Leçon 1: Relater des faits passés  第5回 Unité 2 Leçon 2: Raconter la vie des gens  第6回 Unité 2 Leçon 3: Témoigner  第7回 Unité 3 Leçon 1: Pratiquer un sport  第8回 Unité 3 Leçon 2: Faire la fête  第9回 Unité 3 Leçon 3: Avoir des activités culturelles  第10回 Unité 4 Leçon 1: Vivre en famille  第11回 Unité 4 Leçon 2: Avoir des amis  第12回 Unité 4 Leçon 3: S'intéresser aux autres  第13回 Unité 5 Leçon 1: Découvrir l'information  第14回 Unité 5 Leçon 2: Se divertir  第15回 Unité 5 Leçon 3: Vivre connecté</p>	
<b>到達目標</b>	フランス語のインターネットサイトやメディア等を活用して実践的なフランス語を習得し、運用できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	その週に扱った内容の音声ファイルとスクリプトを配布しますので、復習として繰り返し聞いておくこと		
<b>テキスト</b>	授業中に配布します		
<b>参考文献</b>	必要に応じて授業中に紹介します		
<b>評価方法</b>	平常点（授業での発言）40%，定期試験60%		

09年度以降	フランス語Ⅲ（会話）（未修クラスのみ履修）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業はフランス語の運用能力をつけることを目的としています。フランス語のネイティブ・スピーカーが担当して、特に会話と決まった言い回しの修得を中心とした授業になります。教科書は、「総合」と連動して、同じ <i>Amical 1</i> を使用します。</p> <p>授業の進め方については各担当教員から説明があります。</p>		<p><i>Amical 1</i></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Unité 5-Leçon 17</li> <li>Unité 5-Leçon 17~18</li> <li>Unité 5-Leçon 18</li> <li>Unité 5-Leçon 19</li> <li>Unité 5-Leçon 19</li> <li>Unité 5-Leçon 20</li> <li>Unité 5-Leçon 20</li> <li>Unité 6-Leçon 21</li> <li>Unité 6-Leçon 21</li> <li>Unité 6-Leçon 22</li> <li>Unité 6-Leçon 22</li> <li>Unité 6-Leçon 23</li> <li>Unité 6-Leçon 23</li> <li>Unité 6-Leçon 24</li> <li>Unité 6-Leçon 24</li> </ol> <p>※原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。</p>	
到達目標	一般的な事柄について口述のやりとりができるフランス語会話力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。		
テキスト	<i>Amical 1</i>		
参考文献	必要に応じて各担当教員から指示。		
評価方法	平常点と学期末試験（担当教員から指示があります）。		

09年度以降	フランス語Ⅳ（会話）（未修クラスのみ履修）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業はフランス語の運用能力をつけることを目的としています。フランス語のネイティブ・スピーカーが担当して、特に会話と決まった言い回しの修得を中心とした授業になります。教科書は、「総合」と連動して、同じ <i>Amical 2</i> を使用します。</p> <p>授業の進め方については各担当教員から説明があります。</p>		<p><i>Amical 2</i></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Unité 1-Leçon 1</li> <li>Unité 1-Leçon 1~2</li> <li>Unité 1-Leçon 2</li> <li>Unité 1-Leçon 3</li> <li>Unité 1-Leçon 3</li> <li>Unité 1-Leçon 4</li> <li>Unité 1-Leçon 4</li> <li>Unité 2-Leçon 5</li> <li>Unité 2-Leçon 5</li> <li>Unité 2-Leçon 6</li> <li>Unité 2-Leçon 6</li> <li>Unité 2-Leçon 7</li> <li>Unité 2-Leçon 7</li> <li>Unité 2-Leçon 8</li> <li>Unité 2-Leçon 8</li> </ol> <p>※原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。</p>	
到達目標	一般的な事柄について口述のやりとりができるフランス語会話力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。		
テキスト	<i>Amical 1</i>		
参考文献	必要に応じて各担当教員から指示。		
評価方法	平常点と学期末試験（担当教員から指示があります）。		

09年度以降	フランス語Ⅲ（構文）	担当者	井上 美穂
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業の目的は、フランス語でよくつかわれる構文を獲得し、使えるようになることです。まず教科書である構文を学習し、練習問題を解きます。次に、2人でペアになり、学習した構文を使って何回も会話練習を行うことによって、構文を身につけます。最初の授業からパソコンを使いますので、パソコンにログインできるように準備しておいて下さい。練習問題の解答はすべてワード文書に記入し、そのワード文書をクラス全体でモニターで見ながら添削を加えます。この手法をとることにより、時間の節約ができて、全員の答を順次見ることができます。</p>		<p>第1回 不特定の数の表現  第2回 不特定の量の表現  第3回 数量の近似表現  第4回 人・物の不定名詞表現  第5回 人・物の不定冠詞・形容詞的表現  第6回 ばくぜんとした主語・動作主の表現  第7回 場所の状況表現  第8回 空間の状況表現  第9回 時間の状況表現  第10回 原因・理由の状況表現  第11回 方法・様態の状況表現  第12回 ～のようなもの  第13回 まるで・いわば・ほとんど  第14回 程度の表現「いくらか・少し」  第15回 程度の表現「やや・多少」</p>	
<b>到達目標</b>	フランス語構文の使い分けや応用を理解し、正字法にしたがって正しい文章を作成する作文力を習得し、運用できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	予習は必要ありません。授業で学習した構文の応用力を身につけるために、復習を行うことが大切です。		
<b>テキスト</b>	石野好一「フランス語ニュアンス表現練習帳」第三書房		
<b>参考文献</b>	参考文献の指定はありません。仏和辞書は必ず持参してください。		
<b>評価方法</b>	試験期間に行われるテストの得点で評価を行います。90点以上がAA、80点以上がA、70点以上がB、60点以上がC、60点未満は不可になります。		

09年度以降	フランス語Ⅳ（構文）	担当者	井上 美穂
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業の目的は、フランス語でよくつかわれる構文を獲得し、使えるようになることです。まず教科書である構文を学習し、練習問題を解きます。次に、2人でペアになり、学習した構文を使って何回も会話練習を行うことによって、構文を身につけます。最初の授業からパソコンを使いますので、パソコンにログインできるように準備しておいて下さい。練習問題の解答はすべてワード文書に記入し、そのワード文書をクラス全体でモニターで見ながら添削を加えます。この手法をとることにより、時間の節約ができて、全員の答を順次見ることができます。</p>		<p>第1回 程度の表現「半ば・半分」  第2回 程度の表現「まあまあ・なかなか」  第3回 程度の表現「とても・かなり」  第4回 叙法・時制のニュアンス  第5回 「かもしれない」「にちがいない」(1)  第6回 「かもしれない」「にちがいない」(2)  第7回 「たぶん」  第8回 「きっと」  第9回 「思う」  第10回 「ようだ」「そうだ」  第11回 「私としては」「～によれば」  第12回 否定  第13回 二重否定  第14回 依頼  第15回 疑問</p>	
<b>到達目標</b>	フランス語構文の使い分けや応用を理解し、正字法にしたがって正しい文章を作成する作文力を習得し、運用できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	予習は必要ありません。授業で学習した構文の応用力を身につけるために、復習を行うことが大切です。		
<b>テキスト</b>	石野好一「フランス語ニュアンス表現練習帳」第三書房		
<b>参考文献</b>	参考文献の指定はありません。仏和辞書は必ず持参してください。		
<b>評価方法</b>	試験期間に行われるテストの得点で評価を行います。90点以上がAA、80点以上がA、70点以上がB、60点以上がC、60点未満は不可になります。		

09年度以降	フランス語Ⅲ（構文）	担当者	藤田 朋久
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
1年次に学んだ初級文法の知識をもとに、フランス語で文章を書くために必要な構文の理解と表現の習得を目的とする授業です。下記の教科書を使用しますが、随時追加の練習問題を配布します。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンス</li> <li>2. 動詞の復習(1)</li> <li>3. 動詞の復習(2)</li> <li>4. être を使う(1)</li> <li>5. être を使う(2)</li> <li>6. avoir を使う(1)</li> <li>7. avoir を使う(2)</li> <li>8. まとめ</li> <li>9. 名詞と冠詞</li> <li>10. 形容詞</li> <li>11. 疑問表現(1)</li> <li>12. 疑問表現(2)</li> <li>13. 否定表現</li> <li>14. 命令表現</li> <li>15. 全体のまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	フランス語構文の使い分けや応用を理解し、正字法にしたがって正しい文章を作成する作文力を習得し、運用できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	練習問題を事前に解いて授業に臨んでください。また基本例文を繰り返し復習してください。		
<b>テキスト</b>	佐藤久美子・佐藤領時『フランス語で書こう！』白水社		
<b>参考文献</b>	授業で指示します。		
<b>評価方法</b>	平常点（10%）、小テスト（10%）、定期試験の成績（80%）を総合して評価します。		

09年度以降	フランス語Ⅳ（構文）	担当者	藤田 朋久
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
1年次に学んだ初級文法の知識をもとに、フランス語で文章を書くために必要な構文の理解と表現の習得を目的とする授業です。下記の教科書を使用しますが、随時追加の練習問題を配布します。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンス</li> <li>2. 文の構成(1)</li> <li>3. 文の構成(2)</li> <li>4. faire, prendre を使う</li> <li>5. 目的語の人称代名詞</li> <li>6. 中性代名詞</li> <li>7. 自動詞としても他動詞としても使う動詞</li> <li>8. 代名動詞</li> <li>9. まとめ</li> <li>10. 関係代名詞</li> <li>11. 非人称構文</li> <li>12. 比較級・最上級</li> <li>13. 過去分詞の性数一致</li> <li>14. 論理関係を示す</li> <li>15. 全体のまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	フランス語構文の使い分けや応用を理解し、正字法にしたがって正しい文章を作成する作文力を習得し、運用できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	練習問題を事前に解いて授業に臨んでください。また基本例文を繰り返し復習してください。		
<b>テキスト</b>	佐藤久美子・佐藤領時『フランス語で書こう！』白水社		
<b>参考文献</b>	授業で指示します。		
<b>評価方法</b>	平常点（10%）、小テスト（10%）、定期試験の成績（80%）を総合して評価します。		

09年度以降	フランス語Ⅲ (構文)	担当者	竹内 久雄
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>(1) 学習目標：フランス語についての中級レベルの知識，運用能力を深める。フランス語を様々な視点からとらえる力を養う。(2) 授業概要：中級レベルのフランス語をのついでの知識，運用能力を深める。問題練習としては，構文理解，作文，語彙を増やすこと(派生語，関連語，名詞化などにより)，論理的展開を助ける表現の理解などを試みます。クラスの数によっては聞き取り，書きとりも考えます。必要に応じて，基本文法の復習を行います。</p>		<p>(1) 動詞時制復習とまとめ 1  (2) 動詞時制復習とまとめ 2  (3) 動詞時制復習とまとめ 3  (4) 語彙を増やす. 1  (5) 語彙を増やす. 2  (6) 語彙を増やす. 3  (7) 文をつなぐ，論理的文章 1  (8) 文をつなぐ，論理的文章 2  (9) 文をつなぐ，論理的文章 3  (10) 文をつなぐ，論理的文章 4  (11) 動詞を使いこなす 1  (12) 動詞を使いこなす 2  (13) 動詞を使いこなす 3  (14) まとめと復習  (15) 総まとめ</p>	
<b>到達目標</b>	フランス語構文の使い分けや応用を理解し、正字法にしたがって正しい文章を作成する作文力を習得し、運用できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業と並行して初級文法の参考書を読む。		
<b>テキスト</b>	プリント使用		
<b>参考文献</b>	白水社中級フランス語シリーズ		
<b>評価方法</b>	平常点（発表，宿題など：50%）と期末試験（50%）		

09年度以降	フランス語Ⅳ (構文)	担当者	竹内 久雄
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>(1) 学習目標：フランス語についての中級レベルの知識，運用能力を深める。フランス語を様々な視点からとらえる力を養う。(2) 授業概要：中級レベルのフランス語をのついでの知識，運用能力を深める。問題練習としては，構文理解，作文，語彙を増やすこと(派生語，関連語，名詞化などにより)，論理的展開を助ける表現の理解などを試みます。クラスの数によっては聞き取り，書きとりも考えます。必要に応じて，基本文法の復習を行います。</p>		<p>(1) 動詞時制応用 1  (2) 動詞時制応用 2  (3) 動詞時制応用 3  (4) 複文に慣れる 1  (5) 複文に慣れる 2  (6) 複文に慣れる 3  (7) 文をつなぐ，論理的文章・分詞表現 1  (8) 文をつなぐ，論理的文章・分詞表現 2  (9) 文をつなぐ，論理的文章・分詞表現 3  (10) 分詞表現  (11) 分詞表現  (12) 語彙を増やす(同義語，名詞化など). 1  (13) 語彙を増やす(同義語，名詞化など). 2  (14) まとめと復習  (15) 総まとめ</p>	
<b>到達目標</b>	フランス語構文の使い分けや応用を理解し、正字法にしたがって正しい文章を作成する作文力を習得し、運用できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業と並行して初級文法の参考書を読む。		
<b>テキスト</b>	プリント使用		
<b>参考文献</b>	白水社中級フランス語シリーズ		
<b>評価方法</b>	平常点（発表，宿題など：50%）と期末試験（50%）		

09年度以降	フランス語Ⅲ（構文）	担当者	木田 剛
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的</p> <p>この授業では1年次に習得した初級文法の知識を基礎にして、フランス語で文章を書くために必要な構文の理解と定着を目的とします。必要に応じて1年生で学習した文法項目について復習しながら、フランス語の文の構造を学習することに重点をおきます。</p> <p>概要</p> <p>基本的な構文学習のために、短い単文を書く練習を行います。授業では受講生自身が辞書を調べ（どの語や表現が適切か自分自身で判断して）、実際に単語をつなげて文にしていく過程を通して、フランス語の構文の基礎を身につけるようにします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. フランス語構文の基礎（総論）</li> <li>2. 動詞の活用</li> <li>3. フランス語の自動詞文</li> <li>4. フランス語の自動詞文</li> <li>5. フランス語の直接他動詞文</li> <li>6. フランス語の間接他動詞文</li> <li>7. 主語の種類</li> <li>8. 目的語の種類（直接目的語）</li> <li>9. 目的語の種類（間接目的語）</li> <li>10. 状況補語の種類</li> <li>11. 状況補語の表現法</li> <li>12. 疑問文の特徴</li> <li>13. 感嘆文の特徴</li> <li>14. 否定文の特徴</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>※授業内容は変更となることがありますので、詳細は初回時に指示します。</p>	
到達目標	フランス語構文の使い分けや応用を理解し、正字法にしたがって正しい文章を作成する作文力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予定される単元のコラムを読み（事前学習）、授業で学んだ単元を徹底的に復習してください（事後学習）。		
テキスト	倉方秀憲 <i>Nouvelle grammaire systématique du français</i> 早美出版社		
参考文献	特に必要ありません。		
評価方法	(1) 授業の参加度（質問・議論）25% (2) 課題に対する復習度 25% (3) 試験（期末試験、月次）50%		

09年度以降	フランス語Ⅳ（構文）	担当者	木田 剛
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的</p> <p>この授業では、フランス語Ⅲに引き続き、1年次に習得した初級文法の知識を基礎にして、フランス語で文章を書くために必要な構文を学習し、様々な構文の理解と定着を目的とします。3年生で行われる文章表現の授業につなげるための準備段階の授業として、随時、必要に応じて1年生で学習した文法項目について復習しながら、フランス語の文の構造を学習することに重点をおきます。</p> <p>概要</p> <p>秋学期では、基本的な構文力を定着させるために、より複雑で少し長めの構文（関係代名詞の使用、仮定を表す条件法の文、直接話法と間接話法、等）練習をとりいれます</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. フランス語構文の基礎（複文）</li> <li>2. 文の接続（等位接続詞）</li> <li>3. 文の接続（従属接続詞）</li> <li>4. 文の接続（接続副詞）</li> <li>5. 文の接続（並置）</li> <li>6. 関係代名詞と関係節</li> <li>7. 関係代名詞と関係節</li> <li>8. 状況補語（原因）</li> <li>9. 状況補語（方法）</li> <li>10. 状況補語（仮定）</li> <li>11. 状況補語（譲歩）</li> <li>12. 直接・間接話法</li> <li>13. テキストの種類</li> <li>14. 物語と論述文</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>※授業内容は変更となることがありますので、詳細は初回時に指示します。</p>	
到達目標	フランス語構文の使い分けや応用を理解し、正字法にしたがって正しい文章を作成する作文力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予定される単元のコラムを読み（事前学習）、授業で学んだ単元を徹底的に復習する（事後学習）。		
テキスト	倉方秀憲 <i>Nouvelle grammaire systématique du français</i> 早美出版社		
参考文献	特に必要ありません。		
評価方法	(1) 授業の参加度（質問・議論）25% (2) 課題に対する復習度 25% (3) 試験（期末試験、月次）50%		

09年度以降	フランス語Ⅲ（構文）	担当者	富塚 真理子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、一年次の初級文法の知識を活用し、フランス語で文章を書く為に必要な構文を学習します。実際に使用するテキストは、文章表現を充実させるべく編まれた書ですが、文の構造にも重点を置きながら、出来る限り多くの、かつ豊かなフランス語表現の習得を目指します。基本的な構文学習の為に、短い単文を書く作文課題から、より複雑で少し長めの複文（関係代名詞の使用、仮定を表す条件法の文、直接話法と間接話法の文など）を扱う課題まで、専ら教科書の練習問題に取り組みます。いずれは長文での作文が可能となるプロセスですので、学習の際には、どの文の構造も自分自身立ち止まって、よく考えることが大切です。また、その都度、各自準備した解答は「大きな声で」発表してもらいますので、普段から正しい発音を意識した上「朗読練習」に励んでください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の概要</li> <li>2. 不特定の数の表現（1）</li> <li>3. 不特定の数の表現（2）</li> <li>4. 数量（時間・年齢）の近似表現</li> <li>5. 人・物の不定名詞表現</li> <li>6. 人・物の不定冠詞・形容詞的表現</li> <li>7. 漠然とした主語・動作主の表現</li> <li>8. 中間試験、諸事検討</li> <li>9. 場所・空間の状況表現</li> <li>10. 時間の状況表現</li> <li>11. 原因・理由の状況表現</li> <li>12. 方法・様態の状況表現</li> <li>13. 「～のようなもの」の表現</li> <li>14. 「まるで・いわば・ほとんど～」の表現</li> <li>15. 期末試験、諸事検討</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	フランス語構文の使い分けや応用を理解し、正字法にしたがって正しい文章を作成する作文力を習得し、運用できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの指定された箇所を事前に十分準備しておいてください。		
<b>テキスト</b>	石野好一『フランス語ニュアンス表現練習帳』（第三書房、2017年）		
<b>参考文献</b>	石野好一『フランス語の意味とニュアンス—基礎から身につく表現力』（第三書房、1997年）		
<b>評価方法</b>	定期試験 70%、小テスト 20%、授業での発言 10%		

09年度以降	フランス語Ⅳ（構文）	担当者	富塚 真理子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、一年次の初級文法の知識を活用し、フランス語で文章を書く為に必要な構文を学習します。実際に使用するテキストは、文章表現を充実させるべく編まれた書ですが、文の構造にも重点を置きながら、出来る限り多くの、かつ豊かなフランス語表現の習得を目指します。基本的な構文学習の為に、短い単文を書く作文課題から、より複雑で少し長めの複文（関係代名詞の使用、仮定を表す条件法の文、直接話法と間接話法の文など）を扱う課題まで、専ら教科書の練習問題に取り組みます。いずれは長文での作文が可能となるプロセスですので、学習の際には、どの文の構造も自分自身立ち止まって、よく考えることが大切です。また、その都度、各自準備した解答は「大きな声で」発表してもらいますので、普段から正しい発音を意識した上「朗読練習」に励んでください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の概要</li> <li>2. 程度の表現「いくらか・少し・やや・多少」</li> <li>3. 程度の表現「半ば・半分」</li> <li>4. 程度の表現「まあまあ・なかなか」</li> <li>5. 程度の表現「とても・かなり」</li> <li>6. 叙法・時制のニュアンス</li> <li>7. 「かもしれない」「～にちがいない」の表現（1）</li> <li>8. 中間試験、諸事検討</li> <li>9. 「かもしれない」「～にちがいない」の表現（2）</li> <li>10. 「たぶん」「きっと」の表現</li> <li>11. 「思う」「ようだ」「そうだ」の表現</li> <li>12. 「私としては」「～によれば」の表現</li> <li>13. 否定・二重否定の表現</li> <li>14. 依頼・疑問の表現</li> <li>15. 期末試験、諸事検討</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	フランス語構文の使い分けや応用を理解し、正字法にしたがって正しい文章を作成する作文力を習得し、運用できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの指定された箇所を事前に十分準備しておいてください。		
<b>テキスト</b>	石野好一『フランス語ニュアンス表現練習帳』（第三書房、2017年）		
<b>参考文献</b>	石野好一『フランス語の意味とニュアンス—基礎から身につく表現力』（第三書房、1997年）		
<b>評価方法</b>	定期試験 70%、小テスト 20%、授業での発言 10%		

09年度以降	フランス芸術文化入門Ⅰ	担当者	阿部 明日香
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、フランスの芸術文化に関する基礎知識の習得、そして3・4年の専門科目への導入を目的としています。</p> <p>春学期は、文学、バレエ、音楽などについて学びます。これらの分野はばらばらに存在しているわけではなく、必ずどこかで関連しあい、つながりがあります。全講義を通じて、それぞれのトピックスがどのようにして現在のフランスを形作っているのかを考えるようにしてください。</p> <p>この科目はフランス語学科の基礎科目になっているので、授業はフランス語学科の学生を念頭において行われます。他学科の学生もこの授業を履修できますが、そのことを了承したうえで受講するようにしてください。</p> <p>初回の授業に詳細を説明しますので、必ず出席してください。</p>		<p>① 4/5 ガイダンス (阿部明日香)</p> <p>② 4/12 図書館セミナー</p> <p>③ 4/19 近現代のフランス文学1 (福田美雪)</p> <p>④ 4/26 近現代のフランス文学2 (福田美雪)</p> <p>⑤ 5/10 大衆文学1 (筒井伸保)</p> <p>⑥ 5/17 大衆文学2 (筒井伸保)</p> <p>⑦ 5/24 大衆文学3 (筒井伸保)</p> <p>⑧ 5/31 外部講師講演 (太田みき先生) : ヴェルサイユ—太陽王の「諸惑星の間」から王妃の安らぎの「村里」へ</p> <p>⑨ 6/7 バレエ1 (大原宣久)</p> <p>⑩ 6/14 バレエ2 (大原宣久)</p> <p>⑪ 6/21 バレエ3 (大原宣久)</p> <p>⑫ 6/28 シャンソン1 (若森榮樹)</p> <p>⑬ 7/5 シャンソン2 (若森榮樹)</p> <p>⑭ 7/12 音楽 (松橋麻利)</p> <p>⑮ 7/19 まとめ</p>	
<b>到達目標</b>	フランスの芸術・文化 (文学・言語・音楽・思想・美術など) に関する基礎的な知識を習得し、鑑賞・批評できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業中に紹介される作品の中から、自分自身が特に気になるものを見つけ、実際に触れてみること。		
<b>テキスト</b>	プリントなど。		
<b>参考文献</b>	それぞれの授業担当者から授業内で直接指示があります。		
<b>評価方法</b>	各教員の課した小テストまたはコメントペーパーによって評価します。(100%)		

09年度以降	フランス芸術文化入門Ⅱ	担当者	阿部 明日香
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的は春学期を参照してください。</p> <p>秋学期にはフランスの食文化、ライフスタイル、美術、思想などについて学びます。</p> <p>春学期同様、それぞれのトピックスの関連を意識し、今後の学びに役立ててください。</p> <p>この科目はフランス語学科の基礎科目になっているので、授業はフランス語学科の学生を念頭において行われます。他学科の学生もこの授業を履修できますが、そのことを了承したうえで受講するようにしてください。</p>		<p>① 9/27 ガイダンス (阿部明日香)</p> <p>② 10/4 食文化1 (江花輝昭)</p> <p>③ 10/11 食文化2 (江花輝昭)</p> <p>④ 10/18 食文化3 (江花輝昭)</p> <p>⑤ 10/25 美術1 (阿部明日香)</p> <p>⑥ 11/8 美術2 (阿部明日香)</p> <p>⑦ 11/15 美術3 (阿部明日香)</p> <p>⑧ 11/22 消費とライフスタイル1 (廣田愛理)</p> <p>⑨ 11/29 消費とライフスタイル2 (廣田愛理)</p> <p>⑩ 12/6 思想1 (根木昭英)</p> <p>⑪ 12/13 思想2 (根木昭英)</p> <p>⑫ 12/20 思想3 (根木昭英)</p> <p>⑬ 1/10 フランスの現代文学 (根木昭英)</p> <p>⑭ 1/17 まとめ1 (阿部明日香)</p> <p>⑮ 1/24 まとめ2 (阿部明日香)</p>	
<b>到達目標</b>	フランスの芸術・文化 (文学・言語・音楽・思想・美術など) に関する基礎的な知識を習得し、鑑賞・批評できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業中に紹介される作品の中から、自分自身が特に気になるものを見つけ、実際に触れてみること。		
<b>テキスト</b>	プリントなど。		
<b>参考文献</b>	それぞれの授業担当者から授業内で直接指示があります。		
<b>評価方法</b>	各教員の課した小テストまたはコメントペーパーによって評価します。(100%)		

09年度以降	フランス現代社会入門Ⅰ	担当者	藤田 朋久
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>フランス現代社会を理解するために必要な基礎知識を習得することを目標とする授業です。授業は複数の教員によるオムニバス形式で行います。春学期は、フランスの歴史を概観したうえで、フランコフォニーや人口問題などを取り上げます。</p> <p>この科目はフランス語学科の基礎科目になっているので、授業はフランス語学科の学生を念頭において行われます。他学科の学生もこの授業を履修できますが、そのことを了承したうえで受講するようにしてください。</p> <p>初回の授業で詳細を説明しますので、受講希望者は必ず出席してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス (藤田朋久)</li> <li>2. フランスの歴史：古代・中世 (藤田朋久)</li> <li>3. フランスの歴史：アンシアン・レジーム (藤田朋久)</li> <li>4. フランスの歴史：近現代1 (福井憲彦)</li> <li>5. フランスの歴史：近現代2 (福井憲彦)</li> <li>6. フランスの歴史：近現代3 (福井憲彦)</li> <li>7. フランス語学入門1 (田中善英)</li> <li>8. フランス語学入門2 (田中善英)</li> <li>9. フランコフォニー1 (ヴァネ・フィリップ)</li> <li>10. フランコフォニー2 (ヴァネ・フィリップ)</li> <li>11. 現代音楽事情 (ヴェスイエール・ジョルジュ)</li> <li>12. 人口問題1 (横地卓哉)</li> <li>13. 人口問題2 (横地卓哉)</li> <li>14. ラ・マルセイエーズ (藤田朋久)</li> <li>15. まとめ (藤田朋久)</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	フランスの現代社会（地域、歴史、政治経済、教育など）に関する基礎的な知識を習得し、分析および見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前に事典や参考文献で各講義の主題について知識を得ておくことが望まれます。事後には、配布された資料やノートを整理し、内容を確認するようにしてください。		
<b>テキスト</b>	プリント配布		
<b>参考文献</b>	各教員から指示があります。		
<b>評価方法</b>	各教員による小テストまたはコメントペーパーをもとに評価します。(100%)		

09年度以降	フランス現代社会入門Ⅱ	担当者	藤田 朋久
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>フランス現代社会を理解するために必要な基礎知識を習得することを目標とする授業です。授業は複数の教員によるオムニバス形式で行います。秋学期は、フランスの政治経済、教育、パリと地方、治安問題などを取り上げます。</p> <p>この科目はフランス語学科の基礎科目になっているので、授業はフランス語学科の学生を念頭において行われます。他学科の学生もこの授業を履修できますが、そのことを了承したうえで受講するようにしてください。</p> <p>初回の授業で詳細を説明しますので、受講希望者は必ず出席してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス (藤田朋久)</li> <li>2. フランスの経済1 (廣田愛理)</li> <li>3. フランスの経済2 (廣田愛理)</li> <li>4. フランスの政治1 (尾玉剛士)</li> <li>5. フランスの政治2 (尾玉剛士)</li> <li>6. フランスの教育と生活1 (中村公子)</li> <li>7. フランスの教育と生活2 (中村公子)</li> <li>8. パリと地方1 (鈴木隆)</li> <li>9. パリと地方2 (鈴木隆)</li> <li>10. パリと地方3 (鈴木隆)</li> <li>11. パリと地方4 (鈴木隆)</li> <li>12. 治安問題1 (横地卓哉)</li> <li>13. 治安問題2 (横地卓哉)</li> <li>14. フランス地方都市の生活 (水林ミシェル)</li> <li>15. まとめ (藤田朋久)</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	フランスの現代社会（地域、歴史、政治経済、教育など）に関する基礎的な知識を習得し、分析および見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前に事典や参考文献で各講義の主題について知識を得ておくことが望まれます。事後には、配布された資料やノートを整理し、内容を確認するようにしてください。		
<b>テキスト</b>	プリント配布		
<b>参考文献</b>	各教員から指示があります。		
<b>評価方法</b>	各教員による小テストまたはコメントペーパーをもとに評価します。(100%)		

09年度以降	総合フランス語 I	担当者	各担当教員																																
講義目的、講義概要		授業計画																																	
<p>Le but de ce cours est d'approfondir la connaissance de la langue française aussi bien sur le plan grammatical que lexical.</p> <p>Il prend la suite des cours de Sogo des premières années mais il n'a lieu qu'une fois par semaine avec un enseignant francophone. Vous devez donc travailler personnellement à la maison et préparer à l'avance.</p> <p>Le groupe 3-1 utilise <i>Totem 3</i> à partir de la leçon 1 ; les groups 2,3,4 et 5 : <i>Amical 2</i> à partir de l'unité 3.</p> <p>On insistera surtout sur la compréhension à l'écrit et à l'oral et sur l'expression écrite.</p>		<table border="0"> <tr> <td><i>Amical 2</i></td> <td><i>Totem 3</i></td> </tr> <tr> <td>1. Unité 3-Leçon 9</td> <td>Leçon 1</td> </tr> <tr> <td>2. Unité 3-Leçon 9</td> <td>Leçon 2</td> </tr> <tr> <td>3. Unité 3-Leçon 10</td> <td>Leçon 3</td> </tr> <tr> <td>4. Unité 3-Leçon 10</td> <td>Leçon 4</td> </tr> <tr> <td>5. Unité 3-Leçon 11</td> <td>Leçon 5</td> </tr> <tr> <td>6. Unité 3-Leçon 11</td> <td>Leçon 6</td> </tr> <tr> <td>7. Unité 3-Leçon 12</td> <td>Leçon 7</td> </tr> <tr> <td>8. Unité 3-Leçon 12</td> <td>Leçon 8</td> </tr> <tr> <td>9. Unité 4-Leçon 13</td> <td>Leçon 9</td> </tr> <tr> <td>10. Unité 4-Leçon 13</td> <td>Leçon 10</td> </tr> <tr> <td>11. Unité 4-Leçon 14</td> <td>Leçon 11</td> </tr> <tr> <td>12. Unité 4-Leçon 14</td> <td>Leçon 12</td> </tr> <tr> <td>13. Unité 4-Leçon 15</td> <td>Révision</td> </tr> <tr> <td>14. Unité 4-Leçon 15</td> <td>Révision</td> </tr> <tr> <td>15. Révision</td> <td>Révision</td> </tr> </table> <p>※原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。</p>		<i>Amical 2</i>	<i>Totem 3</i>	1. Unité 3-Leçon 9	Leçon 1	2. Unité 3-Leçon 9	Leçon 2	3. Unité 3-Leçon 10	Leçon 3	4. Unité 3-Leçon 10	Leçon 4	5. Unité 3-Leçon 11	Leçon 5	6. Unité 3-Leçon 11	Leçon 6	7. Unité 3-Leçon 12	Leçon 7	8. Unité 3-Leçon 12	Leçon 8	9. Unité 4-Leçon 13	Leçon 9	10. Unité 4-Leçon 13	Leçon 10	11. Unité 4-Leçon 14	Leçon 11	12. Unité 4-Leçon 14	Leçon 12	13. Unité 4-Leçon 15	Révision	14. Unité 4-Leçon 15	Révision	15. Révision	Révision
<i>Amical 2</i>	<i>Totem 3</i>																																		
1. Unité 3-Leçon 9	Leçon 1																																		
2. Unité 3-Leçon 9	Leçon 2																																		
3. Unité 3-Leçon 10	Leçon 3																																		
4. Unité 3-Leçon 10	Leçon 4																																		
5. Unité 3-Leçon 11	Leçon 5																																		
6. Unité 3-Leçon 11	Leçon 6																																		
7. Unité 3-Leçon 12	Leçon 7																																		
8. Unité 3-Leçon 12	Leçon 8																																		
9. Unité 4-Leçon 13	Leçon 9																																		
10. Unité 4-Leçon 13	Leçon 10																																		
11. Unité 4-Leçon 14	Leçon 11																																		
12. Unité 4-Leçon 14	Leçon 12																																		
13. Unité 4-Leçon 15	Révision																																		
14. Unité 4-Leçon 15	Révision																																		
15. Révision	Révision																																		
到達目標	習得した文法、語彙、文語・口語表現、構文などを用いて日常生活の様々なテーマについて論理的な表現ができ、また、フランス語母語者との間で一般的な会話や議論ができるといった、総合的なフランス語運用ができるようにする。																																		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。																																		
テキスト	未修クラス： <i>Amical 2</i> 既修クラス： <i>Totem 3</i>																																		
参考文献	必要に応じて各担当教員から指示。																																		
評価方法	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。																																		

09年度以降	総合フランス語 II	担当者	各担当教員																																
講義目的、講義概要		授業計画																																	
<p>Le but de ce cours est d'approfondir la connaissance de la langue française aussi bien sur le plan grammatical que lexical.</p> <p>Il prend la suite des cours de Sogo des premières années mais il n'a lieu qu'une fois par semaine avec un enseignant francophone. Vous devez donc travailler personnellement à la maison et préparer à l'avance.</p> <p>Le groupe 3-1 utilise <i>Totem 3</i> à partir de la leçon 1 ; les groups 2,3,4 et 5 : <i>Amical 2</i> à partir de l'unité 3.</p> <p>On insistera surtout sur la compréhension à l'écrit et à l'oral et sur l'expression écrite.</p>		<table border="0"> <tr> <td><i>Amical 2</i></td> <td><i>Totem 3</i></td> </tr> <tr> <td>1. Unité 4-Leçon 16</td> <td>Leçon 13</td> </tr> <tr> <td>2. Unité 4-Leçon 16</td> <td>Leçon 14</td> </tr> <tr> <td>3. Unité 5-Leçon 17</td> <td>Leçon 15</td> </tr> <tr> <td>4. Unité 5-Leçon 17</td> <td>Leçon 16</td> </tr> <tr> <td>5. Unité 5-Leçon 18</td> <td>Leçon 17</td> </tr> <tr> <td>6. Unité 5-Leçon 18</td> <td>Leçon 18</td> </tr> <tr> <td>7. Unité 5-Leçon 19</td> <td>Leçon 19</td> </tr> <tr> <td>8. Unité 5-Leçon 19</td> <td>Leçon 20</td> </tr> <tr> <td>9. Unité 5-Leçon 20</td> <td>Leçon 21</td> </tr> <tr> <td>10. Unité 5-Leçon 20</td> <td>Leçon 22</td> </tr> <tr> <td>11. Unité 6-Leçon 21</td> <td>Leçon 23</td> </tr> <tr> <td>12. Unité 6-Leçon 21</td> <td>Leçon 24</td> </tr> <tr> <td>13. Unité 6-Leçon 21</td> <td>Révision</td> </tr> <tr> <td>14. Unité 6-Leçon 21</td> <td>Révision</td> </tr> <tr> <td>15. Révision</td> <td>Révision</td> </tr> </table> <p>※原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。</p>		<i>Amical 2</i>	<i>Totem 3</i>	1. Unité 4-Leçon 16	Leçon 13	2. Unité 4-Leçon 16	Leçon 14	3. Unité 5-Leçon 17	Leçon 15	4. Unité 5-Leçon 17	Leçon 16	5. Unité 5-Leçon 18	Leçon 17	6. Unité 5-Leçon 18	Leçon 18	7. Unité 5-Leçon 19	Leçon 19	8. Unité 5-Leçon 19	Leçon 20	9. Unité 5-Leçon 20	Leçon 21	10. Unité 5-Leçon 20	Leçon 22	11. Unité 6-Leçon 21	Leçon 23	12. Unité 6-Leçon 21	Leçon 24	13. Unité 6-Leçon 21	Révision	14. Unité 6-Leçon 21	Révision	15. Révision	Révision
<i>Amical 2</i>	<i>Totem 3</i>																																		
1. Unité 4-Leçon 16	Leçon 13																																		
2. Unité 4-Leçon 16	Leçon 14																																		
3. Unité 5-Leçon 17	Leçon 15																																		
4. Unité 5-Leçon 17	Leçon 16																																		
5. Unité 5-Leçon 18	Leçon 17																																		
6. Unité 5-Leçon 18	Leçon 18																																		
7. Unité 5-Leçon 19	Leçon 19																																		
8. Unité 5-Leçon 19	Leçon 20																																		
9. Unité 5-Leçon 20	Leçon 21																																		
10. Unité 5-Leçon 20	Leçon 22																																		
11. Unité 6-Leçon 21	Leçon 23																																		
12. Unité 6-Leçon 21	Leçon 24																																		
13. Unité 6-Leçon 21	Révision																																		
14. Unité 6-Leçon 21	Révision																																		
15. Révision	Révision																																		
到達目標	習得した文法、語彙、文語・口語表現、構文などを用いて日常生活の様々なテーマについて論理的な表現ができ、また、フランス語母語者との間で一般的な会話や議論ができるといった、総合的なフランス語運用ができるようにする。																																		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。																																		
テキスト	未修クラス： <i>Amical 2</i> 既修クラス： <i>Totem 3</i>																																		
参考文献	必要に応じて各担当教員から指示。																																		
評価方法	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。																																		

09年度以降	フランス語文章表現法 I	担当者	P h. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Au temps des smartphones et d'internet, écrire est toujours un moyen de communication et un moyen d'approfondir ses idées et sentiments. Dans ce but, on utilise des règles de logique à découvrir en classe :</p> <p>1) Exercices sur les articulations et les expressions de la cause, de la conséquence, du but, de l'opposition.</p> <p>2) Travail sur le plan et comment écrire une introduction, une conclusion, un paragraphe.</p> <p>- Avant chaque cours, écrire un petit message de la forme Tweet.</p> <p>- Une fois par semestre, chaque étudiant écrit librement une composition. Ce « grand devoir » est rendu 3 fois.</p> <p>Au cours des deux premières fois, j'indique les endroits à modifier. Après la troisième rédaction, je propose une correction possible</p>		<p>1. Présentation</p> <p>2-3. Découverte de la logique d'un texte (ex. de reconstitution)</p> <p>4-6. Découverte des articulations d'un texte (ex de reconstitution, notion de plan)</p> <p>(5. 1<sup>ère</sup> version du grand devoir)</p> <p>7-8. Expressions de la cause (8. 2<sup>e</sup> version du grand devoir)</p> <p>9-10. Expressions de la conséquence</p> <p>11-12. Expressions du but (12. 3<sup>e</sup> version du grand devoir)</p> <p>13-14. Expressions de l'opposition</p> <p>15. commentaires sur la version finale du grand devoir.</p>	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Écrire un petit message (format tweet), préparer les exercices, faire 3 fois le « grand devoir ».		
テキスト	Photocopies.		
参考文献	Avoir si possible un dictionnaire français-français, par exemple le <i>Larousse de poche</i> 2018.		
評価方法	La 3e version du « grand devoir » est notée.		

09年度以降	フランス語文章表現法 II	担当者	P h. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Voir ci-dessus les explications données pour le 1er semestre.</p>		<p>1. Présentation</p> <p>2-3. Comment lire et comprendre un sujet de devoir.</p> <p>4-6. Comment rechercher des idées. (5. 1<sup>ère</sup> version du grand devoir)</p> <p>7-8. Comment construire un plan. (8. 2<sup>e</sup> version du grand devoir)</p> <p>9-11. Étude de différents types de plans.</p> <p>12-13. Étude de différents types d'introduction. (12. 3<sup>e</sup> version du grand devoir)</p> <p>14. Comment conclure ?</p> <p>15. Commentaires sur la version finale du « grand devoir ».</p>	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Écrire un petit message (format tweet), préparer les exercices, faire 3 fois le « grand devoir ».		
テキスト	Photocopies.		
参考文献	Avoir si possible un dictionnaire français-français, par exemple le <i>Larousse de poche</i> 2018.		
評価方法	La 3e version du « grand devoir » est notée.		

09年度以降	フランス語文章表現法Ⅰ	担当者	C. パジェス
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Ce cours d'expression écrite a pour objectif l'amélioration des compétences lexicales, syntaxiques et stylistiques. Pour ce faire, nous ferons en classe des exercices de rédactions comme : rédiger des courriels, des lettres, des compositions sur des thèmes variés (littérature, cinéma, société, etc.).</p> <p>この文章表現クラスは、フランス語による文書作成を目的としています。手紙の書き方、文章作成をはじめとし、電子メールや郵便物を書く際に非常に役立つ表現などを学びます。また、文学・映画・社会問題など、さまざまなテーマに沿った文章作成も行います。</p> <p>*講義内容は必要に応じて変更することがあります。</p>		<p>次の内容を春学期で扱います。(変更あり)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction au cours / programme</li> <li>2. Introduction du sujet de composition 1</li> <li>3. Réflexion / explication / rédaction</li> <li>4. Corrigé et commentaires</li> <li>5. Introduction du sujet de composition 2</li> <li>6. Réflexion / explication / rédaction</li> <li>7. Corrigé et commentaires</li> <li>8. Introduction du sujet de composition 3</li> <li>9. Réflexion / explication / rédaction</li> <li>10. Corrigé et commentaires</li> <li>11. Introduction du sujet de composition 4</li> <li>12. Réflexion / explication / rédaction</li> <li>13. Corrigé et commentaires</li> <li>14. Introduction du sujet de composition 5</li> <li>15. Composition finale</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前にテキストを読んでおいてください。授業後は勉強したことを見直しておいてください。		
<b>テキスト</b>	『Écrire en français (フランス語で書く)』、著者：Jean-Luc Azra, ISBN : 978-4-905343-09-7		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	平常点 70%、授業への参加態度 30%		

09年度以降	フランス語文章表現法Ⅱ	担当者	C. パジェス
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Ce cours d'expression écrite a pour objectif l'amélioration des compétences lexicales, syntaxiques et stylistiques. Pour ce faire, nous ferons en classe des exercices de rédactions comme : rédiger des courriels, des lettres, des compositions sur des thèmes variés (littérature, cinéma, société, etc.).</p> <p>この文章表現クラスは、フランス語による文書作成を目的としています。手紙の書き方、文章作成をはじめとし、電子メールや郵便物を書く際に非常に役立つ表現などを学びます。また、文学・映画・社会問題など、さまざまなテーマに沿った文章作成も行います。</p> <p>*講義内容は必要に応じて変更することがあります。</p>		<p>次の内容を秋学期で扱います。(変更あり)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction au cours / programme</li> <li>2. Introduction du sujet de composition 6</li> <li>3. Réflexion / explication / rédaction</li> <li>4. Corrigé et commentaires</li> <li>5. Introduction du sujet de composition 7</li> <li>6. Réflexion / explication / rédaction</li> <li>7. Corrigé et commentaires</li> <li>8. Introduction du sujet de composition 8</li> <li>9. Réflexion / explication / rédaction</li> <li>10. Corrigé et commentaires</li> <li>11. Introduction du sujet de composition 9</li> <li>12. Réflexion / explication / rédaction</li> <li>13. Corrigé et commentaires</li> <li>14. Introduction du sujet de composition 10</li> <li>15. Composition finale</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前にテキストを読んでおいてください。授業後は勉強したことを見直しておいてください。		
<b>テキスト</b>	『Écrire en français (フランス語で書く)』、著者：Jean-Luc Azra, ISBN : 978-4-905343-09-7		
<b>参考文献</b>	特になし		
<b>評価方法</b>	平常点 70%、授業への参加態度 30%		

09年度以降	フランス語文章表現法 I	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>Objectif :</b> Commencer à écrire en français de petits textes portant sur des sujets divers.</p> <p><b>Contenu du cours :</b> Ce cours s'adresse tout particulièrement aux étudiants qui souhaitent revoir les points grammaticaux de base. Tout au long de l'année, je proposerai aux étudiants des exercices diversifiés qui, en fin de parcours, leur permettront de rédiger avec un certain plaisir de petits textes en français. Le principe consistera à partir du plus simple pour aller vers des choses un peu plus compliquées. Pour commencer notre séance d'écriture hebdomadaire nous prendrons l'habitude d'écrire ce qui nous passe par la tête en 2 ou 3 phrases et en toute spontanéité.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Présentation du cours</li> <li>2. Se présenter par écrit</li> <li>3. Présenter sa famille</li> <li>4. Ecrire sur son quartier</li> <li>5. Ecrire sur sa ville natale</li> <li>6. Ecrire à un(e) ami(e) pour être hébergé</li> <li>7. Ecrire sur un souvenir d'enfance</li> <li>8. Ecrire sur un souvenir d'enfance</li> <li>9. Ecrire sur un livre qu'on a aimé</li> <li>10. Ecrire sur un livre qu'on a aimé</li> <li>11. Ecrire sur un film qu'on a aimé</li> <li>12. Ecrire sur un film qu'on a aimé</li> <li>13. Ecrire pour refuser un petit boulot</li> <li>14. Ecrire pour refuser un petit boulot</li> <li>15. Bilan</li> </ol>	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Ecrire encore une fois le texte corrigé.		
テキスト	Photocopies		
参考文献	Dictionnaire français		
評価方法	Contrôle continu 100 %. Rédaction de textes courts 100 %. Participation active aux cours 100 %.		

09年度以降	フランス語文章表現法 II	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>Objectif :</b> Commencer à écrire en français de petits textes portant sur des sujets divers.</p> <p><b>Contenu du cours :</b> Ce cours s'adresse tout particulièrement aux étudiants qui souhaitent revoir les points grammaticaux de base. Tout au long de l'année, je proposerai aux étudiants des exercices diversifiés qui, en fin de parcours, leur permettront de rédiger avec un certain plaisir de petits textes en français. Le principe consistera à partir du plus simple pour aller vers des choses un peu plus compliquées. Pour commencer notre séance d'écriture hebdomadaire nous prendrons l'habitude d'écrire ce qui nous passe par la tête en 2 ou 3 phrases et en toute spontanéité.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Mise en train. Ecriture en toute liberté</li> <li>2. Ecrire sur un travail que j'aimerais faire</li> <li>3. Ecrire sur un travail que j'aimerais faire</li> <li>4. Ecrire sur un pays où j'aimerais vivre</li> <li>5. Ecrire sur un pays où j'aimerais vivre</li> <li>6. Ecrire sur l'utilité des compétitions sportives internationales</li> <li>7. Ecrire sur l'utilité des compétitions sportives internationales</li> <li>8. Quel enfant j'étais ?</li> <li>9. Quel enfant j'étais ?</li> <li>10. Rêver : ma vie dans 10 ans</li> <li>11. Rêver : ma vie dans 10 ans</li> <li>12. Mon école idéale</li> <li>13. Mon université idéale</li> <li>14. Ecrire une histoire d'amour</li> <li>15. Bilan</li> </ol>	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Ecrire encore une fois le texte corrigé.		
テキスト	Photocopies		
参考文献	Dictionnaire français		
評価方法	Contrôle continu 100 %. Rédaction de courts textes 100 %. Participation active aux cours 100 %.		

09年度以降	フランス語文章表現法 I	担当者	Ch. ペリセロ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Objectifs :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ S'habituer à écrire en français de courts textes. (PE)</li> <li>・ S'entraîner à la compréhension écrite (C.E)</li> <li>・ Pratiquer la grammaire (GR)</li> <li>・ Faire acquérir du vocabulaire. (V)</li> <li>・ Dictées. (D)</li> </ul> <p>Contenu:</p> <p>Ce cours s'adresse aux étudiants qui souhaitent améliorer leur capacité à écrire, augmenter leur vocabulaire et améliorer leurs connaissances en grammaire dans des activités simples et créatives.</p> <p>※この講義は、とくにTCF320点以上取得者の積極的な受講をすすめます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Présentation du cours et écriture libre.</li> <li>2. CE, GR, V, D: l'auto-portrait</li> <li>3. PE : Faire son auto-portrait.</li> <li>4. CE, GR, V, D: les activités quotidiennes.</li> <li>5. PE: les activités quotidiennes.</li> <li>6. CE, GR, V, D : le passé composé/imparfait</li> <li>7. PE: Ecrire une histoire à partir d'images. (1)</li> <li>8. PE : Ecrire une histoire à partir d'images (2)</li> <li>9. CE, GR, V, D: le conditionnel</li> <li>10. PE :Ecrire son "portrait chinois".(1)</li> <li>11. PE :Ecrire son "portrait chinois" (2)</li> <li>12. CE, GR, V, D : le futur</li> <li>13. PE : Ma vie après l'université.(1)</li> <li>14. PE : Ma vie après l'université.(1)</li> <li>15. Remise et corrections des devoirs.</li> </ol>	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Auto-correction des erreurs simples/ écrire des phrases avec le vocabulaire nouveau.		
テキスト	Travail en groupe et/ou seul/ Corrigé pour chaque exercice/Photocopies/ apporter un dictionnaire français/japonais		
参考文献	特になし		
評価方法	Contrôle continu.Participation régulière aux cours souhaitées. Deux devoirs à remettre.		

09年度以降	フランス語文章表現法 II	担当者	Ch. ペリセロ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Objectifs :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ S'habituer à écrire en français de courts textes. (PE)</li> <li>・ S'entraîner à la compréhension écrite (C.E)</li> <li>・ Pratiquer la grammaire (GR)</li> <li>・ Faire acquérir du vocabulaire. (V)</li> <li>・ Dictées. (D)</li> </ul> <p>Contenu:</p> <p>Ce cours s'adresse aux étudiants qui souhaitent améliorer leur capacité à écrire, augmenter leur vocabulaire et améliorer leurs connaissances en grammaire dans des activités simples et créatives.</p> <p>※この講義は、とくにTCF320点以上取得者の積極的な受講をすすめます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Présentation du cours et écriture libre.</li> <li>2. CE, GR, V, D: qui, que, où.</li> <li>3. PE : decrire un lieu.</li> <li>4. CE, GR, V, D: la quantité</li> <li>5. PE: rédiger une recette.</li> <li>6. CE, GR, V, D : donner son opinion</li> <li>7. PE: Ecrire un court article. (1)</li> <li>8. Film : visionnage d'un film</li> <li>9. PE: Ecrire un court article sur ce film. (2)</li> <li>10. CE, GR, V, D: le subjonctif</li> <li>11. PE : Ecrire une liste de conseils</li> <li>12. CE, GR, V, D : les adjectifs</li> <li>13. PE : rédiger la presentation d'un tableau. (1)</li> <li>14. PE : rédiger la presentation d'un tableau. (2)</li> <li>15. Remise et corrections des devoirs.</li> </ol>	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Auto-correction des erreurs simples/ écrire des phrases avec le vocabulaire nouveau.		
テキスト	Corrigé pour chaque exercice/Photocopies/ apporter un dictionnaire français/japonais		
参考文献	特になし		
評価方法	Contrôle continu. Participation régulière aux cours souhaitées. Deux devoirs à remettre.		

09年度以降	フランス語文章表現法 I	担当者	山崎 夏絵
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>自分の言いたいことをフランス語で表現するためには、文法知識の他に、語彙や表現に関する知識が必要になります。この授業では、まずそれぞれのテーマに即したフランス語の文章を読みながら、文法、語彙、表現を学びます。その後で、学んだ事を応用して実際に文章を書いていきます。授業では辞書を使用しますので、仏和辞典、和仏辞典、仏仏辞典を毎回持参してください。</p> <p>初回の授業で授業の進め方等について説明しますので、受講希望者は必ず出席してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 自分や他人について表現する (1)</li> <li>3. 自分や他人について表現する (2)</li> <li>4. 依頼する (1)</li> <li>5. 依頼する (2)</li> <li>6. 依頼する (3)</li> <li>7. 通知する (1)</li> <li>8. 通知する (2)</li> <li>9. 通知する (3)</li> <li>10. 招待する (1)</li> <li>11. 招待する (2)</li> <li>12. 招待する (3)</li> <li>13. 祝う (1)</li> <li>14. 祝う (2)</li> <li>15. 春学期のまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前に配布するプリントを精読しておくこと		
<b>テキスト</b>	プリント配布		
<b>参考文献</b>	授業中に紹介		
<b>評価方法</b>	学期末試験(60%)と授業への参加度(40%)		

09年度以降	フランス語文章表現法 II	担当者	山崎 夏絵
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期に同じ。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 誘う (1)</li> <li>3. 誘う (2)</li> <li>4. 誘う (3)</li> <li>5. 承諾する (1)</li> <li>6. 承諾する (2)</li> <li>7. 断る (1)</li> <li>8. 断る (2)</li> <li>9. 断る (3)</li> <li>10. 問い合わせをする (1)</li> <li>11. 問い合わせをする (2)</li> <li>12. 問い合わせをする (3)</li> <li>13. 自分の意見を述べる (1)</li> <li>14. 自分の意見を述べる (2)</li> <li>15. 秋学期のまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前に配布するプリントを精読しておくこと		
<b>テキスト</b>	プリント配布		
<b>参考文献</b>	授業中に紹介		
<b>評価方法</b>	学期末試験(60%)と授業への参加度(40%)		

09年度以降	フランス語文章表現法Ⅰ	担当者	横地 卓哉
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>フランス語で文章を書くことを実践する授業です。講義科目ではありませんので、くれぐれも誤解のないように。</p> <p>毎回提出される課題を次の回に提出。次の次の回に添削されたものを返却し、全体的な講評と個別指導をおこないます。</p> <p>授業計画にあげるものはあくまでもおもに取り上げる予定の項目。具体的な課題の内容は毎回指示します。</p> <p>3回続けて課題の提出がない場合は受講の権利を放棄したものとみなします。(当然ですが、成績評価は「不可」になります。)それ以降提出された課題の添削・指導についても責任を負いかねます。</p> <p>第1回目の授業で、授業を進めていくうえで前提となる受講者の力を知るために、小テストをおこないます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・ガイダンス・小テスト</li> <li>2. 人称関係の把握・表現 (1)</li> <li>3. (2)</li> <li>4. (3)</li> <li>5. (4)</li> <li>6. 空間の把握・表現 (1)</li> <li>7. (2)</li> <li>8. (3)</li> <li>9. 時間の把握・表現 (1)</li> <li>10. (2)</li> <li>11. (3)</li> <li>12. (4)</li> <li>13. (5)</li> <li>14. 補足・まとめ (1)</li> <li>15. (2)</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	課題の作成・添削の上返却された課題の見直し(再提出の準備を含む)		
<b>テキスト</b>	なし (必要に応じてプリントを配布)		
<b>参考文献</b>	授業中に紹介します。		
<b>評価方法</b>	第1回目の授業時の小テスト10%、課題・レポート70%、授業への参加度20% 4年生に対する特別の配慮は一切しないので、承知の上で登録・受講すること。		

09年度以降	フランス語文章表現法Ⅱ	担当者	横地 卓哉
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>フランス語で文章を書くことを実践する授業です。講義科目ではありませんので、くれぐれも誤解のないように。</p> <p>毎回提出される課題を次の回に提出。次の次の回に添削されたものを返却し、全体的な講評と個別指導をおこないます。</p> <p>授業計画にあげるものはあくまでもおもに取り上げる予定の項目。具体的な課題の内容は毎回指示します。</p> <p>3回続けて課題の提出がない場合は受講の権利を放棄したものとみなします。(当然ですが、成績評価は「不可」になります。)それ以降提出された課題の添削・指導についても責任を負いかねます。</p> <p>第1回目の授業で、授業を進めていくうえで前提となる受講者の力を知るために、小テストをおこないます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・ガイダンス・小テスト</li> <li>2. 事実の表現 (1)</li> <li>3. (2)</li> <li>4. (3)</li> <li>5. 感情の表現 (1)</li> <li>6. (2)</li> <li>7. (3)</li> <li>8. 思考の表現 (1)</li> <li>9. (2)</li> <li>10. (3)</li> <li>11. 論理性の構築 (1)</li> <li>12. (2)</li> <li>13. (3)</li> <li>14. 総合的な表現をめざして (1)</li> <li>15. (2)</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	課題の作成・添削の上返却された課題の見直し(再提出の準備を含む)		
<b>テキスト</b>	なし (必要に応じてプリントを配布)		
<b>参考文献</b>	授業中に紹介します。		
<b>評価方法</b>	第1回目の授業時の小テスト10%、課題・レポート70%、授業への参加度20% 4年生に対する特別の配慮は一切しないので、承知の上で登録・受講すること。		

09年度以降	フランス語文章表現法Ⅰ	担当者	C. ラビニャス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ce cours d'expression écrite a différents objectifs :</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>s'exprimer dans des situations réelles et concrètes</li> <li>comprendre et analyser des documents écrits</li> <li>apprendre à construire une argumentation</li> <li>revoir la grammaire, enrichir son vocabulaire</li> <li>Approfondir les connaissances culturelles</li> </ol> <p>En observant différents types d'écrits, vous apprendrez à :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- vous présenter</li> <li>- proposer, accepter et refuser une invitation</li> <li>- faire une réservation</li> <li>- écrire une carte postale</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Se présenter</li> <li>Donner des renseignements sur soi</li> <li>Proposer / inviter</li> <li>Annoncer un événement</li> <li>Accepter / refuser une invitation</li> <li>Remercier / s'excuser</li> <li>Bilan des leçons 1 à 6</li> <li>Féliciter</li> <li>Écrire une carte postale</li> <li>Faire une réservation / faire une demande polie</li> <li>Répondre à une proposition</li> <li>Rédiger un message pour donner des instructions</li> <li>Rédiger des consignes, donner des directions</li> <li>Bilan des leçons 7 à 9</li> <li>Bilan des leçons 10 à 12</li> </ol>	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。		
テキスト	Entre les lignes (manuel de compréhension et d'expression écrites) – Livre 1		
参考文献	特になし		
評価方法	定期試験40%、宿題：40%、積極的な参加：20%		

09年度以降	フランス語文章表現法Ⅱ	担当者	C. ラビニャス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ce cours d'expression écrite a différents objectifs :</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>s'exprimer dans des situations réelles et concrètes</li> <li>comprendre et analyser des documents écrits</li> <li>apprendre à construire une argumentation</li> <li>revoir la grammaire, enrichir son vocabulaire</li> <li>Approfondir les connaissances culturelles</li> </ol> <p>En observant différents types d'écrits, vous apprendrez à rédiger des textes plus élaborés qu'au semestre précédent. Vous produirez des textes descriptifs, argumentatifs, littéraires, imaginaires, etc.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- etc.</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Faire une description physique</li> <li>Faire une description psychologique</li> <li>Raconter un événement passé (1)</li> <li>Raconter un événement passé (2)</li> <li>Rédiger une lettre formelle (1)</li> <li>Rédiger une lettre formelle (2)</li> <li>Bilan des leçons 1 à 6</li> <li>Rédiger un texte argumentatif (1)</li> <li>Faire une comparaison</li> <li>Rédiger un texte argumentatif (2)</li> <li>Exprimer son opinion</li> <li>Rédiger un texte imaginaire (1)</li> <li>Rédiger un texte imaginaire (2)</li> <li>Bilan des leçons 7 à 9</li> <li>Bilan des leçons 10 à 12</li> </ol>	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。		
テキスト	Entre les lignes (manuel de compréhension et d'expression écrites) – Livre 2		
参考文献	特になし		
評価方法	定期試験 40%、宿題：40%、積極的な参加：20%		

09年度以降	フランス語文章表現法 I	担当者	D. ベルテ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Le but de ce cours est de fournir les compétences nécessaires pour décrire son environnement personnel. Il donnera la capacité de communiquer dans les situations de la vie quotidienne, lors d'un séjour en France par exemple.</p> <p>Par ailleurs, les objectifs d'écriture visés se réfèrent aux descriptifs du Cadre Européen Commun de Référence. Ce cours prépare donc aussi à la production écrite du niveau B1 du DELF.</p> <p>Le déroulement de ce cours se compose de quatre étapes : découverte et analyse de documents écrits relatifs au thème traité, pratique indépendante et/ou collective, pratique personnelle renforcée (devoirs) et petit test.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Se présenter dans une lettre 1</li> <li>2. Se présenter dans une lettre 2</li> <li>3. Se présenter dans une lettre 3</li> <li>4. Ecrire la biographie de quelqu'un 1</li> <li>5. Ecrire la biographie de quelqu'un 2</li> <li>6. Ecrire la biographie de quelqu'un 3</li> <li>7. Ecrire une lettre amicale 1</li> <li>8. Ecrire une lettre amicale 2</li> <li>9. Ecrire une lettre amicale 3</li> <li>10. Caractériser un lieu 1</li> <li>11. Caractériser un lieu 2</li> <li>12. Conseiller un ami qui vient au Japon 1</li> <li>13. Conseiller un ami qui vient au Japon 2</li> <li>14. Exprimer ses impressions et ses sentiments</li> <li>15. Exprimer ses impressions et ses sentiments 2</li> </ol>	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Ce cours nécessite une participation active, à la fois en classe (analyse de techniques, écriture collaborative) et à la maison (devoirs).		
テキスト	Le professeur préparera et distribuera des documents pour toutes les classes		
参考文献	Apporter son dictionnaire.		
評価方法	contrôle continu : 70 %, devoirs 20 %, participation 10 %		

09年度以降	フランス語文章表現法 II	担当者	D. ベルテ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ce cours poursuit les objectifs du premier semestre. Nous verrons en outre des thèmes plus détaillés et liés à la vie professionnelle. Nous aborderons aussi des techniques plus orientées vers le niveau B2. Le déroulement sera le même qu'au premier semestre.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Ecrire son opinion 1</li> <li>2. Ecrire son opinion 2</li> <li>3. Ecrire son opinion 3</li> <li>4. Décrire un livre, un film 1</li> <li>5. Décrire un livre, un film 2</li> <li>6. Décrire un livre, un film 3</li> <li>7. Ecrire son curriculum vitae 1</li> <li>8. Ecrire son curriculum vitae 2</li> <li>9. Ecrire son curriculum vitae 3</li> <li>10. Ecrire une lettre de motivation 1</li> <li>11. Ecrire une lettre de motivation 2</li> <li>12. Ecrire une lettre de motivation 3</li> <li>13. Ecrire une lettre de plainte 1</li> <li>14. Ecrire une lettre de plainte 2</li> <li>15. Ecrire une lettre de plainte 3</li> </ol>	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Ce cours nécessite une participation active, à la fois en classe (analyse de techniques, écriture collaborative) et à la maison (devoirs).		
テキスト	Le professeur préparera et distribuera des documents pour toutes les classes		
参考文献	Apporter son dictionnaire.		
評価方法	contrôle continu : 70 %, devoirs 20 %, participation 10 %		

09年度以降	フランス語会話 I・II	担当者	F. -A. メール
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>日常の平易な短い会話を通して、一年目、二年目で学んだ基礎事項を実際の場面で使用し、フランス語でコミュニケーションすることを目標にします。この授業を履修し勉強すれば、フランス語で簡単な会話ができるようになります。テキスト名：Par Kenji Kitayama et Frank-Arnaud Mehl, Paris seizième., 駿河台出版社, 2008</p> <p>Pour ce cours de troisieme annee, nous allons utiliser ce que vous avez appris en première et deuxième année dans des conversations de la vie quotidienne.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Se présenter, présenter quelqu'un 自己紹介他己紹介</li> <li>2. Les chiffres, l'heure, les prix. Jeux de rôle</li> <li>3. Parler de la famille.</li> <li>4. Pr. interrogatifs 疑問代名詞 questions 質問を聞く</li> <li>5. Entretien et évaluation</li> <li>6. Le temps/la date/donner un RV 日付や曜日を言う</li> <li>7. 代名動詞. Parler de ses loisirs</li> <li>8. 直接法複合と否定形</li> <li>9. Conversations a deux sur le week-end passé</li> <li>10. 近い未来と否定形 Parler de ses projets</li> <li>11. Conversations a deux sur le week-end prochain</li> <li>12. Jeux de rôle</li> <li>13. Jeux de rôle. Révisions 復習</li> <li>14. Vidéo</li> <li>15. Entretien et évaluation</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	フランス語会話力を習得し、現代社会の様々な事柄について詳細な意見ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前：予習・事後：復習		
<b>テキスト</b>	Par Kenji Kitayama et Frank-Arnaud Mehl, Paris seizième., 駿河台出版社, 2008		
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>	授業への出席と参加度にもとづく平常点と、期末試験により、総合評価します。授業の内容上、出席は必須です。		

09年度以降	フランス語会話 I・II	担当者	F. -A. メール
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>日常の平易な短い会話を通して、一年目、二年目で学んだ基礎事項を実際の場面で使用し、フランス語でコミュニケーションすることを目標にします。この授業を履修し勉強すれば、フランス語で簡単な会話ができるようになります。テキスト名：Par Kenji Kitayama et Frank-Arnaud Mehl, Paris seizième., 駿河台出版社, 2008</p> <p>Pour ce cours de troisieme annee, nous allons utiliser ce que vous avez appris en première et deuxième année dans des conversations de la vie quotidienne.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Parler de ses vacances au passé 複合過去形の復習</li> <li>2. L'imparfait 半過去形</li> <li>3. L'imparfait et le passé composé 複合過去・半過去形</li> <li>4. Exercices pratiques, jeux de rôle</li> <li>5. Entretien et évaluation</li> <li>6. Raconter une histoire 1 物語を語る</li> <li>7. Exercices pratiques, jeux de rôle</li> <li>8. Vidéo</li> <li>9. Raconter une histoire 2 物語を語る</li> <li>10. Les pronoms relatifs QUI et QUE 関係代名詞</li> <li>11. Résumer une histoire 1 物語をまとめる</li> <li>12. Résumer une histoire 2 物語をまとめる</li> <li>13. Révisions 復習</li> <li>14. Vidéo</li> <li>15. Entretien et évaluation</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	フランス語会話力を習得し、現代社会の様々な事柄について詳細な意見ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前：予習・事後：復習		
<b>テキスト</b>	Par Kenji Kitayama et Frank-Arnaud Mehl, Paris seizième., 駿河台出版社, 2008		
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>	授業への出席と参加度にもとづく平常点と、期末試験により、総合評価します。授業の内容上、出席は必須です。		

09年度以降	フランス語会話 I	担当者	A. ラモン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>Objectifs</u> :</p> <p>Approfondir ses connaissances lexicales et pragmatiques pour s'exprimer plus aisément sur des aspects centraux de la vie quotidienne.</p> <p>S'exprimer avec l'aide des structures apprises en cours, mais aussi utiliser les connaissances déjà acquises pour communiquer librement et spontanément.</p> <p><u>Déroulement</u> :</p> <p>Discussion et réactivation du vocabulaire et des expressions déjà connues.</p> <p>Enrichissement et exploitation : activités, projets en rapport avec le thème.</p> <p>Selon les thèmes, échanges de points de vue en groupes ou avec la classe.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Décrire des objets du quotidien.</li> <li>2. Suite.</li> <li>3. Décrire une personne.</li> <li>4. Suite.</li> <li>5. Raconter une rencontre.</li> <li>6. Suite.</li> <li>7. Parler de sa maison, de son quartier, de son voisinage.</li> <li>8. Suite.</li> <li>9. Présenter un pays, une région, une ville.</li> <li>10. Suite.</li> <li>11. Se renseigner sur les attraits d'une ville ou d'une région.</li> <li>12. Suite.</li> <li>13. Parler de ses vacances passées et futures.</li> <li>14. Suite</li> <li>15. Se renseigner pour acheter ou réserver un produit.</li> </ol>	
到達目標	フランス語会話力を習得し、現代社会の様々な事柄について詳細な意見ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Il est indispensable que les étudiants apprennent le vocabulaire et les structures vus en classe durant la première séance de chaque thème. Ils ne doivent plus regarder leurs notes à partir de la deuxième séance. Éventuellement, présentations à préparer à la maison.		
テキスト	Photocopies distribuées en cours		
参考文献			
評価方法	Contrôle continu basé sur la participation en cours. J'attends des étudiants une participation <u>active</u> , <u>spontanée</u> et <u>sur la durée</u> . L'entraide sera valorisée, le manque d'implication et la passivité seront sanctionnés.		

09年度以降	フランス語会話 II	担当者	A. ラモン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>Objectifs</u> :</p> <p>Approfondir ses connaissances lexicales et pragmatiques pour s'exprimer plus aisément sur des aspects centraux de la vie quotidienne.</p> <p>S'exprimer avec l'aide des structures apprises en cours, mais aussi utiliser les connaissances déjà acquises pour communiquer librement et spontanément.</p> <p><u>Déroulement</u> :</p> <p>Discussion et réactivation du vocabulaire et des expressions déjà connues.</p> <p>Enrichissement et exploitation : activités, projets en rapport avec le thème.</p> <p>Selon les thèmes, échanges de points de vue en groupes ou avec la classe.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Se renseigner pour acheter ou réserver un produit.</li> <li>2. Détailler les ingrédients et les étapes d'une recette de cuisine.</li> <li>3. Suite</li> <li>4. Parler d'habitudes présentes et passées.</li> <li>5. Suite.</li> <li>6. Analyser une publicité, produire une publicité.</li> <li>7. Suite.</li> <li>8. Raconter une anecdote, un accident.</li> <li>9. Suite.</li> <li>10. Résoudre un conflit.</li> <li>11. Suite</li> <li>12. Présenter un film ou un livre.</li> <li>13. Suite</li> <li>14. Discuter de sujets de société contemporains.</li> <li>15. Suite</li> </ol>	
到達目標	フランス語会話力を習得し、現代社会の様々な事柄について詳細な意見ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Il est indispensable que les étudiants apprennent le vocabulaire et les structures vus en classe durant la première séance de chaque thème. Ils ne doivent plus regarder leurs notes à partir de la deuxième séance. Éventuellement, présentations à préparer à la maison.		
テキスト	Photocopies distribuées en cours		
参考文献			
評価方法	Contrôle continu basé sur la participation en cours. J'attends des étudiants une participation <u>active</u> , <u>spontanée</u> et <u>sur la durée</u> . L'entraide sera valorisée, le manque d'implication et la passivité seront sanctionnés.		

09年度以降	フランス語会話Ⅰ	担当者	G. ヴェスイエール
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業の目的は、フランスやフランス語圏の国々に関連する話題について、自らの意見をわかりやすいフランス語で組み立てて述べられるようになることです。</p> <p>受講者の希望に沿って、主に時事問題に関する新聞記事や動画を毎回取り上げ、大まかな内容の確認をした後、思ったことや感じたことをできるだけ語学的に妥協せず、述べられるようにします。その際生じる文法的や語彙的な問題について解説し、生きたフランス語の習得を目指します（授業計画に挙げているテーマ一覧は一例に過ぎませんので、変更の可能性があります）。</p> <p>この授業は基本的にフランス語で進めるので、モチベーションの高い受講者を想定しています。とくにTCF320点以上取得者の積極的な受講をすすめます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 食文化</li> <li>3. 学校生活</li> <li>4. 芸術</li> <li>5. 男女格差</li> <li>6. メディア</li> <li>7. 人種差別</li> <li>8. 若者と社会</li> <li>9. 宗教と信仰</li> <li>10. ネット社会</li> <li>11. 経済格差</li> <li>12. 地政学</li> <li>13. ユーモア</li> <li>14. 政治</li> <li>15. 試験とまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	フランス語会話力を習得し、現代社会の様々な事柄について詳細な意見ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業中では和訳をしないので、知らない語彙を調べる等、毎週の予習は欠かせないこと。		
<b>テキスト</b>	プリント等を配布します		
<b>参考文献</b>	とくになし		
<b>評価方法</b>	授業への貢献度 50%＋定期試験 50%。ただし、出席回数が規定数に満たない場合、原則評価しません。		

09年度以降	フランス語会話Ⅱ	担当者	G. ヴェスイエール
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業の目的は、フランスやフランス語圏の国々に関連する話題について、自らの意見をわかりやすいフランス語で組み立てて述べられるようになることです。</p> <p>受講者の希望に沿って、主に時事問題に関する新聞記事や動画を毎回取り上げ、大まかな内容の確認をした後、思ったことや感じたことをできるだけ語学的に妥協せず、述べられるようにします。その際生じる文法的や語彙的な問題について解説し、生きたフランス語の習得を目指します（授業計画に挙げているテーマ一覧は一例に過ぎませんので、変更の可能性があります）。</p> <p>この授業は基本的にフランス語で進めるので、モチベーションの高い受講者を想定しています。とくにTCF320点以上取得者の積極的な受講をすすめます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 食文化</li> <li>3. 学校生活</li> <li>4. 芸術</li> <li>5. 男女格差</li> <li>6. メディア</li> <li>7. 人種差別</li> <li>8. 若者と社会</li> <li>9. 宗教と信仰</li> <li>10. ネット社会</li> <li>11. 経済格差</li> <li>12. 地政学</li> <li>13. ユーモア</li> <li>14. 政治</li> <li>15. 試験とまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	フランス語会話力を習得し、現代社会の様々な事柄について詳細な意見ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業中では和訳をしないので、知らない語彙を調べる等、毎週の予習は欠かせないこと。		
<b>テキスト</b>	プリント等を配布します		
<b>参考文献</b>	とくになし		
<b>評価方法</b>	授業への貢献度 50%＋定期試験 50%。ただし、出席回数が規定数に満たない場合、原則評価しません。		

09年度以降	フランス語会話 I	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>Objectif :</b> Prendre la parole en français d'une manière aussi décontractée que possible.</p> <p><b>Contenu :</b> Dans un premier temps nous échangerons les nouvelles de la semaine en petits groupes. Ensuite nous travaillerons à partir d'articles de presse ou bien de nouvelles de la radio française. Ce matériel sera le point de départ de notre cours de conversation. Ce cours s'adresse aux étudiants qui aiment parler, qui jouissent du plaisir de la conversation aussi bien en français qu'en japonais et qui sont décidés à participer activement à toutes les activités proposées.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Présentation du cours</li> <li>2. La musique</li> <li>3. La musique</li> <li>4. La chanson</li> <li>5. La chanson</li> <li>6. Le cinéma</li> <li>7. Le cinéma</li> <li>8. Le français qui bouge</li> <li>9. Le français qui bouge</li> <li>10. Les médias</li> <li>11. Les médias</li> <li>12. Les loisirs</li> <li>13. Partir en vacances</li> <li>14. Partir en vacances</li> <li>15. Bilan</li> </ol>	
到達目標	フランス語会話力を習得し、現代社会の様々な事柄について詳細な意見ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Chercher des nouvelles et revoir les expressions apprises pendant le cours.		
テキスト	Photocopies		
参考文献	Dictionnaire français		
評価方法	Participation active aux cours 100 %. Exposé en fin de semestre 100 %.		

09年度以降	フランス語会話 II	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>Objectif :</b> Prendre la parole en français d'une manière aussi décontractée que possible.</p> <p><b>Contenu :</b> Dans un premier temps nous échangerons les nouvelles de la semaine en petits groupes. Ensuite nous travaillerons à partir d'articles de presse ou bien de nouvelles de la radio française. Ce matériel sera le point de départ de notre cours de conversation. Ce cours s'adresse aux étudiants qui aiment parler, qui jouissent du plaisir de la conversation aussi bien en français qu'en japonais et qui sont décidés à participer activement à toutes les activités proposées.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Mise en train</li> <li>2. Le logement</li> <li>3. Le logement</li> <li>4. La maison</li> <li>5. Les repas</li> <li>6. Les repas</li> <li>7. Qui fait la cuisine à la maison?</li> <li>8. Qui fait les courses? Où? Comment?</li> <li>9. Qui fait les courses? Où? Comment?</li> <li>10. Nourrir toute la planète</li> <li>11. L'école de mes enfants</li> <li>12. Apprendre. Comment?</li> <li>13. Apprendre. Comment?</li> <li>14. Pourquoi parler plusieurs langues étrangères?</li> <li>15. Bilan</li> </ol>	
到達目標	フランス語会話力を習得し、現代社会の様々な事柄について詳細な意見ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Chercher des nouvelles et revoir les expressions apprises pendant le cours.		
テキスト	Photocopies		
参考文献	Dictionnaire français		
評価方法	Participation active aux cours 100 %. Exposé en fin de semestre 100 %.		

09年度以降	フランス語会話 I	担当者	Ph. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>Objectif</u> : (講義目的) Faire parler en français sur le thème des relations interpersonnelles, sous l'angle global (sociologique) et sous l'angle de l'expérience personnelle (psychologique)..</p> <p><u>Méthode</u> : (講義概要) Discussion en petits groupes, puis élargissement à l'ensemble de la classe; un thème par cours. Le thème est introduit par 1) un ensemble de questions préparés au préalable par l'enseignant; 2) une vidéo, des images, un texte très court, etc.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Présentation du thème général et de la méthode</li> <li>2. Apprendre à se connaître (entre les étudiants de la classe)</li> <li>3. Facebook</li> <li>4. Twitter</li> <li>5. Le débat : comme dire et défendre son opinion</li> <li>6. Enfants et parents</li> <li>7. Frère et sœur</li> <li>8. Faire un exposé : comment convaincre</li> <li>9. Bande ou groupe de jeunes</li> <li>10. Relations de voisinage</li> <li>11. La solidarité dans les catastrophes naturelles</li> <li>12. Étudiants et professeurs : la relation pédagogique</li> <li>13. La concurrence : éléments positifs, éléments négatifs</li> <li>14. Les liens tissés pendant les vacances</li> <li>15. Conclusions : retour sur l'ensemble des thèmes abordés au cours du semestre.</li> </ol>	
到達目標	フランス語会話力を習得し、現代社会の様々な事柄について詳細な意見ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Recherche sur Internet sur le thème du cours ; révision du nouveau vocabulaire appris en classe.		
テキスト	Photocopies		
参考文献	Dictionnaire français-français ; sites internet des journaux français		
評価方法	Deux petits exposés individuels seront notés.		

09年度以降	フランス語会話 II	担当者	Ph. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>Objectif</u> : (講義目的) Faire parler en français sur le thème des relations interpersonnelles, sous l'angle global (sociologique) et sous l'angle de l'expérience personnelle (psychologique)..</p> <p><u>Méthode</u> : (講義概要) Discussion en petits groupes, puis élargissement à l'ensemble de la classe; un thème par cours. Le thème est introduit par 1) un ensemble de questions préparés au préalable par l'enseignant; 2) une vidéo, des images, un texte très court, etc.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Présentation du thème général et de la méthode.</li> <li>2. Comment s'informer : télévision, radio, journaux, Internet</li> <li>3. Lire un livre, aller au théâtre.</li> <li>4. Comment regarder un film.</li> <li>5. Relations interpersonnelles au travail</li> <li>6. Signification de l'hospitalité</li> <li>7. La solidarité entre générations</li> <li>8. Comment communiquer</li> <li>9. Vie de couple (entre jeunes)</li> <li>10. Vie de couple (mari et femme), ou vie de célibataire.</li> <li>11. Partager un repas</li> <li>12. Le sport : gagner ou participer ; maintien de la santé</li> <li>13. Relations avec les animaux</li> <li>14. Le tourisme : richesse ou appauvrissement des relations avec les étrangers</li> <li>15. Conclusions : retour sur l'ensemble des thèmes abordés au cours du semestre.</li> </ol>	
到達目標	フランス語会話力を習得し、現代社会の様々な事柄について詳細な意見ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Recherche sur Internet sur le thème du cours ; révision du nouveau vocabulaire appris en classe.		
テキスト	Photocopies		
参考文献	Dictionnaire français-français ; sites internet des journaux français		
評価方法	Deux petits exposés individuels seront notés.		

09年度以降	ビジネスフランス語 I	担当者	C. パジェス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的</b> ビジネスのあらゆるシチュエーションにおいて、口頭及び文書でコミュニケーションできる力を身につけることを目標とします。</p> <p><b>講義概要</b> この授業では、ビジネスにおける様々なシチュエーション（ビジネスレターやメモの作成、電話での会話、アポイントメントの取り方など）を設定し、会話や文章作成の練習を行いながら、商業フランス語を学習します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction au cours / Programme</li> <li>2. La formation</li> <li>3. Les diplômes</li> <li>4. Exploitation / Evaluation</li> <li>5. Rechercher un emploi</li> <li>6. Candidature</li> <li>7. CV</li> <li>8. Exploitation / Evaluation</li> <li>9. Les pratiques de recrutement</li> <li>10. Lettre de motivation</li> <li>11. Entretien d'embauche</li> <li>12. Exploitation / Evaluation</li> <li>13. Les contrats de travail</li> <li>14. Professions et métiers</li> <li>15. Exploitation / Evaluation</li> </ol> <p>*講義内容は必要に応じて変更することがあります。</p>	
到達目標	基本的なフランス語表現力を習得し、ビジネスで活用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にプリントを読んでおいてください。授業後は勉強したことを見直しておいてください。		
テキスト	プリント 配布		
参考文献	特になし		
評価方法	平常点 70%、授業への参加態度 30%		

09年度以降	ビジネスフランス語 II	担当者	C. パジェス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的</b> ビジネスのあらゆるシチュエーションにおいて、口頭及び文書でコミュニケーションできる力を身につけることを目標とします。</p> <p><b>講義概要</b> この授業では、ビジネスにおける様々なシチュエーション（ビジネスレターやメモの作成、電話での会話、アポイントメントの取り方など）を設定し、会話や文章作成の練習を行いながら、商業フランス語を学習します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction au cours / Programme</li> <li>2. Organiser un déplacement</li> <li>3. Réserver une chambre d'hôtel</li> <li>4. Réserver un billet d'avion / de train</li> <li>5. Exploitation / Evaluation</li> <li>6. Organiser son emploi du temps</li> <li>7. Prendre contact par téléphone</li> <li>8. Courrier et courriel</li> <li>9. Exploitation / Evaluation</li> <li>10. Passer commande</li> <li>11. Importer et exporter</li> <li>12. Exploitation / Evaluation</li> <li>13. Découvrez l'entreprise</li> <li>14. Fonctions dans l'entreprise</li> <li>15. Exploitation / Evaluation</li> </ol> <p>*講義内容は必要に応じて変更することがあります。</p>	
到達目標	基本的なフランス語表現力を習得し、ビジネスで活用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にプリントを読んでおいてください。授業後は勉強したことを見直しておいてください。		
テキスト	プリント 配布		
参考文献	特になし		
評価方法	平常点 70%、授業への参加態度 30%		

09年度以降	上級フランス語 I	担当者	井上 美穂
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業の目的は、ニュース、ホームページ、新聞記事を教材として時事フランス語を学び、フランス語圏に関する知識を得ることです。具体的には、①ネット上にあるフランスのテレビ局のニュースをつかって聞き取り練習を行う、②フランス語で作られているホームページで情報を検索する、③ネット上にある新聞記事の読解を行う、という3種類の練習を行います。①②③は、同じテーマで選ばれます。この授業はTCF310点程度以上を取得した学生を対象としていますが、対象外で履修を希望する方は初回の授業で相談にいらして下さい。2018年のニュースを予測することはできませんので、参考として右の欄では2017年春学期に扱ったニュースを紹介します。</p>		<p>第1回：大統領選挙 候補者の活動  第2回：古くなった原発と、その廃炉  第3回：シリアと化学兵器  第4回：シャンゼリゼでテロ事件  第5回：5月1日のすずらん  第6回：日本のポテトチップスの危機  第7回：カンヌ映画祭  第8回：ベトナムのショコラ  第9回：地球温暖化  第10回：アステリクス  第11回：パリでテロ事件  第12回：自動車産業  第13回：下院「国民議会」選挙  第14回：ツールドフランス  第15回：7月14日</p>	
<b>到達目標</b>	フランス語で発信される情報について、その内容を的確に把握し、さらにその詳しい情報に自らアクセスできるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	予習は必要ありません。学習した内容を復習しながら、知識を積み上げて下さい。		
<b>テキスト</b>	教員が作成し、その都度授業で配布します。		
<b>参考文献</b>	参考文献の指定はありません。仏和辞書は必ず持参してください。		
<b>評価方法</b>	試験期間に行われるテストの得点で評価を行います。90点以上がAA、80点以上がA、70点以上がB、60点以上がC、60点未満は不可になります。		

09年度以降	上級フランス語 II	担当者	井上 美穂
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業の目的は、ニュース、ホームページ、新聞記事を教材として時事フランス語を学び、フランス語圏に関する知識を得ることです。具体的には、①ネット上にあるフランスのテレビ局のニュースをつかって聞き取り練習を行う、②フランス語で作られているホームページで情報を検索する、③ネット上にある新聞記事の読解を行う、という3種類の練習を行います。①②③は、同じテーマで選ばれます。この授業はTCF310点程度以上を取得した学生を対象としていますが、対象外で履修を希望する方は初回の授業で相談にいらして下さい。2018年のニュースを予測することはできませんので、参考として右の欄では2017年秋学期に扱ったニュースを紹介します。</p>		<p>第1回：フランスの農業  第2回：日本とEU, EPAで大筋合意  第3回：仏領Saint-Martin  第4回：エッフェル塔  第5回：スペインで独立を問う住民投票  第6回：EU  第7回：Made in France  第8回：ルーブル美術館  第9回：心のレストラン  第10回：ラグビー  第11回：マルシェドノエル  第12回：シュティ  第13回：Brexit  第14回：菓子ガレット・デ・ロワ  第15回：トヨタのフランス工場</p>	
<b>到達目標</b>	フランス語で発信される情報について、その内容を的確に把握し、さらにその詳しい情報に自らアクセスできるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	予習は必要ありません。学習した内容を復習しながら、知識を積み上げて下さい。		
<b>テキスト</b>	教員が作成し、その都度授業で配布します。		
<b>参考文献</b>	参考文献の指定はありません。仏和辞書は必ず持参してください。		
<b>評価方法</b>	試験期間に行われるテストの得点で評価を行います。90点以上がAA、80点以上がA、70点以上がB、60点以上がC、60点未満は不可になります。		

09年度以降	フランス語学論 I	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：形の変化の面（形態論）、構文の面（統語論）、発音の面（音声学・音韻論）、意味と構文との係わりの面（意味論）から、フランス語の仕組みを解明する。毎回の授業では、その授業でテーマとなる項目について現代フランス語における原則、制約を確認しながら、仕組みを解明していく。なお、大部分は過去2年間の講義内容とは異なるので、最長、3年6学期間重複履修しても、内容が重なることはほとんどない。</p> <p>受講者に求めること：フランス語そのものに興味を持ち、授業中には、随時、各自の意見を求めるので、常に考える姿勢を持っていて欲しい。他人の迷惑となるので私語については厳しく注意する。受講予定者は必ず第1回目の授業に出席すること。出席回数が規定回数に達しなければ、定期試験が満点でも評価対象としない。毎回出席をとる（遅刻2回で欠席1回）。就職活動等で欠席する場合には、授業開始前に欠席連絡をすれば欠席としてカウントしないが、原則として卒業再試験は行わないので注意すること。</p>		<p>第1回：ガイダンス、授業の進め方、評価方法の説明、フランス語学とはなにか</p> <p>第2回～第15回：（順不同）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フランス語における品詞の概念。</li> <li>・品詞分類の矛盾。</li> <li>・言語内世界と言語外世界。</li> <li>・文法性とはなにか。</li> <li>・否定文と冠詞の関係。</li> <li>・虚辞の <b>ne</b> とはなにか。</li> <li>・なぜ、受動態という形式が存在するのか。</li> <li>・なぜ、直説法現在形が現在以外の出来事を表せるのか。</li> <li>・なぜ、直説法半過去形が非現実の仮定を表せるのか。</li> </ul> <p>※扱うテーマは変更になる可能性がある。また、受講者が希望するテーマを扱うこともある。</p>	
到達目標	フランス語学の様々な分野に関して必要な専門知識を習得し、分析および論証ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	初級文法の内容を確認し、その応用的知識の獲得を目指す。毎回の授業は授業終了後、ビデオ配信する。		
テキスト	毎回プリントを配布する。		
参考文献	必要に応じて随時紹介する。		
評価方法	規定回数以上出席した者に対して、平常点、リアクションペーパー、論述形式の試験により評価する。出席規定回数を下回った者は、 <u>学年・学期を問わず</u> 評価しない。原則として卒業再試験は行わない。		

09年度以降	フランス語学論 II	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：形の変化の面（形態論）、構文の面（統語論）、発音の面（音声学・音韻論）、意味と構文との係わりの面（意味論）から、フランス語の仕組みを解明する。毎回の授業では、その授業でテーマとなる項目について現代フランス語における原則、制約を確認しながら、仕組みを解明していく。なお、大部分は過去2年間の講義内容とは異なるので、最長、3年6学期間重複履修しても、内容が重なることはほとんどない。</p> <p>受講者に求めること：フランス語そのものに興味を持ち、授業中には、随時、各自の意見を求めるので、常に考える姿勢を持っていて欲しい。他人の迷惑となるので私語については厳しく注意する。受講予定者は必ず第1回目の授業に出席すること。出席回数が規定回数に達しなければ、定期試験が満点でも評価対象としない。毎回出席をとる（遅刻2回で欠席1回）。就職活動等で欠席する場合には、授業開始前に欠席連絡をすれば欠席としてカウントしないが、原則として卒業再試験は行わないので注意すること。</p>		<p>第1回：ガイダンス、授業の進め方、評価方法の説明、フランス語学とはなにか</p> <p>第2回～第15回：（順不同）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・推論とはなにか。</li> <li>・副詞とはなにか</li> <li>・主な前置詞の用法。</li> <li>・なぜ <b>ma amie</b> ではなく <b>mon amie</b> と言うのか。</li> <li>・有音の <b>h</b> とはなにか。</li> <li>・なぜ、非人称構文が存在するのか。</li> <li>・なぜ、<b>Que Pierre a-t-il fait ?</b> とは言えないのか。</li> <li>・なぜ、疑問文以外でも主語倒置は起こるのか。</li> <li>・使役構文と放任構文の仕組み。</li> <li>・そもそも中性代名詞とは何か。</li> </ul> <p>※扱うテーマは変更になる可能性がある。また、受講者が希望するテーマを扱うこともある。</p>	
到達目標	フランス語学の様々な分野に関して必要な専門知識を習得し、分析および論証ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	初級文法の内容を確認し、その応用的知識の獲得を目指す。毎回の授業は授業終了後、ビデオ配信する。		
テキスト	毎回プリントを配布する。		
参考文献	必要に応じて随時紹介する。		
評価方法	規定回数以上出席した者に対して、平常点、リアクションペーパー、論述形式の試験により評価する。出席規定回数を下回った者は、 <u>学年・学期を問わず</u> 評価しない。原則として卒業再試験は行わない。		

09年度以降	フランス言語教育論 I	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>&lt;講義目的&gt; この授業では、フランス語教育を中心に外国語教育について、「学ぶ立場」と「教える立場」の両方からアプローチしながら考えます。「学ぶ立場」からでは見えない外国語学習（教育）を「教える立場」から眺めることで、自分自身にとってのより効果的な外国語学習法を模索することを目的としています。</p> <p>&lt;講義概要&gt; 様々な教授法の特徴を学びながら、効果的な学習法を探ります。毎回、授業の初めに聴解練習（compréhension orale）もしくは音読練習（シャドーイング）を行います。</p> <p>授業は、講義の他、個人やグループでの作業を中心に進めますので、履修する学生は欠席しないように。</p> <p>なお、<u>この授業の履修を希望する学生は必ず1回目の授業から出席してください。</u></p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. 文法訳読教授法 1</li> <li>3. 文法訳読教授法 2</li> <li>4. 文法訳読教授法 3</li> <li>5. 文法訳読教授法 4</li> <li>6. SGAV 1</li> <li>7. SGAV 2</li> <li>8. SGAV 3</li> <li>9. SGAV 4</li> <li>10. SGAV 5</li> <li>11. 試行錯誤の教授法 1</li> <li>12. 試行錯誤の教授法 2</li> <li>13. 文法訳読法から試行錯誤の時代まで 1</li> <li>14. 文法訳読法から試行錯誤の時代まで 2</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	「教える側」と「学ぶ側」との両方から、言語教育一般、とりわけ、フランス語教育に関する専門知識を習得し、実践できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に配布されるプリントを読み内容を把握しておく。それぞれの教授法の特徴などをノートにまとめる。		
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。		
参考文献	中村啓佑、長谷川富子（1996）：『フランス語をどのように教えるか』 駿河台出版社。		
評価方法	授業のまとめ（ノート）10%、グループ作業と発表 30%、学期末試験 60%		

09年度以降	フランス言語教育論 II	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>&lt;講義目的&gt; この授業では、フランス語教育を中心に外国語教育について、「学ぶ立場」と「教える立場」の両方からアプローチしながら考えます。「学ぶ立場」からでは見えない外国語学習（教育）を「教える立場」から眺めることで、自分自身にとってのより効果的な外国語学習法を模索することを目的としています。</p> <p>&lt;講義概要&gt; 様々な教授法の特徴を学びながら効果的な学習法を探ります。毎回、授業の初めに聴解練習（compréhension orale）もしくは音読練習（シャドーイング）を行います。</p> <p>授業は、講義の他、個人やグループでの作業を中心に進めますので、履修する学生は欠席しないように。</p> <p>なお、<u>この授業の履修を希望する学生は必ず1回目の授業から出席してください。</u></p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. 文法訳読法から試行錯誤の時代までの概観</li> <li>3. Approche communicative 1</li> <li>4. Approche communicative 2</li> <li>5. Approche communicative 3</li> <li>6. Approche communicative 4</li> <li>7. Approche communicative 5</li> <li>8. Approche communicative 6</li> <li>9. Approche actionnelle 1</li> <li>10. Approche actionnelle 2</li> <li>11. Approche actionnelle 3</li> <li>12. Approche actionnelle 4</li> <li>13. Approche actionnelle 5</li> <li>14. Approche communicative と Approche actionnelle</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	「教える側」と「学ぶ側」との両方から、言語教育一般、とりわけ、フランス語教育に関する専門知識を習得し、実践できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に配布されるプリントを読み内容を把握しておく。それぞれの教授法の特徴などをノートにまとめる。		
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。		
参考文献	中村啓佑、長谷川富子（1996）：『フランス語をどのように教えるか』 駿河台出版社。		
評価方法	授業のまとめ（ノート）10%、グループ作業と発表 30%、学期末試験 60%		

09年度以降	マスメディアのフランス語 I	担当者	野澤 丈二
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 これまでに学んできたフランス語の能力やフランス（語圏）に関する知識を土台として、さまざまなメディアで扱われているフランス語に触れていきます。内容を正確に把握するだけでなく、ある特定のテーマやジャンルが、それぞれのメディアのなかで、どのような文脈・意図・方法によって編集されたのかを理解し、批判的に読み解くことを目指します。</p> <p>【講義概要】 春学期は、「日本」をキーワードに授業を進めます。毎回、個別のメディアを取り上げ、「日本」に関してどのような情報やイメージが伝えられてきたのかを検討します。インターネットやSNSなど、最新のメディアから始め、徐々に時間を遡っていく形式をとります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. インターネット</li> <li>3. 新聞（20世紀）</li> <li>4. テレビとラジオ</li> <li>5. 漫画（バンド・デシネ）</li> <li>6. 学術書</li> <li>7. 映画</li> <li>8. 小説と旅行記（20世紀）</li> <li>9. 外交文書</li> <li>10. 旅行記（19世紀）</li> <li>11. 新聞と雑誌（19世紀）</li> <li>12. 百科全書（18世紀）</li> <li>13. 旅行記（17世紀）</li> <li>14. 宣教師の記録（16世紀）</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>※ 各回のテーマと順番は変更になる可能性があります。</p>	
到達目標	フランス語圏のマスメディアを通じて、フランス語表現やメディア文化を分析し、批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	フランスのメディアで扱われている日本の話題に関心を持ち、普段から目を配る。		
テキスト	特定の教科書は使用しません。必要に応じて、授業の際に資料を配布します。		
参考文献	授業時に適宜指示します		
評価方法	平常授業における発表や提出物など（45%）、期末レポート（55%）によって総合的に評価します。		

09年度以降	マスメディアのフランス語 II	担当者	野澤 丈二
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 これまでに学んできたフランス語の能力やフランス（語圏）に関する知識を土台として、さまざまなメディアで扱われているフランス語に触れていきます。内容を正確に把握するだけでなく、ある特定のテーマやジャンルが、それぞれのメディアのなかで、どのような文脈・意図・方法によって編集されたのかを理解し、批判的に読み解くことを目指します。</p> <p>【講義概要】 秋学期は、「食」をキーワードに授業を進めます。毎回、個別のメディアを取り上げ、フランスが「食」に関してどのような情報やイメージを伝えてきたのかを検討します。徐々に時間を遡っていく形式をとり、料理書やレストラン・ガイドなど、「食」ならではのメディアも扱います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. インターネット</li> <li>3. 外交文書</li> <li>4. テレビとラジオ</li> <li>5. 漫画（バンド・デシネ）</li> <li>6. 映画</li> <li>7. 新聞</li> <li>8. レシピとメニュー</li> <li>9. 雑誌と広告</li> <li>10. レストラン・ガイド</li> <li>11. 美食論（19世紀）</li> <li>12. 百科全書（18世紀）</li> <li>13. エチケット集（18世紀）</li> <li>14. 料理本（17世紀）</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>※ 各回のテーマと順番は変更になる可能性があります。</p>	
到達目標	フランス語圏のマスメディアを通じて、フランス語表現やメディア文化を分析し、批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	フランスのメディアで扱われている食の話題に関心を持ち、普段から目を配る。		
テキスト	特定の教科書は使用しません。必要に応じて、授業の際に資料を配布します。		
参考文献	授業時に適宜指示します		
評価方法	平常授業における発表や提出物など（45%）、期末レポート（55%）によって総合的に評価します。		

09年度以降	フランス語コミュニケーション各論Ⅰ	担当者	堀 晋也
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義ではフランス語を含めた外国語教育の様々な側面についての理解を深めていくことが目的となります。</p> <p>外国語教育の目的、外国語教育で扱う言語能力、文化とは何かなど外国語教育を実施する上で重要な問題について考えていきます。</p> <p>フランス語による外国語教育の概論のテキストを読み進めていきます。講義の内容を踏まえて日本の外国語教育ではどのような方策が可能かについてディスカッションを行います。</p>		<p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回～第3回：Principes et modalités d'ensemble</p> <p>第4回～第5回：Fondements, besoins, objectifs</p> <p>第6回～第8回： Compétences, thèmes, centres d'intérêts, stratégies</p> <p>第9回～第10回：Culture, cultures</p> <p>第11回～第12回：L'autonomie</p> <p>第13回～第15回：L'évaluation</p>	
<b>到達目標</b>	フランス語学の各論に関して専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前に資料を配布するので、ディスカッションの準備として目を通しておいてください。		
<b>テキスト</b>	授業中に配布します		
<b>参考文献</b>	必要に応じて授業中に紹介します		
<b>評価方法</b>	平常点（ディスカッションへの参加）50%，レポート50%		

09年度以降	フランス語コミュニケーション各論Ⅱ	担当者	堀 晋也
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義では、EUの言語教育の主要なテーマであり、近年日本の外国語教育でも導入が進められている複言語主義（Plurilinguisme）、異文化間教育について扱います。これらの根底にあるのは相互理解の促進のための言語教育という考え方です。言語政策から実践例、マクロとミクロ双方のレベルから理解を深めていきます。</p> <p>フランス語によるEUの言語教育政策の概論のテキストを読み進めていきます。講義の内容を踏まえて日本の外国語教育ではどのような応用が可能かについてディスカッションを行います。</p>		<p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回～第3回： La politique linguistique européenne et plurilinguisme</p> <p>第4回～第5回： L'intercompréhension: une voie pour plurilinguisme</p> <p>第6回～第8回： L'intercompréhension: les principes en jeu</p> <p>第9回～第10回： L'intercompréhension écrite: stratégie et technique</p> <p>第11回～第12回： L'intercompréhension à l'oral: problèmes et solutions</p> <p>第13回～第14回： Concevoir des parcours pédagogiques</p> <p>第15回：まとめ</p>	
<b>到達目標</b>	フランス語学の各論に関して専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前に資料を配布するので、ディスカッションの準備として目を通しておいてください。		
<b>テキスト</b>	授業中に配布します		
<b>参考文献</b>	必要に応じて授業中に紹介します		
<b>評価方法</b>	平常点（ディスカッションへの参加）50%，レポート50%		

09年度以降	フランス語コミュニケーション各論Ⅰ	担当者	木田 剛
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義ではフランス語でのコミュニケーションについて学びます。単にフランス語会話を上達するための授業ではなく、フランス語でのコミュニケーションの際だった特徴は何かについて、具体的な例をとりあげながら理解を深めていきます。コミュニケーションは一方向的な情報伝達ではなく、相手との相互の対話、交渉を含んでいます。フランス語にはどのような対話の技術、交渉術があるのかを学んでいきます。</p> <p>今年度は、現代社会に関するいくつかのトピックを取り上げ、フランス語の文章と日本語の文章を例に挙げながら解説していきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーションとは何か。(総論)</li> <li>2. フランス語コミュニケーションの特徴(発想)</li> <li>3. フランス語コミュニケーションの特徴(論述)</li> <li>4. フランス語コミュニケーションの特徴(プレゼンテーションの方法)</li> <li>5. トピック1(例:日仏の人口問題)</li> <li>6. トピック2(例:移民問題)</li> <li>7. トピック3(例:女性の地位)</li> <li>8. トピック4(例:学校教育と学歴社会)</li> <li>9. トピック5(例:幸福の価値観)</li> <li>10. トピック6(例:観光大国フランス)</li> <li>11. トピック7(例:世界文化遺産)</li> <li>12. トピック8(例:フランコフォニーの世界)</li> <li>13. フランス語でのプレゼンテーションⅠ</li> <li>14. フランス語でのプレゼンテーションⅡ</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol> <p>※授業内容は変更となることがありますので、詳細は初回時に指示します。</p>	
<b>到達目標</b>	フランス語学の各論に関して専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業中取り上げたトピックについて事後に資料を調べ、自らの考えをレポートにまとめて提出してください。		
<b>テキスト</b>	日仏経済交流会編『フランス人の流儀』(大修館書店、2012年)および授業中に資料を配布します。		
<b>参考文献</b>	ジェラルド・ブシャール『間文化主義』(彩流社、2017年)など授業中に紹介・解説します。		
<b>評価方法</b>	(1) 平常授業の参加度(質問・議論) 25% (2) 課題に関する自主的取組 25% (3) 定期試験 50%		

09年度以降	フランス語コミュニケーション各論Ⅱ	担当者	木田 剛
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期に引き続き、この講義ではフランス語でのコミュニケーションについて学びます。単にフランス語会話を上達するための授業ではなく、フランス語でのコミュニケーションの際だった特徴は何かについて、具体的な例をとりあげながら理解を深めていきます。コミュニケーションは一方向的な情報伝達ではなく、相手との相互の対話、交渉を含んでいます。この講義では、とりわけ、フランス語における交渉の技術について学んでいきます。</p> <p>春学期に取り上げなかったトピック、またはさらに掘り下げて考察したいトピックを取り上げ、フランス語の文章と日本語の文章を例に挙げながら、交渉力を高めることを目指します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. フランス語での交渉とは何か。</li> <li>2. フランス語での交渉のレトリックⅠ</li> <li>3. フランス語での交渉レトリックⅡ</li> <li>4. フランス語での説得力のある文章とは。</li> <li>5. トピック1(例:科学技術は世界を変えられるか)</li> <li>6. トピック2(例:バイリンガルは必要か)</li> <li>7. トピック3(例:大学での学びと将来の夢)</li> <li>8. トピック4(例:人口知能は仕事をうばうか)</li> <li>9. トピック5(例:留学は不可欠か)</li> <li>10. トピック6(例:格差をなくすためには?)</li> <li>11. トピック7(例:インターンシップの意義は?)</li> <li>12. トピック8(例:文化力とは何か)</li> <li>13. 私の主張1(フランス語によるプレゼンテーション)</li> <li>14. 私の主張2(フランス語によるプレゼンテーション)</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol> <p>※授業内容は変更となることがありますので、詳細は初回時に指示します。</p>	
<b>到達目標</b>	フランス語学の各論に関して専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業中取り上げたトピックについて事後に資料を調べ、自らの考えをレポートにまとめて提出してください。		
<b>テキスト</b>	事前に各授業ごとに配布するテキストを読み、事後は自己の考えを発展させるために作文をする。		
<b>参考文献</b>	ジェラルド・ブシャール『間文化主義』(彩流社、2017年)など授業中に紹介・解説します。		
<b>評価方法</b>	(1) 平常授業の参加度(質問・議論) 25% (2) 課題に関する自主的取組 25% (3) 定期試験 50%		

09年度以降	フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	担当者	P h. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>But du cours : Pouvoir lire et comprendre des textes d'actualité de nature politique, sociologique ou économique.</p> <p>Contenu : lecture d'articles de journaux, écrits ou publiés sur le web, ayant rapport à la francophonie, à la France d'outre-mer, surtout aux sociétés de l'océan Pacifique sud.</p> <p>Méthode : Je donne, une semaine à l'avance, le texte et une série de questions à préparer. Pendant le cours : lecture, réponse aux questions, travail sur quelques points de grammaire, informations sur le point abordé dans le texte.</p> <p>Pas de traduction.</p>		<p>1. Présentation</p> <p>2-6. Lecture du 1er article selon la méthode exposée ci-contre</p> <p>(6. petit test de vocabulaire)</p> <p>7-10. Lecture du 2e article selon la méthode exposée ci-contre</p> <p>(10. petit test de vocabulaire)</p> <p>11-15. Lecture du 3e article selon la méthode exposée ci-contre</p>	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランス語学に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Recherche du vocabulaire, répondre aux questions, recherche sur internet ou autres moyens sur le thème évoqué par l'article en cours de lecture.		
テキスト	Photocopies.		
参考文献	Il est recommandé d'avoir un dictionnaire français-français, par exemple le <i>Larousse de poche</i> 2018.		
評価方法	Tests de vocabulaire (20%), examen semestriel de compréhension des textes (70%) et lecture à haute voix (10%).		

09年度以降	フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	担当者	P h. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Voir les explications données ci-dessus pour le premier semestre.</p>		<p>1. Présentation</p> <p>2-6. Lecture du 1er article selon la méthode exposée ci-contre</p> <p>(6. petit test de vocabulaire)</p> <p>7-10 Lecture du 2e article selon la méthode exposée ci-contre</p> <p>(10. petit test de vocabulaire)</p> <p>11-15 Lecture du 3e article selon la méthode exposée ci-contre</p>	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランス語学に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Recherche du vocabulaire, répondre aux questions, recherche sur internet ou autres moyens sur le thème évoqué par l'article en cours de lecture.		
テキスト	Photocopies.		
参考文献	Il est recommandé d'avoir un dictionnaire français-français, par exemple le <i>Larousse de poche</i> 2018.		
評価方法	Tests de vocabulaire (20%), examen semestriel de compréhension des textes (70%) et lecture à haute voix (10%).		

09年度以降	フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：辞書があればどんな文章でも読めるようなフランス語読解力を養成する。</p> <p>講義概要：フランス語の文章を理解するために不可欠な様々な表現・構文を、様々な文体の1・2行程度の文章を、文法事項を確認しながら、とにかく丁寧に読んでいく。仏検準2級・2級程度の文章を扱う。</p> <p>その他：毎回ランダムに全員を指名。予習していなかったり、指名されてから訳し始めた場合などは減点。指名された時に他人の訳を読むような不正行為をした人はFとする。就職活動で欠席する場合には、授業前に欠席連絡をし、訳文を指定時刻までにメールで提出すれば減点しない（未提出なら減点）。試験は応用問題。初回の授業で2回目以降の教材を配布するので、受講予定者は必ず第1回目の授業に出席すること（2回目から全員指名する。初回に出席できない場合には必ず1週目の間に連絡してプリントを取りに来ること）。単語テストを毎回冒頭に実施する。他人の迷惑となるので私語については厳しく注意する。</p>		<p>第1回：ガイダンス、授業の進め方、予習方法の説明</p> <p>第2回～第15回：以下のような構文を扱う：主語の把握、否定構文（各種否定表現、部分否定、二重否定、虚辞のne）、強調構文、推量構文、目的構文、結果構文など。これ以外にも受講生の要望があれば、それを扱う。なお、授業方針はこれまで同様であるが、文章自体は全て過去2年間とは別の文章を扱う。また、扱う文章はラシーヌ・スタンダールといった文学作品から新聞・雑誌の記事、ブログ、料理のレシピ、仏検の過去問題等、さまざまな分野・文体のものである。1つの作品を読んでいくという形式ではない。</p>	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランス語学に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に解説した構文を確認しながら課題文を訳す。毎回の授業は授業終了後、ビデオ配信する。		
テキスト	プリントを使用。欠席した場合には ( <a href="http://www.birdcompany.ch/">http://www.birdcompany.ch/</a> ) からダウンロードしておくこと。		
参考文献	必要に応じて随時紹介する。		
評価方法	規定回数以上出席した者に対して、毎回の単語小テスト＋発表内容、定期試験により評価する。出席規定回数を下回った者は、 <u>学年・学期を問わず</u> 評価しない。原則として卒業再試験は行わない。		

09年度以降	フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：辞書があればどんな文章でも読めるようなフランス語読解力を養成する。</p> <p>講義概要：フランス語の文章を理解するために不可欠な様々な表現・構文を、様々な文体の1・2行程度の文章を、文法事項を確認しながら、とにかく丁寧に読んでいく。仏検準2級・2級程度の文章を扱う。</p> <p>その他：毎回ランダムに全員を指名。予習していなかったり、指名されてから訳し始めた場合などは減点。指名された時に他人の訳を読むような不正行為をした人はFとする。就職活動で欠席する場合には、授業前に欠席連絡をし、訳文を指定時刻までにメールで提出すれば減点しない（未提出なら減点）。試験は応用問題。初回の授業で2回目以降の教材を配布するので、受講予定者は必ず第1回目の授業に出席すること（2回目から全員指名する。初回に出席できない場合には必ず1週目の間に連絡してプリントを取りに来ること）。単語テストを毎回冒頭に実施する。他人の迷惑となるので私語については厳しく注意する。</p>		<p>第1回：ガイダンス、授業の進め方、予習方法の説明</p> <p>第2回～第15回：以下のような構文を扱う：対立・譲歩構文、比較構文、時の構文、使役構文、放任構文など。これ以外にも受講生の要望があれば、それを扱う。</p> <p>なお、授業方針は昨年度同様であるが、文章自体は全て昨年度、春学期とは別のものを扱う。また、扱う文章はラシーヌ・スタンダールといった文学作品から新聞・雑誌の記事、ブログ、料理のレシピ、仏検の過去問題等、さまざまな分野・文体のものである。1つの作品を読んでいくという形式ではない。</p>	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランス語学に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に解説した構文を確認しながら課題文を訳す。毎回の授業は授業終了後、ビデオ配信する。		
テキスト	プリントを使用。欠席した場合には ( <a href="http://www.birdcompany.ch/">http://www.birdcompany.ch/</a> ) からダウンロードしておくこと。		
参考文献	必要に応じて随時紹介する。		
評価方法	規定回数以上出席した者に対して、毎回の単語小テスト＋発表内容、定期試験により評価する。出席規定回数を下回った者は、 <u>学年・学期を問わず</u> 評価しない。原則として卒業再試験は行わない。		

09年度以降	フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	担当者	横地 卓哉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>戯曲（舞台化された小説・物語を含む）の冒頭をとりあげ、登場人物間、登場人物と観客の間、作者（および演出家・役者など）と観客の間のコミュニケーションを成立させるためにどのような仕組み・仕掛けが工夫されているのか、考えるきっかけにします。</p> <p>舞台化が想定された作品を文学・芸術としてではなく、コミュニケーションの手段としてとらえるわけですが、音声化することの重要性は共通することがらですので、声に出してテキストをよむことにも力を入れます。</p> <p>事前にテキストに目をおし、ある程度理解したうえで授業に臨むことはもちろん最低限の条件・大前提ですが、授業中に意見を交換しながらみんなで一緒に考えることを大切にしたいと思います。</p> <p>第1回目の授業で、授業を進めていくうえで前提となる受講者の力を知るために、小テストをおこないます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・ガイダンス・小テスト</li> <li>2. Saint-Exupéry, <i>Le Petit Prince</i> (1)</li> <li>3. (2)</li> <li>4. (3)</li> <li>5. (4)</li> <li>6. Camus, <i>Caligula</i> (1)</li> <li>7. (2)</li> <li>8. (3)</li> <li>9. Beckett, <i>En attendant Godot</i> (1)</li> <li>10. (2)</li> <li>11. (3)</li> <li>12. Sarraute, <i>Pour un oui ou pour un non</i> (1)</li> <li>13. (2)</li> <li>14. (3)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランス語学に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所目をおし、事後学修（課題・小テストの準備等を含む）については授業中に指示します。		
テキスト	担当教員が用意します。（配布方法については PorTa の利用を検討中）		
参考文献	授業中に紹介します。		
評価方法	第1回目の授業時の小テスト 10%、小テスト・課題・レポート等 60%、授業へ参加度 30% 4年生に対する特別の配慮は一切しないので、承知の上で登録・受講すること。		

09年度以降	フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	担当者	横地 卓哉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>戯曲（舞台化された小説・物語を含む）の冒頭をとりあげ、登場人物間、登場人物と観客の間、作者（および演出家・役者など）と観客の間のコミュニケーションを成立させるためにどのような仕組み・仕掛けが工夫されているのか、考えるきっかけにします。</p> <p>舞台化が想定された作品を文学・芸術としてではなく、コミュニケーションの手段としてとらえるわけですが、音声化することの重要性は共通することがらですので、声に出してテキストをよむことにも力を入れます。</p> <p>事前にテキストに目をおし、ある程度理解したうえで授業に臨むことはもちろん最低限の条件・大前提ですが、授業中に意見を交換しながらみんなで一緒に考えることを大切にしたいと思います。</p> <p>第1回目の授業で、授業を進めていくうえで前提となる受講者の力を知るために、小テストをおこないます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・ガイダンス・小テスト</li> <li>2. Anouilh, <i>Antigone</i> (1)</li> <li>3. (2)</li> <li>4. (3)</li> <li>5. (4)</li> <li>6. Sartre, <i>Huis clos</i> (1)</li> <li>7. (2)</li> <li>8. (3)</li> <li>9. Ionesco, <i>La Cantatrice chauve</i> (1)</li> <li>10. (2)</li> <li>11. (3)</li> <li>12. Schmitt, <i>Petits crimes conjugaux</i> (1)</li> <li>13. (2)</li> <li>14. (3)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランス語学に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所目をおし、事後学修（課題・小テストの準備等を含む）については授業中に指示します。		
テキスト	担当教員が用意します。（配布方法については PorTa の利用を検討中）		
参考文献	授業中に紹介します。		
評価方法	第1回目の授業時の小テスト 10%、小テスト・課題・レポート等 60%、授業へ参加度 30% 4年生に対する特別の配慮は一切しないので、承知の上で登録・受講すること。		

09年度以降	フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	担当者	G. ヴェスイエール
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業の目的は、時事問題を扱ったフランス語の記事を丁寧に読み取って、感想や意見をフランス語で述べることです。</p> <p>毎回、記事の抜粋を丁寧に音読し、内容と文法事項の確認をしてから、そのテーマについて意見交換をします（授業計画に挙げているテーマ一覧は一例に過ぎませんので、変更の可能性があります）。</p> <p>この授業はフランス語で進めるので、とくにモチベーションの高い受講者を想定しています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 食文化</li> <li>3. 学校生活</li> <li>4. 芸術</li> <li>5. 男女格差</li> <li>6. メディア</li> <li>7. 人種差別</li> <li>8. 若者と社会</li> <li>9. 宗教と信仰</li> <li>10. ネット社会</li> <li>11. 経済格差</li> <li>12. 地政学</li> <li>13. ユーモア</li> <li>14. 政治</li> <li>15. 試験とまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランス語学に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業中では和訳をしないので、知らない語彙を調べる等、毎週の予習は欠かせないこと。		
<b>テキスト</b>	プリント等を配布します		
<b>参考文献</b>	とくになし		
<b>評価方法</b>	授業への貢献度 50%＋定期試験 50%。ただし、出席回数が規定数に満たない場合、原則評価しません。		

09年度以降	フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	担当者	G. ヴェスイエール
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業の目的は、時事問題を扱ったフランス語の記事を丁寧に読み取って、感想や意見をフランス語で述べることです。</p> <p>毎回、記事の抜粋を丁寧に音読し、内容と文法事項の確認をしてから、そのテーマについて意見交換をします（授業計画に挙げているテーマ一覧は一例に過ぎませんので、変更の可能性があります）。</p> <p>この授業はフランス語で進めるので、とくにモチベーションの高い受講者を想定しています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 食文化</li> <li>3. 学校生活</li> <li>4. 芸術</li> <li>5. 男女格差</li> <li>6. メディア</li> <li>7. 人種差別</li> <li>8. 若者と社会</li> <li>9. 宗教と信仰</li> <li>10. ネット社会</li> <li>11. 経済格差</li> <li>12. 地政学</li> <li>13. ユーモア</li> <li>14. 政治</li> <li>15. 試験とまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランス語学に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業中では和訳をしないので、知らない語彙を調べる等、毎週の予習は欠かせないこと。		
<b>テキスト</b>	プリント等を配布します		
<b>参考文献</b>	とくになし		
<b>評価方法</b>	授業への貢献度 50%＋定期試験 50%。ただし、出席回数が規定数に満たない場合、原則評価しません。		

09年度以降	フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	担当者	堀 晋也
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義では、フランス語におけるオーラルコミュニケーション、インタラクションがどのような構造から成り立っているのか、またそれぞれのやり取りにおいてどのような原理が働いているのかについて、様々な実例を分析しながら理解を深めていきます。</p> <p>フランス語で書かれたコミュニケーションに関するテキストを読み進めていきます。テキストでは様々なやり取りの実例が紹介されていますが、それぞれについて講義の内容を踏まえたディスカッションを行います。</p>		<p>第1回：イントロダクション  第2回～第3回：Quelques préalables  第4回～第5回：L'oral dans l'enseignement du français  第6回～第8回：  Les notions de base en matière d' interaction  第9回～第11回：Language et action  第12回～第14回：La parole en interaction  第15回：まとめ</p>	
<b>到達目標</b>	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランス語学に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前に資料を配布するので、ディスカッションの準備として目を通しておいてください。		
<b>テキスト</b>	授業中に配布します		
<b>参考文献</b>	必要に応じて授業中に紹介します		
<b>評価方法</b>	平常点（ディスカッションへの参加）50%，レポート50%		

09年度以降	フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	担当者	堀 晋也
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義では、フランス語におけるオーラルコミュニケーション、インタラクションがどのような構造から成り立っているのか、またそれぞれのやり取りにおいてどのような原理が働いているのかについて、様々な実例を分析しながら理解を深めていきます。</p> <p>春学期の続きとしてフランス語で書かれたコミュニケーションに関するテキストを読み進めていきます。テキストでは様々なやり取りの実例が紹介されていますが、それぞれについて講義の内容を踏まえたディスカッションを行います。</p>		<p>第1回：イントロダクション  第2回～第5回：Variation situationnelles  第6回～第8回：Rituels et routines dans l'interaction  第9回～第12回：  La représentation de l'interaction dans formes de “dialogue fictionnel”  第13回～第14回：  Comprendre et pratiquer l'oral en classe  第15回：まとめ</p>	
<b>到達目標</b>	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランス語学に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前に資料を配布するので、ディスカッションの準備として目を通しておいてください。		
<b>テキスト</b>	授業中に配布します		
<b>参考文献</b>	必要に応じて授業中に紹介します		
<b>評価方法</b>	平常点（ディスカッションへの参加）50%，レポート50%		

09年度以降	フランスの美術 I	担当者	阿部 明日香
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的： 17世紀から19世紀までの代表的なフランス絵画を取りあげます。前半はキリスト教、古代ギリシア神話など、「物語画」の主題を取り上げ、それらの「読み方」を学びます。後半は、近代フランスの歴史的・文化的・社会的コンテクストをふまえた上で、同時代の事件や生活を描いた絵画について理解を深めます。</p> <p>講義概要： 毎回ひとつのテーマを取り上げ、画像や映像を用いて複数の作品を比較検討していきます。受講生の皆さんには毎回コメントペーパーを書いて提出してもらいます。コメントの内容を次回の授業で取り上げ、さらに解説を加える場合もあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 宗教画 1：旧約聖書の主題</li> <li>3. 宗教画 2：新約聖書の主題</li> <li>4. 寓意画</li> <li>5. 神話画 1：アポロとムーサたち</li> <li>6. 神話画 2：ディアナ</li> <li>7. 神話画 3：ウェヌス</li> <li>8. 神話画 4：ユピテル</li> <li>9. 古代史を主題にした絵画</li> <li>10. 同時代の事件を主題にした絵画 1</li> <li>11. 同時代の事件を主題にした絵画 2</li> <li>12. 近代生活を主題にした絵画 1</li> <li>13. 近代生活を主題にした絵画 2</li> <li>14. 近代生活を主題にした絵画 3</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	時代的背景を捉えながら、代表的な芸術家や作品など、フランスの美術に関する専門知識を習得し、鑑賞のうえ批評できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業で指示された参考文献を読む。美術館、画集などで作品に親しむ。		
<b>テキスト</b>	プリントを配布します。		
<b>参考文献</b>	授業中に適宜紹介します。		
<b>評価方法</b>	学期末試験（80%）、毎回のコメントペーパー（10%）、美術館レポート（10%） ただし「美術館見学レポート」を提出することが試験を受ける条件となります。		

09年度以降	フランスの美術 II	担当者	阿部 明日香
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的： 毎回一つのキーワードを起点とし、美術作品を批判的に読み解いてゆくことで、絵画をはじめとする表象文化が提起する問題について理解を深めます。 講義をとおして、フランスの美術にとどまらず、身の回りのさまざまな事象についても、自ら分析する力を養うことを目的とします。</p> <p>講義概要： 画像や映像を用いて作品を見ながら解説していきます。受講生の皆さんには毎回コメントペーパーを書いて提出してもらいます。コメントの内容を次回の授業で取り上げ、さらに解説を加える場合もあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 権力と美術 1</li> <li>3. 権力と美術 2</li> <li>4. オリジナリティと規範 1</li> <li>5. オリジナリティと規範 2</li> <li>6. ジェンダー 1</li> <li>7. ジェンダー 2</li> <li>8. オリエンタリズム 1</li> <li>9. オリエンタリズム 2</li> <li>10. ジャポニスム 1</li> <li>11. ジャポニスム 2</li> <li>12. プリミティヴィスム 1</li> <li>13. プリミティヴィスム 2</li> <li>14. まとめ 1</li> <li>15. まとめ 2</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	時代的背景を捉えながら、代表的な芸術家や作品など、フランスの美術に関する専門知識を習得し、鑑賞のうえ批評できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業で指示された参考文献を読む。美術館、画集などで作品に親しむ。		
<b>テキスト</b>	プリントを配布します。		
<b>参考文献</b>	参考文献は授業中に適宜紹介します。		
<b>評価方法</b>	学期末試験（80%）、毎回のコメントペーパー（10%）、美術館レポート（10%） ただし「美術館見学レポート」を提出することが試験を受ける条件となります。		

09年度以降	フランスの音楽Ⅰ	担当者	松橋 麻利
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期は、バロック時代（17～18世紀半ば）のイタリア、ドイツ、フランスの主要三カ国の音楽を比較し、さらにフランス・バロックから継承されたフランス的なものが19世紀後半にどのような形で表現されるかを見ます。それによってフランス音楽の特質を理解することが目的です。</p> <p>講義は可能なかぎり音楽を聴き、映像を見ながら進めますので、それに真摯に向き合い自分はどう受け止めるかをつねに意識するようにしてください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. イタリア・バロック (1)</li> <li>3. イタリア・バロック (2)</li> <li>4. イタリア・バロック (3)</li> <li>5. ドイツ・バロック (1)</li> <li>6. ドイツ・バロック (2)</li> <li>7. ドイツ・バロック (3)</li> <li>8. フランス・バロック (1)</li> <li>9. フランス・バロック (2)</li> <li>10. フランス・バロック (3)</li> <li>11. ヴァトーの絵画の時代の音楽</li> <li>12. ヴァトーの絵画とヴェルレーヌの詩と歌曲 (1)</li> <li>13. ヴァトーの絵画とヴェルレーヌの詩と歌曲 (2)</li> <li>14. ヴァトーの絵画とヴェルレーヌの詩と歌曲 (3)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	ヨーロッパ芸術音楽の歴史や国民性の違いなど、フランスの音楽に関する専門知識を習得し、鑑賞のうえ批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布プリントと紹介する参考文献を読み、授業中に触れる作品を自らも積極的に聴くこと。		
テキスト	プリント		
参考文献	ガイダンス時に紹介		
評価方法	試験 100%（中間と期末の合計）。受験資格：各期の3分の2以上の出席		

09年度以降	フランスの音楽Ⅱ	担当者	松橋 麻利
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期は、まず伝統的な宗教音楽の一ジャンルであるレクイエムに焦点を当てます。そして美意識が変化する20世紀前半にフランス音楽は、伝統とつながりながらもどのように新しい創造を試みたかを見ていきます。ここでもフランス音楽の特質を実感することが目的です。</p> <p>講義は可能なかぎり音楽を聴き、映像を見ながら進めますので、それに真摯に向き合い自分はどう受け止めるかをつねに意識するようにしてください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 宗教音楽 (1)：ミサ曲とレクイエム</li> <li>3. 宗教音楽 (2)：モーツァルトからベルリオーズへ</li> <li>4. 宗教音楽 (3)：19世紀のレクイエム</li> <li>5. 宗教音楽 (4)：フォーレのレクイエム</li> <li>6. 20世紀における美意識の変化：ストラヴィンスキー</li> <li>7. キリスト者・鳥類学者メシアン</li> <li>8. サティ</li> <li>9. 六人組 (1)：オネゲル (1)</li> <li>10. 六人組 (2)：オネゲル (2)</li> <li>11. 六人組 (3)：ミヨー (1)</li> <li>12. 六人組 (4)：ミヨー (2)</li> <li>13. 六人組 (5)：プーランク (1)</li> <li>14. 六人組 (6)：プーランク (2)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	ヨーロッパ芸術音楽の歴史や国民性の違いなど、フランスの音楽に関する専門知識を習得し、鑑賞のうえ批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布プリントと紹介する参考文献を読み、授業中に触れる作品を自らも積極的に聴くこと。		
テキスト	プリント		
参考文献	ガイダンス時に紹介		
評価方法	試験 100%（中間と期末の合計）。受験資格：各期の3分の2以上の出席。		

09年度以降	フランスの舞台芸術Ⅰ	担当者	江花 輝昭
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>今年度は、17世紀に活躍し、今なおフランスでもっとも上演回数が多いことで知られる、フランス最高の喜劇作家モリエール（1622-1673）の生涯と作品を取り上げます。</p> <p>春学期は、モリエールの生い立ちから始めて、パリで劇団を旗揚げするも失敗した後、長い地方巡業時代を経てパリに帰還し、国王の愛顧を得て劇作家として成功を収めるまでの足跡をたどります。作品としては、いわゆる本格喜劇の三大傑作と言われる『タルチュフ』『ドン・ジュアン』『ミザントロップ（人間嫌い）』の分析が主となります。受講者の理解を助けるために、映像、音声等も活用します。</p> <p>ただ教室に座っていれば単位がもらえると思っているような人は受講無用です。評価は厳しいので、Aを揃えたいような人には不向きです。積極的な授業参加の意欲の持ち主を歓迎します。授業の質は受講者の質によっても左右されます。</p> <p>なお、授業計画は一応の目安に過ぎず、必ずしも予定通り進行するものではないことをお断りしておきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業概要の説明</li> <li>2. モリエールの幼少時代</li> <li>3. 学校時代から演劇の道へ</li> <li>4. 「盛名劇団」の旗揚げから地方巡業へ</li> <li>5. パリ帰還と定着までの軌跡</li> <li>6. 『女房学校』</li> <li>7. 『タルチュフ』（1）</li> <li>8. 『タルチュフ』（2）</li> <li>9. 『タルチュフ』（3）</li> <li>10. 『ドン・ジュアン』（1）</li> <li>11. 『ドン・ジュアン』（2）</li> <li>12. 『ドン・ジュアン』（3）</li> <li>13. 『ミザントロップ（人間嫌い）』（1）</li> <li>14. 『ミザントロップ（人間嫌い）』（2）</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	フランス舞台芸術と時代・社会・文化との影響関係など、フランスの舞台芸術に関する専門知識を習得し、鑑賞のうえ批評できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業時に指示する。		
<b>テキスト</b>	なし		
<b>参考文献</b>	授業時に紹介。		
<b>評価方法</b>	レポート 100%（ただし3分の2以上出席しなかった場合には自動的にFまたはFG評価とする）		

09年度以降	フランスの舞台芸術Ⅱ	担当者	江花 輝昭
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>今年度は、17世紀に活躍し、今なおフランスでもっとも上演回数が多いことで知られる、フランス最高の喜劇作家モリエール（1622-1673）の生涯と作品を取り上げます。</p> <p>秋学期は、モリエールが宮廷での上演のために創作し、宮廷音楽家リュリの協力のもと発展させた総合的な舞台芸術形式であるコメディ・バレエの分析を中心に授業を行います。コメディ・バレエは、モリエール独自の喜劇の型紙に、伝統的な宮廷バレエを合体させたものです。受講者の理解を助けるために、映像、音声等も活用します。</p> <p>ただ教室に座っていれば単位がもらえると思っているような人は受講無用です。評価は厳しいので、Aを揃えたいような人には不向きです。積極的な授業参加の意欲の持ち主を歓迎します。授業の質は受講者の質によっても左右されます。</p> <p>なお、授業計画は一応の目安に過ぎず、必ずしも予定通り進行するものではないことをお断りしておきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業概要の説明</li> <li>2. 『ミザントロップ（人間嫌い）』以降のモリエール</li> <li>3. ルイ14世と宮廷祝祭（1）</li> <li>4. ルイ14世と宮廷祝祭（2）</li> <li>5. 宮廷バレエとコメディ・バレエ誕生の経緯（1）</li> <li>6. 宮廷バレエとコメディ・バレエ誕生の経緯（2）</li> <li>7. 『うさぎがた』</li> <li>8. 『町人貴族』（1）</li> <li>9. 『町人貴族』（2）</li> <li>10. 『町人貴族』（3）</li> <li>11. リュリとモリエールの確執（1）</li> <li>12. リュリとモリエールの確執（2）</li> <li>13. 『病は気から』（1）</li> <li>14. 『病は気から』（2）</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	フランス舞台芸術と時代・社会・文化との影響関係など、フランスの舞台芸術に関する専門知識を習得し、鑑賞のうえ批評できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業時に指示する。		
<b>テキスト</b>	なし		
<b>参考文献</b>	授業時に紹介。		
<b>評価方法</b>	レポート 100%（ただし3分の2以上出席しなかった場合には自動的にFまたはFG評価とする）		

09年度以降	フランス文学史 I	担当者	筒井 伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス文学の歴史を現代から遡りながら、世紀を追って見て行くが、その際、「文学史」の様々なジャンル・流派・時代特徴を概念的に通覧するだけでなく、個別の代表的な文学作品の抜粋を受講生自身がフランス語原文で読んで、日本語に翻訳する作業を行う。従って、「講読」の授業同様に仏和辞典（ポケット版や初級仏和辞典は不可）が必要。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス（授業の進め方、文学史とは）</li> <li>2. 21世紀のノーベル文学賞：ル・クレジオとモディアノ</li> <li>3. 続き</li> <li>4. 20世紀戦後の実験的文学1：ヌーヴォー・ロマンの作家：ロブ・グリエ</li> <li>5. 続き</li> <li>6. 20世紀戦後の実験的文学2：Oulipoとペレック</li> <li>7. 続き</li> <li>8. 20世紀戦後の女流作家：デュラスとサガン</li> <li>9. 続き</li> <li>10. 20世紀戦後の批評・哲学：バルトとフーコー</li> <li>11. 20世紀戦後の演劇：イヨネスコとベケット</li> <li>12. 続き</li> <li>13. 20世紀戦後の思想的作家：サルトルとカミュ</li> <li>14. 続き</li> <li>15. まとめ（テスト）</li> </ol>	
到達目標	フランス文学における時代区分、代表的な作家、作品、ジャンルなど、フランス文学史に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前：フランス語テキストの予習。事後：授業での知識の整理。		
テキスト	『レクチュールの冒険』（朝日出版社）		
参考文献	『はじめて学ぶフランス文学史』（ミネルヴァ書房）、『フランス文学案内』（岩波文庫）		
評価方法	期末試験（60%）、平常点および授業への参加度（40%）		

09年度以降	フランス文学史 II	担当者	筒井 伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス（授業の進め方）</li> <li>2. 20世紀戦前の小説：プルーストとジイド</li> <li>3. 続き</li> <li>4. 19世紀象徴派の詩人：ボードレールとマラルメ</li> <li>5. 続き</li> <li>6. 19世紀自然主義：ゾラとモーパッサン</li> <li>7. 続き</li> <li>8. 19世紀写実主義：フロベール</li> <li>9. 19世紀写実主義の先駆：バルザックとスタンダール</li> <li>10. 続き</li> <li>11. 19世紀のロマン主義：ユゴーとミュッセ</li> <li>12. 18世紀：啓蒙主義：ヴォルテールとルソー</li> <li>13. 17世紀古典主義演劇：モリエールとラシーヌ</li> <li>14. 続き</li> <li>15. まとめ（テスト）</li> </ol>	
到達目標	フランス文学における時代区分、代表的な作家、作品、ジャンルなど、フランス文学史に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	同上		
テキスト	同上		
参考文献	同上		
評価方法	同上		

09年度以降	フランス芸術文化各論 I	担当者	福田 美雪
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>フランスは「モード大国」と呼ばれますが、それはマリー・アントワネットなどのファッション・アイコンの存在や、毎年開催されるパリ・コレクション、その他多数のハイブランドによってつくられたイメージと言えます。しかし、社会とモードが時代とともにどうかかわり、相互的に発展したかを学ぶ機会はそう多くありません。モードとはなにか、衣服を身にまとうことはなにを意味するのか、「流行」はなぜ生み出され、消費されるのか。モードについて問いかけることは、私たちの「衣服をまとう」という当たり前の行為について再考する機会ともなるでしょう。</p> <p>講義は近現代のモード史について、それぞれの時代における「モード」をめぐる文学作品や映画などを手がかりに行います。学期末のレポートだけでなく、授業内コメントペーパーやPortaに提出する課題を適宜指示しますので、初回のガイダンスに必ず出席し、説明を聞いてください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス（必ず出席すること）</li> <li>2. モードの歴史1：ルイ14世の世紀</li> <li>3. モードの歴史2：マリー・アントワネットの時代</li> <li>4. モードの歴史3：ベル・エポックの時代</li> <li>5. モードの歴史4：二つの世界大戦から現代まで</li> <li>6. バルザック『ゴリオ爺さん』</li> <li>7. モーパッサン『宝石』</li> <li>8. ゾラ『獲物の分け前』</li> <li>9. ゾラ『引き立て役』</li> <li>10. ゾラ『ボヌール・デ・ダム百貨店』</li> <li>11. プルースト『失われた時を求めて』</li> <li>12. コレット『シェリ』</li> <li>13. コレット『シェリの最後』</li> <li>14. ロラン・バルト『モードの体系』</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	フランス芸術文化を各論し、特定のテーマや作品に関する専門知識を習得し、分析・鑑賞のうえ批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	モード史についての予習、プリントの復習、Portaへの課題提出など		
テキスト	必要に応じてプリントを配布。		
参考文献	『馬車が買いたい！』（鹿島茂、中公文庫）		
評価方法	授業内での発言・発表やコメントペーパー（50%）、Portaでの課題・レポート（50%）		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

09年度以降	フランス芸術文化各論Ⅰ	担当者	福井 憲彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的：</b>19世紀フランスの歴史状況と芸術文化（1） これについて、春学期は、18世紀末の大革命期から19世紀半ばにかけて、ロマン主義が基調であったとされる時代を対象として、要点をとらえてみよう。</p> <p><b>講義概要：</b>芸術文化のあり方は、作家や担い手たちの創造・想像力と不可分であるのは当然だが、他方で、彼らとその作品が位置する時代とも多様な関わり方をしている。18世紀末から政治的には激動を繰り返した19世紀前半のフランスについて、歴史の展開と芸術文化のありようの関係について考えてみたい。ここでの芸術は、もちろん作品に具象化されているものを指すが、文化は広く生活文化、社会文化、政治文化にまで視野を拡張して捉えてみよう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション～授業のねらいと進め方</li> <li>2. フランス革命以前の文化の諸相</li> <li>3. 「文化革命」としてのフランス革命</li> <li>4. 革命の遺産～理性と自由</li> <li>5. ヤヌスの如き皇帝ナポレオン</li> <li>6. 芸術と政治～画家ダヴィッドという事例</li> <li>7. ミュゼ（美術館／博物館）の時代の始まり</li> <li>8. 気になる隣国～イギリスとドイツ</li> <li>9. いくつもの顔をもつロマン主義</li> <li>10. 名望家notablesの台頭と文化市場</li> <li>11. ドラクローワ『民衆を導く自由の女神』を巡って</li> <li>12. 動きはじめた工業化と労働者文化</li> <li>13. コミュニケーション革命の始動（メディアと鉄道）</li> <li>14. オリエンタリズムと芸術</li> <li>15. まとめ～文化的地平の拡張</li> </ol>	
到達目標	フランス芸術文化を各論し、特定のテーマや作品に関する専門知識を習得し、分析・鑑賞のうえ批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布されるフランス語での年表やテキスト、参考文献の関連箇所を読んで授業にのぞみ、授業後には講義内容の復習をして、積極的に授業で質問や意見開示ができることが望ましい。		
テキスト	特にないが、一部で使うフランス語テキストはプリントを配布します。		
参考文献	『世界歴史大系 フランス史2』山川出版社ほか、授業中に適宜上げていきます。		
評価方法	授業におけるコメントペーパーの評価（30%）と最終試験（70%）		

09年度以降	フランス芸術文化各論Ⅱ	担当者	福井 憲彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的：</b>19世紀フランスの歴史状況と芸術文化（2） これについて、秋学期は、19世紀半ばの第二帝政時代を中心に講義します。春学期につづく時代ですが、秋学期のみ履修しても困難のないように話します。</p> <p><b>講義概要：</b>講義内容の位置づけや採り上げる観点は、上記した春学期と同様ですので、上記した説明を参照してください。対象とする時代が春学期とは違って、フランスの「近代化」が政治・経済の多様な側面で本格化しはじめると評価されている第二帝政時代となる、ということです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション～授業のねらいと進め方</li> <li>2. 19世紀前半のフランス概観</li> <li>3. 1840年代の危機と転換</li> <li>4. 社会変革の夢～ユートピア社会主義</li> <li>5. 48年二月革命～パリと地方</li> <li>6. 「ナポレオン神話」とナポレオン三世</li> <li>7. ボナパルティズムの政治文化</li> <li>8. 「富国強兵」路線と世界への野心</li> <li>9. 科学と進歩への信頼</li> <li>10. 文化遺産の保存～メリメとヴィオレ・ル・デュク</li> <li>11. 「農村文明」の頂点？</li> <li>12. フェミニズムの誕生</li> <li>13. 「パリ・コムューン」とは何だったのか</li> <li>14. 抑圧に対抗する芸術家たち</li> <li>15. 全体のまとめ</li> </ol>	
到達目標	フランス芸術文化を各論し、特定のテーマや作品に関する専門知識を習得し、分析・鑑賞のうえ批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布されるフランス語での年表やテキスト、参考文献の関連箇所を読んで授業にのぞみ、授業後には講義内容の復習をして、積極的に授業で質問や意見開示ができることが望ましい。		
テキスト	特にないが、一部で使うフランス語テキストはプリントを配布します。		
参考文献	『世界歴史大系 フランス史3』山川出版社ほか、授業中に適宜上げていきます。		
評価方法	授業におけるコメントペーパーの評価（30%）と最終試験（70%）		

09年度以降	フランス芸術文化講読Ⅰ	担当者	福井 憲彦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的：</b>19世紀前半のフランス芸術文化と思潮の特徴を示す「ロマン主義」を巡って、その多様な、相反するような要素にみちた内容と、その後の社会と文化への影響について、同時代の現実の歴史的展開をふまえて理解しよう。</p> <p><b>講義概要：</b>理解の前提となる歴史状況については、最初に私から概説し、その間に、テキストの予習を開始してもらう。テキストは、フランスのリセ（高校）の歴史教科書から関連する短い部分2カ所（第1、第2テキスト）を読んだ後、『ヨーロッパ19世紀事典』の該当項目（第3テキスト、文学史家アンブリエール執筆）を皆で読んでみる。かなり専門的な内容を持った項目であるが、説明の文章は明確なので、是非とも挑戦して欲しい。早くから、本格的な事典項目に馴染むことができれば、各自の自主的な学習能力が断然向上することは間違いない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業方式と使用テキストの説明</li> <li>2. 第1・第2テキスト配布。ロマン主義の時代概観（講義）</li> <li>3. 19世紀前半フランスの激動した歴史状況（講義）</li> <li>4. 第1テキストの輪読</li> <li>5. 第2テキストの前半の輪読</li> <li>6. 第2テキストの後半の輪読（第3テキストの配布）</li> <li>7. 前半のまとめと、第3テキストの説明</li> <li>8. 時代状況の再確認と第3テキストの輪読開始</li> <li>9. 第3テキストの輪読（記述1列目の後半）</li> <li>10. 第3テキストの輪読（記述2列目の前半）</li> <li>11. 第3テキストの輪読（記述2列目の後半）</li> <li>12. 第3テキストの輪読（記述3列目の前半）</li> <li>13. 第3テキストの輪読（記述3列目の後半）</li> <li>14. 後半のまとめ</li> <li>15. 全体のまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	配布されたフランス語テキストを、辞書や事典をしっかりと使って各自の訳文を作って授業に参加して、事後には、自分の理解の問題点を点検すること。		
<b>テキスト</b>	プリントを配布します。		
<b>参考文献</b>	適宜、進行に合わせて授業中に指示します。		
<b>評価方法</b>	授業における音読・訳文・意見などの評価（40%）、最終テスト（60%）		

09年度以降	フランス芸術文化講読Ⅱ	担当者	福井 憲彦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的：</b>春学期と講義目的は同様であるが、使用テキスト及びポイントを変える。【春学期と連続で履修してもらってもよいし（理解力は上がるはず）、秋学期だけ履修の学生もついてこられるように配慮する。】</p> <p><b>講義概要：</b>テキストを読み解く前提となる歴史状況については、私から概説し（この部分の内容は春学期と同様）、その間に、テキストの予習を開始してもらう。テキストはパリ第10大学のデミエ教授が執筆した19世紀フランス史の総括的な概説書から「ロマン主義文化」と題された第五章の一部分を借用して、皆で輪読してみる。フランスの大学生を中心的な対象とした概説書なので、扱っている内容は多岐にわたるが、文体は平明であるので、こうした広い視野からの学術的記述に、是非とも挑戦してほしい。（各回の内容は進行状況によって変更があります）</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業方式と使用テキストの説明</li> <li>2. テキスト配布。大革命前後フランスの歴史状況（講義）</li> <li>3. 19世紀前半フランスの激動した歴史状況（講義）</li> <li>4. テキストの解説と輪読の開始（冒頭部分）</li> <li>5. 輪読の継続：新たな感性の登場</li> <li>6. 輪読の継続：啓蒙的理性への反発</li> <li>7. 輪読の継続：宗教への回帰と自然の魅惑</li> <li>8. 中間のまとめと振り返り</li> <li>9. 輪読の継続：「ブルジョワ精神」の唾棄（その一）</li> <li>10. 輪読の継続：「ブルジョワ精神」の唾棄（その二）</li> <li>11. 輪読の継続：歴史への感性</li> <li>12. 輪読の継続：芸術家の肖像</li> <li>13. 輪読の継続：セナークル（ロマン派独自の集団）</li> <li>14. 輪読の継続：サロンと画家達</li> <li>15. 最後のまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	配布されたフランス語テキストを、辞書や事典をしっかりと使って各自の訳文を作って授業に参加して、事後には、自分の理解の問題点を点検すること。		
<b>テキスト</b>	プリントを配布します。		
<b>参考文献</b>	適宜、進行に合わせて授業中に指示します。		
<b>評価方法</b>	授業における音読・訳文・意見などの評価（40%）、最終テスト（60%）		

09年度以降	フランス芸術文化講読Ⅰ	担当者	江花 輝昭
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>インターネット時代にまず要求される語学力は文章読解力でしょう。それだけでなく、フランス語をちゃんと話したり書いたりできるようになりたかったら、しっかりと読むことから始めないといけません。文字情報は音声情報よりもずっと豊かなものだからです。この授業では、話したり書いたりするときにも役に立つ知識を、いかに読みながら獲得するかという観点から、きちんとした読解力を身につけるための基礎訓練を行います。</p> <p>今年度はフランス絵本の嚆矢とも言われる Benjamin Rabier の「Les Tribulations d'un chat (猫の苦難)」(1908) を読みます。楽しい内容ですが、100年以上前の作品ですので、絵本だからと言って甘く見てはいけません。きちんと読みこなすにはそれなりの努力が必要です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業概要の説明、テキストの紹介</li> <li>2. 講読</li> <li>3. "</li> <li>4. "</li> <li>5. "</li> <li>6. "</li> <li>7. "</li> <li>8. "</li> <li>9. "</li> <li>10. "</li> <li>11. "</li> <li>12. "</li> <li>13. "</li> <li>14. "</li> <li>15. "</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。		
<b>テキスト</b>	Benjamin Rabier : «Les Tribulations d'un chat» (プリントで配付)		
<b>参考文献</b>	なし		
<b>評価方法</b>	定期試験 50%、平常点 50% (ただし 3 分の 2 以上出席しなかった場合は F または F G 評価とする)		

09年度以降	フランス芸術文化講読Ⅱ	担当者	江花 輝昭
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期に同じ。継続受講が望ましく、秋学期からの受講者に対する配慮は特に行いません。</p> <p>秋学期も継続して Benjamin Rabier の「Les Tribulations d'un chat (猫の苦難)」後半を読みます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業概要の説明、テキストの紹介</li> <li>2. 講読</li> <li>3. "</li> <li>4. "</li> <li>5. "</li> <li>6. "</li> <li>7. "</li> <li>8. "</li> <li>9. "</li> <li>10. "</li> <li>11. "</li> <li>12. "</li> <li>13. "</li> <li>14. "</li> <li>15. "</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。		
<b>テキスト</b>	Benjamin Rabier : «Les Tribulations d'un chat» (プリントで配付)		
<b>参考文献</b>	なし		
<b>評価方法</b>	定期試験 50%、平常点 50% (ただし 3 分の 2 以上出席しなかった場合は F または F G 評価とする)		

09年度以降	フランス芸術文化講読 I	担当者	福田 美雪
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>短編小説の名手として知られるギ・ド・モーパッサン(1846-1893)は、じつに魅力的な二面性のある作家である。素朴な人々を温かく描いた小品もあれば、利己的な人間性をシニカルに描いた作品もある。彼が残した400篇近い作品には、国や時代を超えて普遍的な人の世のいとなみが、あますところなく映し出されている。</p> <p>この講義では、代表作である『首飾り』や『ジュール叔父さん』、『脂肪のかたまり』をとりあげ、語りの構造、描写の特徴や登場人物の造形などについて分析する。19世紀ならではの時代背景やモーパッサン独自の小説技法について学ぶためである。また、映像化作品である<i>Chez Maupassant</i> (ドラマ、字幕なし)も折に触れ紹介する。</p> <p>テキストはすべて既訳が手に入る。原文は授業で配布する。講義の進度や、学期中の課題については、初回ガイダンスに必ず出席し、教員の説明を聞くこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス (必ず出席すること)</li> <li>2. モーパッサンの作家人生について</li> <li>3. 『首飾り』(1)</li> <li>4. 『首飾り』(2)</li> <li>5. 『首飾り』(3)</li> <li>6. <i>Chez Maupassant</i> (1)</li> <li>7. 『ジュール叔父さん』(1)</li> <li>8. 『ジュール叔父さん』(2)</li> <li>9. 『ジュール叔父さん』(3)</li> <li>10. 『脂肪のかたまり』(1)</li> <li>11. 『脂肪のかたまり』(2)</li> <li>12. 『脂肪のかたまり』(3)</li> <li>13. 『脂肪のかたまり』(4)</li> <li>14. <i>Chez Maupassant</i> (2)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で配布された原文を予習する。宿題を解き、Porta に提出する。		
テキスト	『モーパッサン短編集』(山田登世子訳、ちくま文庫)、『脂肪のかたまり』(高山鉄男訳、岩波文庫)		
参考文献	授業内で教員から適宜指示する。		
評価方法	授業内での訳読やコメントペーパー (50%)、Porta での課題・レポート (50%)		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

09年度以降	フランス芸術文化講読Ⅰ	担当者	阿部 明日香
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 美術について論じたフランス語のテキストを読むことで、美術に関する語彙を学び、読解力を養うことを目的とします。同時に、美術に関わる諸問題について理解を深めます。</p> <p>講義概要： Daniel Arasse, <i>Histoires de peintures</i>, 2004より、ベラスケスの《ラス・メニーナス》を分析したミシェル・フーコーのテキストについての章(Éloge paradoxal de Michel Foucault à travers « Les Ménines »)を読みます。</p> <p>授業は輪読形式で進めます。必ず予習して、自分なりの訳をつくってから授業にのぞんでください。 一回目の授業から読み始めますので、必ず辞書を持参してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス (予習の仕方など)、テキスト配布</li> <li>2. 講読</li> <li>3. 講読</li> <li>4. 講読</li> <li>5. 講読</li> <li>6. 講読</li> <li>7. 講読</li> <li>8. 講読</li> <li>9. 講読</li> <li>10. 講読</li> <li>11. 講読</li> <li>12. 講読</li> <li>13. 講読</li> <li>14. 講読</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	辞書を丹念に引き、構文を理解した上で自分なりの訳をつくって授業に臨むこと。 授業で扱った箇所を読み返す。		
テキスト	プリントを配布します。		
参考文献	授業中に適宜指示します。		
評価方法	平常点 (毎回の訳読) 30%、学期末試験 70% 授業中に課題を出す可能性もあります。		

09年度以降	フランス芸術文化講読Ⅱ	担当者	阿部 明日香
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 美術について論じたフランス語のテキストを読むことで、美術に関する語彙を学び、読解力を養うことを目的とします。同時に、美術に関わる諸問題について理解を深めます。</p> <p>講義概要： Daniel Arasse, <i>Histoires de peintures</i>, 2004より、今日の美術鑑賞のあり方について問題提起した章(On y voit de moins en moins)を読みます。</p> <p>授業は輪読形式で進めます。必ず予習して、自分なりの訳をつくってから授業にのぞんでください。 一回目の授業から読み始めますので、必ず辞書を持参してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス (予習の仕方など)、テキスト配布</li> <li>2. 講読</li> <li>3. 講読</li> <li>4. 講読</li> <li>5. 講読</li> <li>6. 講読</li> <li>7. 講読</li> <li>8. 講読</li> <li>9. 講読</li> <li>10. 講読</li> <li>11. 講読</li> <li>12. 講読</li> <li>13. 講読</li> <li>14. 講読</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	辞書を丹念に引き、構文を理解した上で自分なりの訳をつくって授業に臨むこと。 授業で扱った箇所を読み返す。		
テキスト	プリントを配布します。		
参考文献	授業中に適宜指示します。		
評価方法	平常点 (毎回の訳読) 30%、学期末試験 70% 授業中に課題を出す可能性もあります。		

09年度以降	フランス芸術文化講読 I	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>Objectif :</b> Découvrir le plaisir de la lecture à une ou plusieurs voix. Lire seul en français n'est pas facile, mais si on parle avec d'autres personnes du texte qu'on est en train de lire, on se sent stimulé et on peut ainsi connaître la joie d'être allé jusqu'à la fin du livre.</p> <p><b>Contenu :</b> Nous lirons ensemble un texte de Daniel Pennac : <i>L'oeil du loup</i>. Ce sera pour nous l'occasion de parcourir l'Alaska, l'Afrique en compagnie de deux héros, un petit garçon et un loup, qui vont nous faire partager toute sorte d'aventures.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Présentation du cours</li> <li>2. Présentation de <i>L'Œil du Loup</i></li> <li>3. Lecture des pages 11 à 13</li> <li>4. Lecture des pages 14 et 15</li> <li>5. Lecture des pages 17 à 19</li> <li>6. Lecture des pages 20 et 21</li> <li>7. Lecture des pages 23 à 25</li> <li>8. Lecture des pages 26 et 27</li> <li>9. Lecture des pages 29 à 31</li> <li>10. Lecture des pages 32 et 33</li> <li>11. Lecture des pages 35 à 37</li> <li>12. Lecture des pages 38 à 41</li> <li>13. Lecture des pages 43 à 45</li> <li>14. Lecture à voix haute d'un texte</li> <li>15. Lecture à voix haute de <i>L'Œil du loup</i></li> </ol>	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Lire à haute voix les pages étudiées en cours.		
テキスト	Photocopies dans un premier temps.		
参考文献	Un dictionnaire français		
評価方法	Participation active aux cours 100%. Rapport de fin de semestre 100%.		

09年度以降	フランス芸術文化講読 II	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>Objectif :</b> Découvrir le plaisir de la lecture à une ou plusieurs voix.</p> <p><b>Contenu :</b> Nous continuerons la lecture du livre <i>L'oeil du loup</i>. Se reporter à ce qui a été écrit dans la case du premier semestre.</p> <p>Nous consacrerons une partie du cours aux échanges portant sur le livre que chaque étudiant aura lu ou commencé à lire, tout seul, pendant les vacances. Pour cette deuxième partie du cours, nous travaillerons en petits groupes.</p> <p>IMPORTANT : Les étudiants qui s'inscrivent à ce cours en avril sont invités à suivre le cours pendant le second semestre. Cependant, les nouveaux étudiants sont aussi les bienvenus.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Présentation du cours</li> <li>2. Lecture des pages 46 à 47</li> <li>3. Lecture des pages 49 à 51</li> <li>4. Lecture des pages 52 à 54</li> <li>5. Lecture des pages 55 à 57</li> <li>6. Lecture des pages 58 à 59</li> <li>7. Lecture des pages 61 à 63</li> <li>8. Lecture des pages 64 à 65</li> <li>9. Lecture des pages 66 à 68</li> <li>10. Lecture des pages 69 à 73</li> <li>11. Lecture des pages 75 à 78</li> <li>12. Lecture des pages 79 à 82</li> <li>13. Lecture des pages 83 à 85</li> <li>14. Exposés en groupe des livres 1 et 2</li> <li>15. Exposés en groupe des livres 3 et 4</li> </ol>	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Lire à haute voix les pages étudiées en cours.		
テキスト	Photocopies dans un premier temps.		
参考文献	Un dictionnaire français		
評価方法	Participation active aux cours 100%. Rapport de fin de semestre 100%. Exposé en groupe 100%		

09年度以降	フランス地域論Ⅰ	担当者	尾玉 剛士
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>フランスの地方自治体の取り組み、地域経済、地域福祉について学びます。</p> <p>日本では、人口減少が進むなかで地域経済の活性化が課題となっています。また、少子高齢化の進展にともない地方自治体による介護・子育てなどの福祉政策の重要性がますます高まっています。この講義では、巨大福祉国家であるフランスの地域レベルでのまちづくりや福祉政策について学ぶことで、日本の将来を考えるためのヒントを探していきます。</p> <p>講義では、まずフランスの地方制度と各地の様子といった概論から始め、地域福祉とまちづくりの各論へと進んでいきます。「暮らしやすい地域」、「魅力的な地域」について考えるきっかけになれば幸いです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義目的・概要・評価方法の説明：地域に着目する理由</li> <li>2. フランスの地方制度①</li> <li>3. フランスの地方制度②</li> <li>4. 地域の諸相①：北フランス</li> <li>5. 地域の諸相②：言語の多様性</li> <li>6. 地域の諸相③：南フランス</li> <li>7. 中間まとめ</li> <li>8. まちづくり① 地域活性化</li> <li>9. まちづくり② 都市交通政策</li> <li>10. まちづくり③ 続・都市交通政策</li> <li>11. まちづくり④ 商店街</li> <li>12. まちづくり⑤ コンパクトシティ</li> <li>13. 地域福祉 子ども・高齢者・障害者</li> <li>14. フランスの経験から学ぶこと</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	フランス各地域における制度、現象、問題、社会・文化の特性など、フランス地域に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	毎回、配布資料のなかでキーポイントを整理するので、何が本質的な論点なのかよく復習して次回に備えてください。		
<b>テキスト</b>	指定しない。		
<b>参考文献</b>	『フランスの地方都市にはなぜシャッター通りがないのか』学芸出版社、2016年他、授業中に紹介。		
<b>評価方法</b>	中間テスト30%、期末テスト70%。テストの無断欠席は0点扱い。やむを得ない事情により欠席する場合、必ず事前に連絡すること。		

09年度以降	フランス地域論Ⅱ	担当者	尾玉 剛士
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義では、フランスにおける移民政策・移民排斥運動の展開、移民と福祉国家の関係について考察します。</p> <p>フランスを含めた大陸ヨーロッパ諸国は充実した社会保障制度（年金・医療・最低所得保障制度など）を有する福祉国家であるとされています。</p> <p>他方、ヨーロッパでは移民の排斥あるいは受入国の文化への同化を強く求める右翼政党が無視できない支持を集めています。フランスの国民戦線（Front national）をはじめ、これらの右翼政党のなかには自国民への手厚い福祉とともに外国人の排除を主張する傾向が見られます。</p> <p>こうした問題関心に基づき、この講義では移民・外国人という切り口からフランス地域の歴史と現状を分析します。授業後半には、難民問題についても検討します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義目的・概要・評価方法の説明</li> <li>2. フランスの移民政策の展開①</li> <li>3. フランスの移民政策の展開②</li> <li>4. フランスの移民政策の展開③</li> <li>5. フランスの移民政策の展開④</li> <li>6. 移民排斥主義の展開①</li> <li>7. 移民排斥主義の展開②</li> <li>8. 移民と福祉国家①</li> <li>9. 移民と福祉国家②</li> <li>10. イスラム・スカーフ事件</li> <li>11. 移民と学校</li> <li>12. フランスと難民①</li> <li>13. フランスと難民②</li> <li>14. フランスの経験から学ぶこと</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	フランス各地域における制度、現象、問題、社会・文化の特性など、フランス地域に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	毎回、配布資料のなかでキーポイントを整理するので、何が本質的な論点なのかよく復習して次回に備えてください。		
<b>テキスト</b>	指定しない。		
<b>参考文献</b>	渡辺和行『エトランジェのフランス史』山川出版社、2007年他、授業中に紹介。		
<b>評価方法</b>	小テスト15%×2、期末テスト70%。テストの無断欠席は0点扱い。やむを得ない事情により欠席する場合、必ず事前に連絡すること。		

09年度以降	フランスの歴史 I	担当者	藤田 朋久
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>フランス史の概説講義です。古代、中世、近世の各時代、およびフランス革命について概観します。</p> <p>フランス史の基礎知識を習得すると同時に、フランス社会の歴史的特質について理解を深めることを目的とする授業です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンス</li> <li>2. 古代1：ケルト時代</li> <li>3. 古代2：ガロ＝ローマ時代</li> <li>4. 古代3：古代まとめ</li> <li>5. 中世1：初期中世</li> <li>6. 中世2：盛期中世</li> <li>7. 中世3：後期中世</li> <li>8. 中世4：中世まとめ</li> <li>9. 近世1：16世紀</li> <li>10. 近世2：17世紀</li> <li>11. 近世3：18世紀</li> <li>12. 近世4：近世まとめ</li> <li>13. フランス革命 (1)</li> <li>14. フランス革命 (2)</li> <li>15. 全体のまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	フランス史の各時代の基本テーマ、フランスの歴史的特質など、フランスの歴史に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業で指示する参考文献を読むことや、配布するプリントを整理することが求められます。		
<b>テキスト</b>	プリント配布		
<b>参考文献</b>	授業で指示します。		
<b>評価方法</b>	2回のテストの成績（100%）をもとに評価します。		

09年度以降	フランスの歴史 II	担当者	藤田 朋久
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>フランス史の基礎知識を習得すると同時に、フランス社会の歴史的特質について理解を深めることを目的とする授業です。</p> <p>前半は、フランス19世紀史を概観します。後半は、「フランス史の諸問題」と題して、より具体的なテーマを取り上げて論じます。詳細については、最初の授業で説明しますので、受講希望者は必ず出席してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンス</li> <li>2. 19世紀 (1)</li> <li>3. 19世紀 (2)</li> <li>4. 19世紀 (3)</li> <li>5. 19世紀 (4)</li> <li>6. 19世紀 (5)</li> <li>7. 19世紀まとめ</li> <li>8. フランス史の諸問題 (1)</li> <li>9. フランス史の諸問題 (2)</li> <li>10. フランス史の諸問題 (3)</li> <li>11. フランス史の諸問題 (4)</li> <li>12. フランス史の諸問題 (5)</li> <li>13. フランス史の諸問題 (6)</li> <li>14. フランス史の諸問題 (7)</li> <li>15. 全体のまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	フランス史の各時代の基本テーマ、フランスの歴史的特質など、フランスの歴史に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業で指示する参考文献を読むことや、配布するプリントを整理することが求められます。		
<b>テキスト</b>	プリント配布		
<b>参考文献</b>	授業で指示します。		
<b>評価方法</b>	2回のテストの成績（100%）をもとに評価します。		

09年度以降	フランスの政治経済Ⅰ	担当者	廣田 愛理
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、フランスの政治経済についての基礎的な知識の習得を目的とする。</p> <p>学期の前半では、第四共和政期までのフランスの政治経済の変遷を歴史的に辿ったうえで、第五共和政の政治制度の特徴について学んでいく。さらに、第五共和政期については、歴代大統領の下で、それぞれどのような政策が実施されたかを確認する。学期の後半では、いくつかのトピックを取り上げて、フランス経済の現在の状況について検討していきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 第二帝政以前</li> <li>3. 第三共和政からヴィシー期</li> <li>4. 第四共和政期</li> <li>5. 第五共和政の成立と政治制度</li> <li>6. ドゴール、ポンピドゥー、ジスカールデスタン</li> <li>7. ミッテラン時代</li> <li>8. シラク時代</li> <li>9. サルコジから現在まで</li> <li>10. 戦後のフランス経済</li> <li>11. 失業問題</li> <li>12. 産業構造</li> <li>13. 税制</li> <li>14. フランスの国際競争力</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	フランスの政治経済の全体像、および、フランスの政治経済の現状や特質など、フランスの政治経済に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業内で挙げるキーワードについて事前に調べてくること。授業で学んだ内容を自分の言葉で論理的に説明できるようにすること。		
<b>テキスト</b>	テキストは用いない。		
<b>参考文献</b>	参考文献は授業中に紹介する。		
<b>評価方法</b>	複数回のテスト（90%）と授業への参加度（10%）によって評価する。		

09年度以降	フランスの政治経済Ⅱ	担当者	廣田 愛理
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>戦後のフランスにとってヨーロッパ統合は国益追求の重要な手段だと見なされてきた。それゆえフランスは、統合の主導権を握ることを目指し、今日まで統合の進展において常に重要な役割を担ってきた。本講義では、第2次世界大戦以前から今日のEUに至るまでの過程において、ヨーロッパ統合構想にフランスがどのように関わってきたかを学んだうえで、ドイツ一勝ちと言われる現在のEUにおけるフランスの役割について考えていきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. ヨーロッパ構想の出現から第1次大戦まで</li> <li>3. 戦間期のヨーロッパ構想</li> <li>4. 第2次大戦期のヨーロッパ構想</li> <li>5. 戦後復興と経済近代化</li> <li>6. シューマン・プランとECSC</li> <li>7. 欧州防衛共同体構想</li> <li>8. EECの設立に向けて</li> <li>9. ドゴールとEEC</li> <li>10. ドゴールとイギリス</li> <li>11. 1970年代のフランスと統合</li> <li>12. ミッテラン時代の統合政策</li> <li>13. EU誕生から今日まで</li> <li>14. マクロン大統領とEU</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	フランスの政治経済の全体像、および、フランスの政治経済の現状や特質など、フランスの政治経済に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業内で挙げるキーワードについて事前に調べてくること。授業で学んだ内容を自分の言葉で論理的に説明できるようにすること。		
<b>テキスト</b>	テキストは用いない。		
<b>参考文献</b>	参考文献は授業中に紹介する。		
<b>評価方法</b>	複数回のテスト（70%）と授業への参加度（30%）によって評価する。		

09年度以降	フランスの政治経済Ⅰ	担当者	尾玉 剛士
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義では、国際比較の視点から現代フランスの政治システムの特徴を理解するとともに、フランスのみならず日本を含めた民主主義諸国の政治動向を見る目を養うことを目的とします。</p> <p>はじめにフランス革命以降のフランス政治史の大きな流れを整理します。続いて現在の議会や官僚制などの制度の特徴を解説した上で、政治的リーダーシップの行使や街頭デモを含めた実際の政治のダイナミズムへと焦点を合わせていきます。</p> <p>政治システムの検討にあたっては、国際比較（とくに日本とフランスの比較）の視点に立つことで、現代の民主主義諸国の政治のあり方について知的に考察できるようになることを目指します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義目的・概要・評価方法の説明</li> <li>2. フランス政治史①</li> <li>3. フランス政治史②</li> <li>4. フランス政治史③</li> <li>5. 現代フランスの政治システムの概要</li> <li>6. 議会</li> <li>7. 官僚制</li> <li>8. 政党システム①</li> <li>9. 政党システム②</li> <li>10. 選挙制度</li> <li>11. 政治的リーダーシップ</li> <li>12. 政策決定過程</li> <li>13. 地方分権改革の動向</li> <li>14. 最近の政治動向</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	フランスの政治経済の全体像、および、フランスの政治経済の現状や特質など、フランスの政治経済に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	毎回、配布資料のなかでキーポイントを整理するので、何が本質的な論点なのかよく復習して次回に備えてください。		
<b>テキスト</b>	指定しない。		
<b>参考文献</b>	大山礼子『フランスの政治制度（改訂版）』東信堂、2013年。その他、授業中に紹介。		
<b>評価方法</b>	小テスト10%×2、期末テスト80%。テストの無断欠席は0点扱い。やむを得ない事情により欠席する場合、必ず事前に連絡すること。		

09年度以降	フランスの政治経済Ⅱ	担当者	尾玉 剛士
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義では、年金や医療保険などのフランスの社会保障制度の仕組みと最近の改革の動向を日本と比較しながら学びます。</p> <p>フランスは北欧諸国と並ぶ巨大な福祉国家であり、年金や医療保険などの社会保障制度の改革は政治・経済に関する議論の中心に位置していると言っても過言ではありません。日本でも、少子高齢化、雇用や家族の不安定化などを背景として社会保障改革が喫緊の課題になっています。</p> <p>そこでこの講義では、まず社会保障とは何を目的とした制度なのかを明らかにします。次に年金や医療保険などの個々の社会保障制度の基本的な仕組みと、日仏における改革動向について解説します。講義と試験を通じて、年金や消費税などのあり方について自分なりの意見を形成できるようになることを目指します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義目的・概要・評価方法の説明</li> <li>2. フランスの社会保障システム</li> <li>3. フランスの経済・人口・社会の動向</li> <li>4. 年金①</li> <li>5. 年金②</li> <li>6. 中間まとめ&amp;年金③</li> <li>7. 医療保険①</li> <li>8. 医療保険②</li> <li>9. 医療保険③</li> <li>10. 高齢者介護</li> <li>11. 雇用政策（失業・非正規雇用対策）</li> <li>12. 最低所得保障（生活保護）</li> <li>13. 家族政策（子ども手当・保育サービス）</li> <li>14. 社会保障財政</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	フランスの政治経済の全体像、および、フランスの政治経済の現状や特質など、フランスの政治経済に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	毎回、配布資料のなかでキーポイントを整理するので、何が本質的な論点なのかよく復習して次回に備えてください。		
<b>テキスト</b>	指定しない。		
<b>参考文献</b>	土田武史編『社会保障論』成文堂、2015年。その他、授業中に紹介。		
<b>評価方法</b>	中間テスト30%、期末テスト70%。テストの無断欠席は0点扱い。やむを得ない事情により欠席する場合、必ず事前に連絡すること。		

09年度以降	フランス現代思想 I	担当者	根木 昭英
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「フランス思想」というと、われわれの日常からはかけ離れた営みだと感じられるかもしれませんが。思想に関わるテキストは、たしかに簡単なものではありません。しかし、その言葉を丁寧に読み取っていくならば、自明に見えた価値観を揺さぶる多くの新鮮で切実な問いかけが、そこで発せられていることが分かるでしょう。</p> <p>そのような視点のもと、本講では、現代フランスで活動した思想家と、彼らに影響を与えた哲学者たちについて、原典テキスト（邦訳）を読解しながら考察します。神をめぐる議論から、人間存在の直面する不条理についての思索、さらには、民主主義や資本主義、「権力」の批判的検討にいたる多様な論点を扱うことで、われわれの日常全般への反省的眼差しを養うことを目指します。</p> <p>難しい授業内容にも挑戦してみようという気概のある方の受講を希望します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入</li> <li>2. ライブニッツ『弁神論』を読む (1)</li> <li>3. ライブニッツ『弁神論』を読む (2)</li> <li>4. ルソー政治論の現代的射程 (1)</li> <li>5. ルソー政治論の現代的射程 (2)</li> <li>6. マルクスの革命思想</li> <li>7. マルクス『資本論』を読む (1)</li> <li>8. マルクス『資本論』を読む (2)</li> <li>9. マルクス思想の歴史的展開とその現代的意義</li> <li>10. ボードリヤールの消費社会論 (1)</li> <li>11. ボードリヤールの消費社会論 (2)</li> <li>12. ボードリヤールの消費社会論 (3)</li> <li>13. ブルデューの文化社会学 (1)</li> <li>14. ブルデューの文化社会学 (2)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	フランス現代思想の流れや問題点、高度な語彙を用いた抽象的表現など、フランス現代思想に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	毎回の授業で指示する文献について予習してください。要点の復習を行ってください。		
<b>テキスト</b>	レジュメを配布します。		
<b>参考文献</b>	毎回の講義のなかで紹介していきます。		
<b>評価方法</b>	期末レポート：60%、コメントペーパー、発言などを通じた授業への貢献度：40%		

09年度以降	フランス現代思想 II	担当者	根木 昭英
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期と同じく、おもにフランスで活動した、あるいは活動している思想家たちについて考察を進めます（春学期履修は前提ではありません）。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入</li> <li>2. ニーチェとニヒリズム</li> <li>3. ニーチェと「神の死」</li> <li>4. ニーチェと「永劫回帰」の思想</li> <li>5. カミュと「不条理」(1)</li> <li>6. カミュと「不条理」(2)</li> <li>7. カミュにおける「反抗」の思想 (1)</li> <li>8. カミュにおける「反抗」の思想 (2)</li> <li>9. フーコーの考古学 (1)</li> <li>10. フーコーの考古学 (2)</li> <li>11. フーコーの系譜学 (1)</li> <li>12. フーコーの系譜学 (2)</li> <li>13. トッドと現代フランス社会の診断 (1)</li> <li>14. トッドと現代フランス社会の診断 (2)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	フランス現代思想の流れや問題点、高度な語彙を用いた抽象的表現など、フランス現代思想に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	毎回の授業で指示する文献について予習してください。要点の復習を行ってください。		
<b>テキスト</b>	レジュメを配布します。		
<b>参考文献</b>	毎回の講義のなかで紹介していきます。		
<b>評価方法</b>	期末レポート：60%、コメントペーパー、発言などを通じた授業への貢献度：40%		

13年度以降 12年度以前	フランス語圏の現代社会Ⅰ 現代フランス論Ⅰ	担当者	根木 昭英
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「フランス」は、多くのひとびとの抱くイメージに違わぬ華やかな魅力を備えています。しかし同時に、植民地主義的拡張とその行き詰まり、地域統合の実験やグローバル化などを経験しつつ形成されたその社会は、民族・文化・宗教などあらゆる側面において多様化し、それによって引き起こされる諸困難に直面してもいます。</p> <p>本講では以上の認識から出発して、地理・制度・政治経済・文化などさまざまな側面から、複雑化する現代フランス社会（および旧植民地を中心とするフランス語圏社会）の「いま」を考察します。フランス現地のニュースに触れるとともに、その理解に必要となる諸論点（「共和国」の理念、「統合」やポピュリズム、テロの問題など）について一通りの知識を身に付けることが目的です。</p> <p>春学期には、制度と人々の暮らしを中心に、現代フランス語圏社会を検討します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入</li> <li>2. 「共和国」の理念と憲法</li> <li>3. 選挙制度のあり方と政治の現状（1）</li> <li>4. 選挙制度のあり方と政治の現状（2）</li> <li>5. 「路上民主主義」の伝統</li> <li>6. 労働をめぐる諸問題（1）</li> <li>7. 労働をめぐる諸問題（2）</li> <li>8. 映画から考えるフランス現代社会</li> <li>9. 「家族」のあり方をめぐって（1）</li> <li>10. 「家族」のあり方をめぐって（2）</li> <li>11. 教育の問題とその周辺（1）</li> <li>12. 教育の問題とその周辺（2）</li> <li>13. 「1968年」について</li> <li>14. フランスメディアの現在</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代フランス社会の独自性や現在抱える諸問題など、フランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	毎回の授業で指示する文献について予習してください。要点の復習を行ってください。		
<b>テキスト</b>	レジュメを配布します。		
<b>参考文献</b>	毎回の講義のなかで紹介していきます。		
<b>評価方法</b>	期末レポート：60%、コメントペーパー、発言などを通じた授業への貢献度：40%		

13年度以降 12年度以前	フランス語圏の現代社会Ⅱ 現代フランス論Ⅱ	担当者	根木 昭英
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期に引き続き、現代フランス語圏社会について学びます。秋学期には、社会の多様化に伴って共和国が直面している諸問題を中心に考察します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入</li> <li>2. 映画から考えるフランス現代社会</li> <li>3. 植民地主義について</li> <li>4. 「ライシテ」— スカーフ問題から考える（1）</li> <li>5. 「ライシテ」— スカーフ問題から考える（2）</li> <li>6. 「ライシテ」— スカーフ問題から考える（3）</li> <li>7. 「移民」と「統合」の問題（1）</li> <li>8. 「移民」と「統合」の問題（2）</li> <li>9. 「移民」と「統合」の問題（3）</li> <li>10. 「共和制モデル」と「多文化主義」</li> <li>11. フランスとユダヤ人</li> <li>12. ヨーロッパ統合と共和国（1）</li> <li>13. ヨーロッパ統合と共和国（2）</li> <li>14. ヨーロッパ統合と共和国（3）</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	現代フランス社会の独自性や現在抱える諸問題など、フランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	毎回の授業で指示する文献について予習してください。要点の復習を行ってください。		
<b>テキスト</b>	レジュメを配布します。		
<b>参考文献</b>	毎回の講義のなかで紹介していきます。		
<b>評価方法</b>	期末レポート：60%、コメントペーパー、発言などを通じた授業への貢献度：40%		

09年度以降	フランス現代社会各論Ⅰ	担当者	福井 憲彦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>現在の社会をその根っ子から理解するには、その社会の歴史的由来に目を向ける必要があります。春学期では、19世紀末、パリにエッフェル塔が建てられて賛否両論を巻き起こした時代に、主として焦点を合わせ、フランスの社会と政治の動きに注目して、歴史的推移の実状をとらえてみましょう。</p> <p>授業の基本形式は講義ですが、同時代テキストを読む試みも、幾らか挟んでみます。</p> <p>重要なことは、ただ過去の史実を知ることだけではなく、これからの自主的な勉強にも社会に出てからでも役立つように、今から、歴史的過去のものごとをとらえる知力、その際の目の着け所と考え抜く力をみがく練習をすることです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入：ギユスターヴ・エッフェルの生きた時代</li> <li>2. 産業社会への離陸と世紀末大不況</li> <li>3. フランス資本主義の特徴</li> <li>4. 組織化に向かう時代の始まり</li> <li>5. 奴隷制の過去と植民地</li> <li>6. アルジェリアとトクヴィル（テキストを読んでみる）</li> <li>7. ジュール・フェリーと海外進出</li> <li>8. 国民祝祭日・国歌の制定と「国民形成」</li> <li>9. 多様な社会運動と政治グループ</li> <li>10. 左右からの共和体制攻撃</li> <li>11. 世紀末ナショナリズムの諸相</li> <li>12. 異郷への夢想と人種論的差別</li> <li>13. 文学者モーリス・バレスと急進右翼思想</li> <li>14. 二つの万博と共和国の政治</li> <li>15. 最後のまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	フランスあるいはフランス語圏の現代社会を各論し、特定諸問題に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストを読む場合には前回までに配布しますので、事前に自分なりの訳読をして授業に臨み、普段から意見を言えるような準備をすること、事後には講義内容の理解を確認して次回の用意をすること。		
<b>テキスト</b>	特に使いません。同時代テキストはコピーを配布します。		
<b>参考文献</b>	『世界歴史大系 フランス史3』山川出版社など、授業中に指示します。		
<b>評価方法</b>	授業におけるコメントペーパーの評価（30%）と最終試験（70%）		

09年度以降	フランス現代社会各論Ⅱ	担当者	福井 憲彦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的については春学期と同様ですので、上の記述も参照して下さい。</p> <p>秋学期は、春と少し時代をずらして、フランスの「ベル・エポック」とはいかなる時代であったのか、その複雑な様相を、社会文化史的な観点を中心に、とらえてみようと思えます。19世紀から20世紀への世紀転換期、第一次大戦勃発までの時期は、新たな科学や技術の発展と応用、前衛的といわれるような芸術・文化の展開と、大衆化しはじめた文化とが、折り重なるように併存しはじめた時代でした。なぜ「ベル・エポック」と名指されたのか、取り上げるのに挑戦し甲斐のある時代です。</p> <p>授業の基本形式は講義ですが、同時代テキストを読む試みも、幾らか挟んでみたいという点は、春と同様です。秋だけ履修しても、もちろん理解可能なように講義します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入：「ベル・エポック」という名付け</li> <li>2. 高齢化先進国フランスの人口問題</li> <li>3. スピードの時代へ：自動車時代の開幕</li> <li>4. ブルジョワジーと労働者：格差社会の現実</li> <li>5. 農民生活の持続と変容：フォルクローレの世界</li> <li>6. 国民となる農民たち：地方と中央</li> <li>7. 教育機会の拡大と多様化</li> <li>8. 科学と技術の発展（テキストを読んでみる）</li> <li>9. 文化的前衛たちの挑戦</li> <li>10. 大衆文化状況への一歩</li> <li>11. 共和国は植民地帝国</li> <li>12. 対外危機の深刻化と国防</li> <li>13. 暗殺された政治家ジョレス（テキストを読んでみる）</li> <li>14. 戦争勃発への反応</li> <li>15. 最後のまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	フランスあるいはフランス語圏の現代社会を各論し、特定諸問題に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストを読む場合には前回までに配布しますので、事前に自分なりの訳読をして授業に臨み、普段から意見を言えるような準備をすること、事後には講義内容の理解を確認して次回の用意をすること。		
<b>テキスト</b>	特に使いません。同時代テキストはコピーを配布します。		
<b>参考文献</b>	『世界歴史大系 フランス史3』山川出版社など、授業中に指示します。		
<b>評価方法</b>	授業におけるコメントペーパーの評価（30%）と最終試験（70%）		

09年度以降	フランス現代社会各論 I	担当者	P h . ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>La francophonie dans l'océan Pacifique sud : Nouvelle-Calédonie, Vanuatu, Wallis et Futuna et Polynésie française.</b></p> <p>Ce cours a pour but d'étudier, à travers le cas des territoires francophones du Pacifique sud, l'intégration dans une même société d'individus, de groupes, de cultures d'origines différentes. Le respect de la différence est-il possible ? Le cours se concentrera sur le cas de la Nouvelle-Calédonie.</p> <p>Le contenu du cours peut varier pour tenter de répondre aux souhaits des étudiants mais il faut avoir une bonne connaissance du français et de sa grammaire et un grand intérêt pour les questions sociales... même sous le soleil des îles !</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction générale</li> <li>2. Données géographiques de l'océan Pacifique.</li> <li>3-6. Géographie et économie de la Nouvelle-Calédonie.</li> <li>7-9. Géographie et économie du Vanuatu.</li> <li>10-11. Géographie et économie de Wallis et Futuna.</li> <li>12-13. Géographie et économie de la Polynésie française.</li> <li>14. La question des essais nucléaires en Polynésie française.</li> <li>15. Conclusions du premier semestre.</li> </ol>	
到達目標	フランスあるいはフランス語圏の現代社会を各論し、特定諸問題に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Préparer la fiche donnée au cours précédent, approfondir le thème traité en utilisant la bibliothèque ou internet.		
テキスト	Polycopiés, internet, extraits de films.		
参考文献	Sites internet sur les pays étudiés. Dictionnaire français-français.		
評価方法	Rapport final en français sur un thème choisi librement à partir d'une liste donnée au préalable.		

09年度以降	フランス現代社会各論 II	担当者	P h . ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>La francophonie dans l'océan Pacifique sud : La société en Nouvelle-Calédonie</b></p> <p>Voir ci-dessus la présentation du cours.</p> <p>Après une introduction sur l'arrivée de différents peuples dans l'océan Pacifique sud, Le deuxième semestre est consacré à la Nouvelle-Calédonie et plus spécialement à la coexistence des différentes communautés, dans une approche historique.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Bilan du 1er semestre et introduction du second.</li> <li>2. Le peuplement de l'océan Pacifique.</li> <li>3. La découverte par les Européens du Pacifique.</li> <li>4. La colonisation occidentale du Pacifique.</li> <li>5. La découverte de la Nouvelle-Calédonie.</li> <li>6. La société kanak au moment de la découverte.</li> <li>7-8. Les immigrations en Nouvelle-Calédonie.</li> <li>9. Résistance et révoltes des Kanak.</li> <li>10. La Seconde Guerre mondiale.</li> <li>11. Émancipation juridique des Kanak.</li> <li>12. Conflits ouverts des années 80.</li> <li>13. Les accords de Matignon et de Nouméa.</li> <li>14. Perspectives d'avenir : l'indépendance ou non ?</li> <li>15. Conclusions générales</li> </ol>	
到達目標	フランスあるいはフランス語圏の現代社会を各論し、特定諸問題に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Préparer la fiche donnée au cours précédent, approfondir le thème traité en utilisant la bibliothèque ou internet.		
テキスト	Polycopiés, internet, extraits de films.		
参考文献	Sites internet sur les pays étudiés. Dictionnaire français-français.		
評価方法	Rapport final en français sur un thème choisi librement à partir d'une liste donnée au préalable.		

09年度以降	フランス現代社会講読 I	担当者	廣田 愛理
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>マクロン大統領やフィリップ首相、フランス政府などの公式ツイッターから、毎回いくつかのツイートをピックアップし、フランスの政治、経済、社会のホットな話題について学んでいく。さらに、ツイートの内容を補足する形で新聞記事も取り上げていく。</p> <p>この授業では、ツイッターの短い文章を糸口にして新聞の長い文章に慣れるという作業を繰り返すことにより、社会科学系の文章の要旨を把握する力を鍛えていきたい。</p> <p>初回の授業で授業の進め方について説明するので、必ず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 4月1日～8日のツイートより</li> <li>3. 4月9日～15日のツイートより</li> <li>4. 4月16日～22日のツイートより</li> <li>5. 4月23日～30日のツイートより</li> <li>6. 4月の新聞記事を読む</li> <li>7. 5月1日～8日のツイートより</li> <li>8. 5月9日～15日のツイートより</li> <li>9. 5月16日～22日のツイートより</li> <li>10. 5月23日～31日のツイートより</li> <li>11. 5月の新聞記事を読む</li> <li>12. 6月1日～10日のツイートより</li> <li>13. 6月11日～20日のツイートより</li> <li>14. 6月21日～30日</li> <li>15. 6月の新聞記事を読む</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	予習をしたうえで授業に臨むこと。授業内で出される課題を提出すること。		
<b>テキスト</b>	テキストは使用しない。		
<b>参考文献</b>	参考文献は授業中に紹介する。		
<b>評価方法</b>	発表（50%）と提出課題（50%）によって評価する。		

09年度以降	フランス現代社会講読 II	担当者	廣田 愛理
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では、M. Barrière, <i>La France à table: La grande épopée de la cuisine française</i> と A. Drouard, <i>Les Français et la table: Alimentation, cuisine, gastronomie du Moyen Âge à nos jours</i> の2つのテキストの講読を通じて、19世紀から現代にかけてのフランス料理の変遷を辿るとともに、フランス人の生活習慣や食生活がどのように変化したかを学んでいく。</p> <p>初回の授業で授業の進め方について説明するので、必ず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. ブルジョワ料理</li> <li>3. レストランとレストラン経営者</li> <li>4. 農家の食卓</li> <li>5. 19世紀における食生活の変化</li> <li>6. 第1次大戦と兵士の食事</li> <li>7. 地方料理</li> <li>8. 夢のキッチン</li> <li>9. 料理人の世界</li> <li>10. 食生活と健康意識</li> <li>11. 20世紀における食の工業化</li> <li>12. パリの卸売市場</li> <li>13. エリゼ宮の晩餐</li> <li>14. ヌーヴェル・キュージーヌ</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	予習をしたうえで授業に臨むこと。授業内で出される課題を提出すること。		
<b>テキスト</b>	Barrière, <i>La France à table</i> , Paris, 2015, Drouard, <i>Les Français et la table</i> , Paris, 2005.		
<b>参考文献</b>	参考文献は授業中に紹介する。		
<b>評価方法</b>	発表（50%）と提出課題（50%）によって評価する。		

09年度以降	フランス現代社会講読 I	担当者	藤田 朋久
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
フランス史の有名なエピソードやフレーズを集めて解説した下記の本から、初期中世に関する3つの章を選んで読みます。またあわせて他の補足資料も読む予定です。フランス語の読解力を向上させるとともに、フランス史の理解を深めることを目的とする授業です。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンス</li> <li>2. Souviens-toi du vase de Soissons...(1)</li> <li>3. Souviens-toi du vase de Soissons...(2)</li> <li>4. Souviens-toi du vase de Soissons...(3)</li> <li>5. Souviens-toi du vase de Soissons...(4)</li> <li>6. Le bon roi Dagobert a mis sa culotte à l'envers...(1)</li> <li>7. Le bon roi Dagobert a mis sa culotte à l'envers...(2)</li> <li>8. Le bon roi Dagobert a mis sa culotte à l'envers...(3)</li> <li>9. Le bon roi Dagobert a mis sa culotte à l'envers...(4)</li> <li>10. Charlemagne a-t-il inventé l'école ? (1)</li> <li>11. Charlemagne a-t-il inventé l'école ? (2)</li> <li>12. Charlemagne a-t-il inventé l'école ? (3)</li> <li>13. Charlemagne a-t-il inventé l'école ? (4)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. 全体のまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前に各自でテキストを精読して授業に臨むようにしてください。また授業で配布する参考資料を授業後に整理するようにしてください。		
<b>テキスト</b>	Antoine Auger et Dimitri Casali, <i>Petites histoires de l'histoire de France</i> , Flammarion, 2007.		
<b>参考文献</b>	授業で指示する。		
<b>評価方法</b>	平常点 (20%) とテスト (1回) の成績 (80%) を総合して評価します。		

09年度以降	フランス現代社会講読 II	担当者	藤田 朋久
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
フランス史の有名なエピソードやフレーズを集めて解説した下記の本から、フランス革命に関する3つの章を選んで読みます。またあわせて他の補足資料も読む予定です。フランス語の読解力を向上させるとともに、フランス史の理解を深めることを目的とする授業です。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンス</li> <li>2. La Bastille, une horrible forteresse ? (1)</li> <li>3. La Bastille, une horrible forteresse ? (2)</li> <li>4. La Bastille, une horrible forteresse ? (3)</li> <li>5. La Bastille, une horrible forteresse ? (4)</li> <li>6. Comment le maître de poste a-t-il reconnu le roi ? (1)</li> <li>7. Comment le maître de poste a-t-il reconnu le roi ? (2)</li> <li>8. Comment le maître de poste a-t-il reconnu le roi ? (3)</li> <li>9. Comment le maître de poste a-t-il reconnu le roi ? (4)</li> <li>10. À Valmy, les Prussiens ont-ils eu peur des Français ? (1)</li> <li>11. À Valmy, les Prussiens ont-ils eu peur des Français ? (2)</li> <li>12. À Valmy, les Prussiens ont-ils eu peur des Français ? (3)</li> <li>13. À Valmy, les Prussiens ont-ils eu peur des Français ? (4)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. 全体のまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前に各自でテキストを精読して授業に臨むようにしてください。また授業で配布する参考資料を授業後に整理するようにしてください。		
<b>テキスト</b>	Antoine Auger et Dimitri Casali, <i>Petites histoires de l'histoire de France</i> , Flammarion, 2007.		
<b>参考文献</b>	授業で指示する。		
<b>評価方法</b>	平常点 (20%) とテスト (1回) の成績 (80%) を総合して評価します。		

09年度以降	フランス現代社会講読Ⅰ	担当者	尾玉 剛士
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代フランスにおける社会問題に関する仏語テキストを輪読します。講義の目的は、①フランスにおける社会問題と対策を理解すること、②政治学・経済学・人口学などの社会科学系のフランス語を習得することです。</p> <p>春学期は「年金制度改革」に関する手頃な入門書を読みます。随時、専門用語の解説を行いますから、年金制度に関する基礎知識は前提としません。ただし、テキストの読み上げと翻訳を求めるため、予習は必須です。</p> <p>多読・速読ではなく、テキストを文法的に正確に理解しながらじっくり読み進めていくというスタイルをとります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. テキストの輪読</li> <li>3. テキストの輪読</li> <li>4. テキストの輪読</li> <li>5. テキストの輪読</li> <li>6. テキストの輪読</li> <li>7. 中間まとめ</li> <li>8. テキストの輪読</li> <li>9. テキストの輪読</li> <li>10. テキストの輪読</li> <li>11. テキストの輪読</li> <li>12. テキストの輪読</li> <li>13. テキストの輪読</li> <li>14. テキストの輪読</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回、テキストの指定範囲を予習して、発音練習と翻訳を済ませておくことが求められます。復習時には、どのような問題がテストに出るのか想像しながら取り組むと効果的です。		
テキスト	Bruno Palier, 2014, <i>La réforme des retraites</i> (5 <sup>e</sup> éd.), Paris : PUF, « Que sais-je ? ».		
参考文献	授業中に紹介。		
評価方法	平常点（授業態度）30%・中間テスト30%・期末テスト40%。		

09年度以降	フランス現代社会講読Ⅱ	担当者	尾玉 剛士
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代フランスにおける社会問題に関する仏語テキストを輪読します。講義の目的は、①フランスにおける社会問題と対策を理解すること、②政治学・経済学・人口学などの社会科学系のフランス語を習得することです。</p> <p>秋学期は「ホームレス」に関する文章を読みます。随時、専門用語の解説を行います。多読・速読ではなく、テキストを文法的に正確に理解しながらじっくり読み進めていくというスタイルをとります。</p> <p>テキストの読み上げと翻訳を求めるため、予習は必須です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. テキストの輪読</li> <li>3. テキストの輪読</li> <li>4. テキストの輪読</li> <li>5. テキストの輪読</li> <li>6. テキストの輪読</li> <li>7. 中間まとめ</li> <li>8. テキストの輪読</li> <li>9. テキストの輪読</li> <li>10. テキストの輪読</li> <li>11. テキストの輪読</li> <li>12. テキストの輪読</li> <li>13. テキストの輪読</li> <li>14. テキストの輪読</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回、テキストの指定範囲を予習して、発音練習と翻訳を済ませておくことが求められます。復習時には、どのような問題がテストに出るのか想像しながら取り組むと効果的です。		
テキスト	<i>Problèmes politiques et sociaux n° 770 Les SDF</i> , La documentation française, juillet 1996 他。		
参考文献	授業中に紹介。		
評価方法	平常点（授業態度）30%・中間テスト30%・期末テスト40%。		

09年度以降	フランス現代社会講読Ⅰ	担当者	福井 憲彦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的：</b>世紀末とベル・エポックのフランス社会（1）19世紀末から第1次世界大戦が勃発する1914年までのフランス社会では、実に多様な面で大きな変化が生じ、その後の社会生活を大きく左右することになります。フランスで刊行されたリセの歴史教科書の記述や同時代資料を読み比べて、それらに関する知識を得ると同時に、それらの変化がどのように評価されているか、とらえてみましょう。</p> <p><b>講義概要：</b>春学期においては、まず後期印象派やアール・ヌーヴォーなど芸術の動向から入って、知的世界や民衆文化の変化、大衆社会への兆し、カトリック教会の動向などについて、教科書による記述（授業計画にあるテキスト）と、同時代資料とを読み比べてみましょう。（進行の順は状況によって変更することがあります）</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業方式のガイダンス、使用テキストの説明</li> <li>2. テキストの配布と前提的知識についての講義</li> <li>3. 第1テキスト輪読開始：印象派以降の絵画の推移</li> <li>4. 第1テキスト輪読の補完資料を読む</li> <li>5. 第1テキスト輪読：アール・ヌーヴォーなど</li> <li>6. 第2テキスト輪読開始：知的世界の動き</li> <li>7. 中間のまとめと確認</li> <li>8. 第2テキスト輪読：民衆文化から大衆文化へ</li> <li>9. 第3テキスト挿入：「文化の大衆化」の前提について</li> <li>10. 第3テキスト挿入：「文化の大衆化」の評価について</li> <li>11. 第2テキスト輪読：補足資料を読んでみる</li> <li>12. 第4テキスト輪読：社会の変化と信仰</li> <li>13. 第4テキスト輪読：カトリック教会の対応</li> <li>14. 後半のまとめ</li> <li>15. 全体のまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	配布されたフランス語テキストを、辞書や事典を使って事前に訳して授業に参加し、事後には自分の理解の問題点をしっかり点検すること。		
<b>テキスト</b>	プリントを配布します。		
<b>参考文献</b>	福井憲彦『世紀末とベル・エポックの文化』（山川世界史リブレット）など、授業で文献を指示します。		
<b>評価方法</b>	授業における音読・訳読の評価（40%）、最終テスト（60%）		

09年度以降	フランス現代社会講読Ⅱ	担当者	福井 憲彦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的：</b>世紀末とベル・エポックのフランス社会（2）春学期と基本的に講義目的は同じですので、上記した文も参照してください。しかし内容は春学期の継続ではなく、第三共和制といわれる共和国の政治状況や思想、政治文化のあり方に論点を据えて、ほぼ時系列にそって学ぶと同時に、フランス語テキストの読解力をつけることにあります。秋学期だけの履修も問題ありません。</p> <p><b>講義概要：</b>世紀末フランスの国論を二分したといわれるドレフュス事件をはじめ、パナマ・スキャンダルなどの出来事や、政治勢力のあり方などについて、ベルスタンとミルザという2人の著名な歴史家が編者となったリセの教科書の一部を読んでみましょう。時間が許せば、それらがどのように戯画（カリカチュール）に描かれていたかについても、イメージ資料を使って学んでみたいと思います。（進行の順は状況によって変更することがあります）</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業方式のガイダンス、使用テキストの説明</li> <li>2. テキストの配布と前提的知識についての講義</li> <li>3. 輪読開始：穏健共和派の時代</li> <li>4. 輪読：ジュール・フェリーと「オポルチュニスト」</li> <li>5. 輪読：ブーランジェ将軍事件</li> <li>6. 輪読：パナマ・スキャンダルとテロ事件の頻発</li> <li>7. 中間のまとめと確認</li> <li>8. 輪読再開：ドレフュス事件（1894-1899）</li> <li>9. 輪読：ドレフュス事件関連資料読解</li> <li>10. 輪読：1900年パリ万博と共和国防衛内閣</li> <li>11. 輪読：急進共和派と政教分離政策</li> <li>12. 輪読：20世紀初頭のフランス社会（人口問題）</li> <li>13. 輪読：同（産業化をめぐる諸問題）</li> <li>14. 後半のまとめ</li> <li>15. 全体のまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	配布されたフランス語テキストを、辞書や事典を使って事前に訳して授業に参加し、事後には自分の理解の問題点をしっかり点検すること。		
<b>テキスト</b>	プリントを配布します。		
<b>参考文献</b>	『世界歴史大系 フランス史3』山川出版社ほか、授業中に適宜文献を指示します。		
<b>評価方法</b>	授業における音読・訳読の評価（40%）、最終テスト（60%）		

09年度以降	フランス現代社会講読Ⅰ	担当者	根木 昭英
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>20世紀フランスの批評家ロラン・バルトの「Des Joyaux aux Bijoux」(邦訳題「宝飾品からアクセサリーへ」)(1961)を読みます。バルトは50年代後半から60年代にかけて、ソシュール言語学の影響のもと、大著『モードの体系』(1967)へと結実することになる衣服の社会学を構想しました。本講で扱う小論は、こうした関心の一環をなすものです。</p> <p>われわれが普段何気なく、あるいは大きなこだわりを持って(しかしその社会学的意味を考へることなしに)行っている衣服やアクセサリーの選択の背後には、どのような力が働いているのでしょうか。またそれは、現代社会のあり方とどのように関わっているのでしょうか。卓抜なフランス語の使い手であるバルトのテキストそのものを味わいながら考えます。</p> <p>受講にあたっては、訳読と解説をできるように準備しておいてください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入</li> <li>2. 鉱物としての宝飾品 (1)</li> <li>3. 鉱物としての宝飾品 (2)</li> <li>4. 鉱物としての宝飾品 (3)</li> <li>5. 宝飾品の記号的性格 (1)</li> <li>6. 宝飾品の記号的性格 (2)</li> <li>7. 宝飾品の記号的性格 (3)</li> <li>8. 中間テスト・解説</li> <li>9. 言語活動としてのモード</li> <li>10. 宝石の世俗化</li> <li>11. 宝石の民主化</li> <li>12. 「趣味」について</li> <li>13. 現代のアクセサリーと「良き趣味」</li> <li>14. 現代におけるアクセサリーの意味</li> <li>15. 期末テスト・解説</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	次の授業で講読する箇所について、毎回事前に予習しておいてください。要点の復習も行ってください。		
<b>テキスト</b>	開講時に指示します。		
<b>参考文献</b>	ロラン・バルト、『モード論集』、山田登世子編訳、ちくま学芸文庫、2011年		
<b>評価方法</b>	発表などを通じた授業への貢献度：40%、中間・期末テスト(フランス語+購読内容)：60%		

09年度以降	フランス現代社会講読Ⅱ	担当者	根木 昭英
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>20世紀の哲学者、モーリス・メルロー＝ポンティのセザンヌ論「Le Douce de Cézanne」(「セザンヌの疑い[懐疑]」)(1945)の一部を読みます。</p> <p>19世紀の画家ポール・セザンヌは、モネに代表される印象派の美学に一時接近しましたが、その光あふれる色彩世界に飽き足らず、それをさらに「美術館の芸術のように堅固で持続可能なもの」にすることを目指しました。メルロー＝ポンティのセザンヌ論は、20世紀絵画を先取りする画家のこうした試みとその困難とを辿りながら、彼の絵画が頭わにするもの、「見る」ことや絵画を描くことの意味、さらには「自由」の問題へと思索を深めていきます。</p> <p>購読ではとくに、印象派との関係においてセザンヌ絵画が持つ革新性とその哲学的意義を扱った箇所を読む予定です。受講にあたっては、訳読と解説をできるように準備しておいてください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入</li> <li>2. 印象派について (1)</li> <li>3. 印象派について (2)</li> <li>4. 印象派について (3)</li> <li>5. オブジェへの回帰 (1)</li> <li>6. オブジェへの回帰 (2)</li> <li>7. オブジェへの回帰 (3)</li> <li>8. 中間テスト・解説</li> <li>9. デフォルメと色彩 (1)</li> <li>10. デフォルメと色彩 (2)</li> <li>11. デフォルメと色彩 (3)</li> <li>12. セザンヌ絵画の意味 (1)</li> <li>13. セザンヌ絵画の意味 (2)</li> <li>14. セザンヌ絵画の意味 (3)</li> <li>15. 期末テスト・解説</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	次の授業で講読する箇所について、毎回事前に予習しておいてください。要点の復習も行ってください。		
<b>テキスト</b>	開講時に指示します。		
<b>参考文献</b>	メルロー＝ポンティ、『メルロー＝ポンティ コレクション』、中山元編訳、ちくま学芸文庫、1999年		
<b>評価方法</b>	発表などを通じた授業への貢献度：40%、中間・期末テスト(フランス語+購読内容)：60%		

# 交 流 文 化 論

09年度以降	交流文化論（航空産業論）	担当者	井上 泰日子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的： 我が国は人口減少、一方世界の人口は増え続けている。グローバル化の進展、さらに世界の人口増加で他の輸送手段の追随を許さない航空の重要性はますます高まっている。同時に近年注目を集めているLCC（低コスト航空会社）の拡大、多様化など、航空産業は大きな変革の過程にある。本講義では、航空の歴史、現状、未来についての基礎的な知識の習得を目的としている。</p> <p>講義概要： 本講義では、航空輸送の各テーマに加え、航空輸送と航空機製造の連携の構造についての解説も行う。また、様々なビジネス理論の解説も行う。時間に余裕があれば航空産業におけるキャリアデザイン、就職活動の現状についても解説を行う。タイミングが合えば、航空関係者を招聘し特別講演を実施する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 最近の航空産業の動きなど</li> <li>3. 航空産業とキャリアデザイン</li> <li>4. 航空とは何か</li> <li>5. 航空の歴史</li> <li>6. LCC（低コスト航空会社）が世界を変える</li> <li>7. 航空事業の特性と運賃</li> <li>8. 米国チャプター11（連邦破産法第11章）</li> <li>9. JALの破綻と復活</li> <li>10. 規制緩和とオープンスカイ政策</li> <li>11. 航空機製造ビジネス</li> <li>12. 三菱リージョナルジェット（MRJ）飛翔</li> <li>13. 空港</li> <li>14. 国際航空法</li> <li>15. 講義全体の“まとめ”</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	国際航空業の仕組みや成り立ち、国際航空協定と航空ナショナリズムの流れに関する専門知識を習得し、わが国の空港行政の問題点や航空政策の現状と課題、及びLCCやアライアンス等の展望等について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの丁寧な予習と復習の実施		
<b>テキスト</b>	教科書：『最新・航空事業論（第2版）』（2016年12月、日本評論社）		
<b>参考文献</b>	『急変する世界下のエンプロイアビリティ-豊富な事例から導くキャリア形成のヒント』（丸善プラネット）		
<b>評価方法</b>	受講姿勢、ディスカッションでの発言など講義参画30%、最終試験70%		

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>到達目標</b>			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
<b>テキスト</b>			
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>			

13年度以降	交流文化論（ツーリズム特殊講義 （紛争事例から学ぶ旅行契約法入門）	担当者	花本 広志
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、旅行契約に関する具体的な紛争事例の解決策を検討することを通じて、旅行契約に関する法（主に民法）のあり様と基本的な考え方を学びます。全部で3つの紛争事例を課題として取り上げる予定ですが、各事例の解決に向けて、グループで活動しながら、課題の解決に必要な知識や技能、態度を協調的・自立的に学習していきます。最後に総仕上げとして、口頭発表会を開催して、各自（履修者数によってはグループごと）の学習成果を発表したうえで、それをレポートにまとめて提出します。</p> <p>この授業を通じて、旅行契約において生じる法的問題のうち、少なくとも1つについて、法律学を学習したことのない人に対して、分かりやすく、自分の言葉で、簡潔に（口頭3分、文書1200字程度）、ただし法的思考の作法に従って、解答することができるようになることを目指します（これがこの授業の獲得目標の一つになります）。</p> <p>具体的な授業の進め方や成績評価の方法などについては、第1回のオリエンテーションで詳しく説明します。受講者のみなさんの主体的な参加が必須となる授業ですので、受講希望者は、可能な限り第1回目のオリエンテーションに出席して、どのような授業か理解したうえで履修してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. PBLガイダンス</li> <li>3. PBL練習</li> <li>4. 第1事例（その1）</li> <li>5. 第1事例（その2）</li> <li>6. 第1事例（その3）</li> <li>7. 第2事例（その1）</li> <li>8. 第2事例（その2）</li> <li>9. 第2事例（その3）</li> <li>10. 第3事例（その1）</li> <li>11. 第3事例（その2）</li> <li>12. 第3事例（その3）</li> <li>13. 口頭発表会の準備</li> <li>14. 口頭発表会</li> <li>15. まとめと振り返り</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業3回に2回の割合で「予習メモ」、各事例の検討後は、グループでの検討結果をまとめたメモ（グループメモ）の提出を求めます。全事例の検討後は、受講者各自が授業全体を通じて学習した成果を口頭で発表のうえ、レポートにまとめて提出します。		
<b>テキスト</b>	特になし。学習に必要な文献や資料は、原則として受講者自身が協力し合って調査・収集します。		
<b>参考文献</b>	必要に応じて適宜、授業中に紹介します。		
<b>評価方法</b>	出席率、宿題提出率、口頭発表と最終レポート提出の有無、及びラーニング・ポートフォリオ（受講者自身による学習成果のまとめ）の採点結果の組み合わせによって評価しますが、評価基準は複雑でこの欄に書き切れないため、第1回目のオリエンテーションで説明します。		

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>到達目標</b>			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
<b>テキスト</b>			
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>			

09年度以降	交流文化論（ツーリズム・マネジメント論）	担当者	鈴木 涼太郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>現代ツーリズムの発展は、旅行にかかわる諸サービスを大量生産・消費可能な商品として提供するツーリズム／観光関連産業の発展抜きに語ることは出来ない。</p> <p>本科目では、これまでツーリズム研究で蓄積されてきた理論的枠組みをいくつか紹介しながら、ツーリズムの現場における人間や空間、イメージの管理の在り方について批判的視点を身につけることを目標とする。それゆえ、本講義で扱うマネジメントの範囲は、ツーリズム産業の企業活動における問題解決や現実的課題には限定されない点に留意されたい。</p> <p>講義では、まずツーリズム商品の基本的な特徴に留意しつつ、関連産業のしくみについて概説する。次に、ツーリズム商品のマネジメントにかかわる具体的な事例を取り上げ、現在のツーリズム産業が抱える課題について検討する。ゲストスピーカーによる授業となることもある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1、ガイダンス</li> <li>2、ツーリズム商品の特徴①：マーケティングからの視点</li> <li>3、ツーリズム商品の特徴②：イメージ消費と身体的行為</li> <li>4、パッケージツアー①：マクドナルド化された旅行？</li> <li>5、パッケージツアー②：イメージをパッケージ化する</li> <li>6、パッケージツアー③：身体化される団体旅行</li> <li>7、パッケージツアー④：スピリチュアリティの商品化</li> <li>8、パッケージツアー⑤：商品企画における「知識の管理」</li> <li>9、空間の管理とテーマ化</li> <li>10、テーマ化された空間とハイブリッド消費</li> <li>11、感情労働</li> <li>12、テーマ化された空間に暮らす</li> <li>13、生活とツーリズム</li> <li>14、「ツーリズムの終焉」とツーリズム産業</li> <li>15、まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業内での指示に従い各自が予習復習を行うこと。		
<b>テキスト</b>	指定しない。		
<b>参考文献</b>	授業内で適宜紹介する。		
<b>評価方法</b>	授業への参加／講義内小課題 20% 期末試験 80%		

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>到達目標</b>			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
<b>テキスト</b>			
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>			

13年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （グローバル化と子ども））	担当者	堀 芳枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>世界では約1億7000万人の子どもが児童労働に従事している。こうした子どもたちが抱える問題やその背景を理解すると同時に、グローバル化や私たちがどのように関わっているのかを理解する。また、問題を解決するために、国際機関やNGOの取り組みについて理解する。</p> <p>この授業を通じて、世界の子どもの問題について単に「かわいそう」というだけでなく、社会科学的に理解し説明できるようになります。また、「子どもの権利条約」を理解して、現状を分析し、解決方法について考えることができるようになります。また、国際社会の規範の変容における国連の役割、国家・社会の規範や政策の変容プロセスを理解し、説明することができるようになります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス（概要と、予習・復習について）</li> <li>2. アジアの児童労働</li> <li>3. タイのストリート・チルドレン</li> <li>4. 赤ちゃんの値段－国際養子縁組問題</li> <li>5. 女性と子どものヒューマン・トラフィック Part I</li> <li>6. 女性と子どものヒューマン・トラフィック Part II</li> <li>7. ヒューマン・トラフィック撲滅への取り組み</li> <li>8. 日本の子どもの貧困</li> <li>9. 在日外国人の子どもの問題（アクティブラーニング）</li> <li>10. アフリカの子ども兵士</li> <li>11. イラク戦争と子どもたち</li> <li>12. 国連の安全保障と子どもの保護</li> <li>13. 子どもの権利の実現に向けての国連の役割</li> <li>14. 子どもと教育について</li> <li>15. 今学期のまとめ（質疑応答など）</li> </ol>	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された部分を事前に読んでおくこと、授業で示されるポイントに従って復習する。あるいは、授業で出された課題に取り組むこと		
テキスト	テキスト 初瀬龍平・戸田真紀子・松田哲編『国際関係の中の子どもたち』（晃洋書房、2015年）		
参考文献	授業で適宜紹介します		
評価方法	大福帳 15%、期末試験 85%		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

09年度以降	交流文化論（トランスナショナル・メディア論）	担当者	山口 誠
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>メディアとは、人と人をつなげ、事実やメッセージを伝えるための透明な「パイプ」ではありません。ときに事実と異なる情報を伝え、あるいは「事実」そのものを作り出し、そして人と人を分断することもあります。ならば、いつ、どうして「メディア」は生まれ、どのような仕組みを持ち、いかなる機能を果たすようになったのでしょうか。そしてトランスナショナル・メディアとは、いかなる存在でしょうか。</p> <p>この講義では、「国際報道」「国際宣伝」「国境を越えて流通するイメージや情報」を柱とするトランスナショナル・メディアの事例を歴史的に検討し、その特性を理解することを目的とします。たとえば中世の活版印刷術と新約聖書、近代の戦争報道と国際プロパガンダ、現代のインターネット・ジャーナリズムなどを多角的に分析します。</p> <p>メディア研究の基礎から最新の議論を学ぶことで「メディア」の機能と仕組みを考え、トランスナショナル・メディアを「読み解く」だけでなく「使いこなす」ための批判的思考とリテラシーを習得することを目指します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス:「トランスナショナル」と「メディア」とは？</li> <li>2. メディアの源流①:メディアとしての新約聖書</li> <li>3. メディアの源流②:宗教戦争とナショナルな想像力</li> <li>4. 近代とメディア①:ジャーナリズムとリテラシーの曙</li> <li>5. 近代とメディア②:「個人」の誕生と「国家」の変容</li> <li>6. 近代とメディア③:「日刊新聞」以前・以後</li> <li>7. 近代とメディア④:ニューヨーク・タイムズの19世紀</li> <li>8. 近代日本のトランスナショナル・メディア</li> <li>9. 20世紀とメディア①:国際プロパガンダと「宣伝」</li> <li>10. 20世紀とメディア②:ベトナム戦争と ニュー・ジャーナリズム</li> <li>11. 20世紀とメディア③:湾岸・イラク戦争と”Media War”</li> <li>12. 国際報道の現在形①:「ライブ」という問題</li> <li>13. 国際報道の現在形②:ネット時代の「ニュース」</li> <li>14. 国際報道の現在形③:トランスナショナル・メディアと現代</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めてください。		
<b>テキスト</b>	各回講義で適宜提示します。		
<b>参考文献</b>	各回講義で適宜提示します。		
<b>評価方法</b>	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。		

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>到達目標</b>			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
<b>テキスト</b>			
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>			

09年度以降	交流文化論（表象文化論）	担当者	高橋 雄一郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>日本の敗戦から70年以上が経ち、戦争について語られる機会も少なくなりました。この授業では、メディアや学校、ミュージアムなどで、戦争がどのように記憶、表象されているかを調べ、記憶や表象の可能性について、受講生の皆さんと議論していきます。春学期は、2014年に『毎日新聞』に連載された記事「いま靖国から」を題材に、強制連行、慰安婦についても考えていきます。</p> <p>1945年、秋田県の花岡鉱山で、中国から強制連行されていた人たちが蜂起し、鎮圧されて400人以上が犠牲になりました。蜂起のあった6月30日には毎年、慰霊祭が営まれています。今年は土曜日にあたるので、(ちょっと遠距離ですが) 現地で課外授業をおこない、慰霊祭への参加、平和記念館の見学などをする予定です。</p> <p>課外授業は、その他に靖国神社、女たちの戦争と平和資料館(wam)などでも実施の予定です。少なくとも1回は課外授業に参加することが、単位取得の条件になります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 中国人強制連行の政策と思想</li> <li>3. 花岡事件とは</li> <li>4. 花岡事件と和解、記憶の継承</li> <li>5. 課外授業準備</li> <li>6. 「慰安婦」か「性奴隷」か</li> <li>7. 「慰安婦」か「性奴隷」か</li> <li>8. 「慰安婦」か「性奴隷」か</li> <li>9. いま靖国から</li> <li>10. いま靖国から</li> <li>11. いま靖国から</li> <li>12. 課外授業準備</li> <li>13. 女たちの戦争と平和資料館</li> <li>14. 靖国神社と遊就館</li> <li>15. まとめのディスカッション</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストを十分に予習し、また背景となる歴史や社会状況について調べ、問題点や質問事項を整理して授業に臨むこと。授業後は自分の意見をクラスのフェイスブック・グループに投稿し、ポートフォリオ作成の準備をする。		
<b>テキスト</b>	杉原達『中国人強制連行』（岩波新書、2002）ほか、『毎日新聞』の連載記事はプリントを配布します。		
<b>参考文献</b>	NHK取材班、『NHK スペシャル 幻の外務省報告書—中国人強制連行の記録』（NHK出版、1994）ほか。		
<b>評価方法</b>	予習復習の成果を含めたポートフォリオを最終授業で提出（40%）、毎週のフェイスブックへの投稿（30%）、最終レポート（30%）*授業はディスカッション型で、積極的な参加が求められます。		

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>到達目標</b>			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
<b>テキスト</b>			
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>			

09年度以降	交流文化論（ツーリズム人類学）	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ツーリズムが社会にもたらす影響は、経済的側面のみならず、社会的・文化的・政治的側面など多岐にわたっています。それゆえツーリズムを学術的に考察する際の方法論も多様です。</p> <p>本講義では、特に文化人類学という学問を手がかりに、ツーリズムを「文化」という側面から検討するための基礎的概念・考え方について学ぶことを目的としています。</p> <p>具体的には、1. ツーリズムを生み出す仕掛け、2. ツーリズムがもたらす影響、3. ツーリズムが作り出す文化、という3つの側面から講義を行い、ツーリズムを社会・文化現象として分析する際の基本的な視座の習得を目指します。同時に、ツーリズム研究に関連する現代人類学における主要な問題意識・諸概念についての理解を深めていきたいと思えます。</p> <p>受講に際しては、文化人類学の基礎知識は必ずしも必要ありませんが、授業内で紹介する文献資料の読解を各自行なうなど、予習・復習が不可欠となります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>趣旨説明</li> <li>映画『海と大陸』</li> <li>グローバリゼーションの民族誌1</li> <li>グローバリゼーションの民族誌2</li> <li>旅と観光</li> <li>ビデオ上映『深夜特急1』</li> <li>表象の政治学—情報資本主義と観光</li> <li>メディアと観光—「樂園」ハワイの文化史</li> <li>植民地主義と観光—「神々の島」バリの誕生</li> <li>文化装置としてのホテル</li> <li>世界遺産の窮状—カンボジアの事例</li> <li>セックス・ツーリズム—タイの事例</li> <li>エスニック・ツーリズム—タイの事例</li> <li>先住民文化の商品化と著作権—北欧サーミの事例</li> <li>「記憶の場」と観光—広島および西アフリカの事例</li> </ol>	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	『観光学キーワード』『よくわかる観光社会学』『観光人類学』などで、観光研究についての基本的知識について理解を深めておくこと。		
テキスト	特に定めない。		
参考文献	『観光学キーワード』（有斐閣）、『よくわかる観光社会学』（ミネルヴァ書房）、『観光人類学』（新曜社）		
評価方法	授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%)。ただし、4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

13年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （東南アジアのナショナリズム、民主主義、平和））	担当者	堀 芳枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>2000年代に入り中国や東南アジアの成長はめざましい。中国はいまや世界第二位のGDPとなり、東アジアの平和のカギを握る存在となった。また、2015年に成立したASEAN共同体は6億人の巨大市場としても注目されている。また、インドもICT産業を牽引する国家である。みなさんは将来、出張先として、ビジネスパートナーとして中国、東南アジア、インドと向き合うことになる。したがって、この授業では、将来みなさんが向き合うことになるアジアの政治や社会—ナショナリズム、戦後の国民国家建設の歩み、そして紛争や平和の課題を理解し、日本との関係について、東南アジア地域研究の観点から考えることを目的とする。それはみなさんが将来、何らかの形でアジアと良い信頼関係を築き、東アジアの平和や安定を創り出す一端を担ってほしいからである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス（予習・復習） 東南アジア地域の特徴</li> <li>2. 近代以前の東南アジア</li> <li>3. 帝国主義と植民地政策</li> <li>4. 中国、ベトナム、インドのナショナリズム（民族運動）</li> <li>5. 日本軍政と東南アジア</li> <li>6. 冷戦と東南アジアの独立</li> <li>7. 中国の文化大革命と改革開放</li> <li>8. ベトナム戦争とアメリカ</li> <li>9. ベトナム戦争とカンボジアのポルポト（大虐殺）</li> <li>10. タイの国民国家—国王・軍・政治家・中間層</li> <li>11. フィリピンの権威主義体制と民主化、NGO</li> <li>12. インドネシアの権威主義体制とアジア通貨危機</li> <li>13. マレーシア・シンガポールの国民統合と多文化主義</li> <li>14. ASEANの地域統合と課題</li> <li>15. 今学期のまとめ</li> </ol>	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストを事前に熟読すること、復習については授業の最後で述べるポイントに従って、テキストを振り返ること		
テキスト	中野亜里・遠藤聡ほか『入門 東南アジア現代史（改訂版）』福村出版、2016年。		
参考文献	授業で紹介します		
評価方法	大福帳 15%、期末テスト 85%		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

09年度以降	交流文化論（国際会議・イベント事業論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 2020年の東京での開催をひかえ、オリンピック、パラリンピックが大きな注目を集めている。本講義においては、オリンピック、パラリンピックはじめ、博覧会、国際会議、その他各種イベントの歴史、現状などについて学習する。</p> <p>講義概要： オリンピック、パラリンピック、博覧会、国際会議などについて歴史的経緯、現状などを学習し、さらに、その具体的な仕組みや役割を理解する。最後は、東京オリンピック・パラリンピックに焦点をあて、“それをどのように成功させるか”、“どのようにして国や地域振興に生かすか”などについて、各自パワーポイントを使用しプレゼンテーションを行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. イベント・コンベンションについて①</li> <li>3. イベント・コンベンションについて②</li> <li>4. 国際博覧会</li> <li>5. 2020年東京オリンピック・パラリンピック</li> <li>6. 障害者スポーツとパラリンピックについて</li> <li>7. 国際会議・イベントについての「ディスカッション」</li> <li>8. 古代オリンピック</li> <li>9. ビジネスの視点からのオリンピック①</li> <li>10. ビジネスの視点からのオリンピック②</li> <li>11. プレゼンテーション： 「2020年・東京オリンピック・パラリンピックをどのように成功させるか」①</li> <li>12.        "        ②</li> <li>13.        "        ③</li> <li>14.        "        ④</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	新聞、関連文献などを事前に読むこと。配布した資料の復習		
テキスト	適宜個別資料を配布する		
参考文献	特に指定無し		
評価方法	授業での発言、受講姿勢、講義参画70%、プレゼンテーションとレポート30%		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

09年度以降	交流文化論（ツーリズム政策論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：          ツーリズムにおける政策や課題を理解することを目的としている。ツーリズム政策は、国家の主要政策として世界各国で推進されてきたが、グローバル化が進展する今日その重要性がさらに高まっている。このような現状を踏まえながらマーケティングの視点も含め多様な視点からツーリズム政策を分析する。同時に、未来に向けての新たなツーリズム政策の考察を行う。</p> <p>講義概要：          ツーリズムは単にレジャー領域のものではなく、経済、文化などの社会活動に深く関わるものである。このようなツーリズム政策の各テーマについて、単に一方的な解説だけではなく、ディスカッション等を通して受講生自ら新たなツーリズム政策を提案するなどの試みを通して理解を深めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. ツーリズムの基本構造（1）</li> <li>3. ツーリズムの基本構造（2）</li> <li>4. マーケティングとは何か？</li> <li>5. ツーリズム政策とマーケティング理論</li> <li>6. ツーリズム政策の変遷</li> <li>7. ツーリズム政策における我が国の課題</li> <li>8. （ツーリズム政策に関する）ディスカッション</li> <li>9. 世界のツーリズム政策（シンガポール）</li> <li>10. 世界のツーリズム政策（北欧、ドイツ）</li> <li>11. 世界のツーリズム政策（スイス）</li> <li>12. 世界のツーリズム政策（フランス）</li> <li>13. 日本各地のツーリズム政策（地域振興など）</li> <li>14. ツーリズムとキャリアデザイン</li> <li>15. 講義全体の“まとめ”</li> </ol>	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	新聞などメディアを通して、ツーリズムに関する情報を事前に予習しておくこと		
テキスト	適宜個別資料を配布する		
参考文献	『急変する世界下のエンプロイアビリティ-豊富な事例から導くキャリア形成のヒント』（丸善プラネット）		
評価方法	受講姿勢、ディスカッションでの発言など講義参画30%、最終試験70%		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

09年度以降	交流文化論（ツーリズム文化論）	担当者	鈴木 涼太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人間の地球規模での移動の一形態であるツーリズムは、必然的にそれに付随した「モノ」の移動をとまなう。本講義では、ツーリズムに関連したモノの移動の代表例として観光みやげを取り上げ考察する。おみやげという身近な存在を通じて、グローバルな人とモノの移動と文化をめぐる動態について考える視野を身につけることを目標とする。</p> <p>講義では、まず日本における観光みやげの成立やその生産や流通、販売にかかわる産業の現状について紹介し、次にみやげの存在を規定するいくつかの論理について概説する。その上で、ツーリズムを介したみやげというモノの移動が、文化の消費、移転、生産にいかにかかわっているのかについて具体的な事例をあげながら考察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1、 ガイダンス</li> <li>2、 ツーリズムにおけるモノの文化的消費</li> <li>3、 おみやげとスーベニア</li> <li>4、 観光みやげの近代</li> <li>5、 「民芸品」をめぐるまなざし</li> <li>6、 観光みやげと「ものがたり」</li> <li>7、 観光みやげのギフト性</li> <li>8、 観光みやげと真正性</li> <li>9、 観光みやげの儀礼的倒錯性</li> <li>10、 こけしと木彫り熊</li> <li>11、 旅するマトリョーシカ①</li> <li>12、 旅するマトリョーシカ②</li> <li>13、 民芸品としてのアジア雑貨</li> <li>14、 アジアン雑貨が創る旅</li> <li>15、 まとめ</li> </ol>	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	授業内での指示に従い各自が予習復習を行うこと。		
テキスト	指定しない。		
参考文献	授業内で適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加／講義内小課題 20% 期末試験 80%		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

13年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （グローバル経済とジェンダー））	担当者	堀 芳枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経済のグローバル化が進展しているが、女性はどうのよ うな役割を果たし、影響を受けているのだろうか。それを知る ためには、現在経済成長が著しいアジアに着目するとよい だろう。アジア開発銀行は『アジア2050－アジアの世紀 の誕生』（2012）の中で、現在のアジアの成長が続けば、 その名目GDPは世界全体の50%を超えたとし、21世紀はま さしくアジアの世紀だと述べた。授業では、このアジア経 済の成長を牽引する中心に女性の労働があると位置づけ、 グローバル経済の実態－古典的国際分業から今日のグロ ーバル経済を構成している3つの新国際分業を再解釈す る。</p> <p>日本女性の労働の問題もその観点から考える。女性の労 働の在り方を考えることは、男性の労働や家族との関係に についても考えるきっかけとなると考えている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス－授業の内容、進め方、予習復習について</li> <li>2. 古典的国際分業とグローバル経済</li> <li>3. 新植民地主義について『バナナの逆襲』から考える</li> <li>4. 今日のグローバル経済（1）新国際分業の成立</li> <li>5. 新国際分業について『トゥルーコスト』から考える</li> <li>6. 今日のグローバル経済（2）再生産領域の新国際分業</li> <li>7. 香港の家事労働者受入れ政策とフィリピン女性</li> <li>8. フィリピン女性の移住労働と家族の問題</li> <li>9. 日本の“輝ける女性”の活躍とフィリピン家事労働者</li> <li>10. 資本主義の発展と再生産領域についてのまとめ</li> <li>11. 今日のグローバル経済（3）サービス業の新国際分業</li> <li>12. インド、中国、フィリピンのBPOの国際比較</li> <li>13. 日本女性の労働と男女雇用機会均等法</li> <li>14. 日本女性の労働と非正規雇用</li> <li>15. 授業のまとめと質疑応答など</li> </ol>	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で示されるポイントに従って復習する。あるいは、授業で出された課題に取り組み、予習復習する。		
テキスト	授業でプリントを配布します		
参考文献	堀芳枝編『学生のためのピース・ノート2』コモンズ、2014年、ほか授業で適宜紹介します。		
評価方法	大福帳 15%、期末テスト 85%		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

13年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （「観る」ことの文化史）	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>旅するとき、人はなぜ写真を撮るのでしょうか。何を撮り、何を撮らないのでしょうか。そもそも旅行にカメラを持って行くことを否定する人がいます。その人は何を忌避しているのでしょうか。逆にSNSへアップするためにフォトジェニックな場所へ旅する人や、旅先で「自撮り」する人が増えています——いったい「撮る」という行為は、いかなる意味を持つのでしょうか？</p> <p>「じっさい、観光はたいていが、写真になりそうなところを探し求める行為となった」という考え方もあります（アーリ&amp;ラーソン、2011＝2014）。こうした観光写真あるいは写真観光の研究は世界的に注目を集めてきた一方、日本では極めて希少なのが現状です。</p> <p>そのためこの講義では、(1) 海外の研究成果を日本の社会文脈に導入し、(2) 写真とツーリズムが出会い、相互に交渉してきた歴史を紐解き、(3) また「自撮り（Selfie）」や「絶景」や「SNSフォト」など最近のトランスナショナルな社会現象を考えること、を試みます。そうして「観る」という行為（パフォーマンス）の社会的意味を探り、近代社会におけるイメージとイマジネーションの諸問題を考えることを目的とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイドンス：「観る」と「まなざし」</li> <li>2. 写真の歴史①：遠近法と写真術</li> <li>3. 写真の歴史②：コダック化、作品化、ドキュメント化</li> <li>4. 写真の歴史③：写真が「写真」になる</li> <li>5. 海外の「まなざし」①：帝国主義と写真術</li> <li>6. 海外の「まなざし」②：外国人が写した「日本」</li> <li>7. 海外の「まなざし」③： 天皇のイメージとイマジネーション</li> <li>8. 「撮る」の政治学①：「動く画」の衝撃（映画の誕生）</li> <li>9. 「撮る」の政治学②：映画が「映画」になる</li> <li>10. 「撮る」の政治学③：ディズニー映画とdomestication</li> <li>11. 「撮る」の政治学④：「まなざし」の政治と主体</li> <li>12. 写真とツーリズム①：「撮る」ために移動する人々</li> <li>13. 写真とツーリズム②： 「自撮り」とセルフ・ポートレート</li> <li>14. 写真とツーリズム③：SNS時代の「観る」体験</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めてください。		
テキスト	各回講義で適宜提示します。		
参考文献	各回講義で適宜提示します。		
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

13年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義（シティズンシップ教育論））	担当者	花本 広志
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>シティズンシップ教育とは、citizenship（市民性）、すなわち、市民社会の一員としての知識、技能、態度や価値観を育む教育のことです。「主権者教育」と呼ばれることもあります。もともと、そもそも「市民性」とは何かについては議論のあるところですし、主権者教育と同じなのかについても議論があります。さらには、法教育との関係も問題となります。それらの点も含めて、この授業では、シティズンシップ教育とは何か、どうあるべきか、その教育方法などについて、協同学習の手法の1つである「LTD話し合い学習法」により学習していきます。そのうえで、最終的には、受講者が協同して、中学3年生向けのシティズンシップ教育用教材（1時限分）を作成することを目指します。</p> <p>第1回のオリエンテーションでは、授業の目的と概要、成績評価の方法などについて詳しく説明します。受講者のみなさんの主体的な参加が必須となる授業ですので、受講希望者は、可能な限り第1回目のオリエンテーションに出席して、どのような授業か理解したうえで履修してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. グループ分け、LTDを支える教育理論と技法</li> <li>3. 予習及びミーティングの解説と練習</li> <li>4. LTDウォーミングアップ（練習用教材使用）</li> <li>5. LTD（短縮型）（シティズンシップ教育論①）</li> <li>6. LTD（1）（シティズンシップ教育論②）</li> <li>7. LTD（1）の振り返り</li> <li>8. LTD（2）（シティズンシップ教育の課題）</li> <li>9. LTD（2）の振り返り</li> <li>10. LTD（3）（シティズンシップの授業）</li> <li>11. シティズンシップ教育用教材作成（その1）</li> <li>12. シティズンシップ教育用教材作成（その2）</li> <li>13. シティズンシップ教育用教材作成（その3）</li> <li>14. 教材発表会（受講者作成教材による模擬授業）</li> <li>15. 授業全体のまとめと振り返り、ラーニング・ポートフォリオについて説明</li> </ol>	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修では、LTDの方法に従って、教材となる文献につき予習ノートを作成します。事後学修では、授業でのLTDミーティングの結果を受けてノートを整理します。また、教材作成では、素材の選定や原案の作成、発表会の準備などを授業外で行うことがあります。		
テキスト	教材は、必要に応じてその都度配布します。		
参考文献	LTD話し合い学習法について予め知りたい人は、安永悟・須藤文『LTD話し合い学習法』（ナカニシヤ出版、2014年）を参照してください。		
評価方法	出席率、宿題提出率、教材作成・模擬授業への参加の有無、及びラーニング・ポートフォリオ（受講者自身による学習成果のまとめ）の採点結果の組み合わせによって評価しますが、評価基準は、複雑でこの欄に書き切れないため、第1回目のオリエンテーションで説明します。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

09年度以降	交流文化論（旅行・宿泊産業論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：          ツーリズムに大きく関わる旅行業、宿泊業（ホテル、旅館など）、航空事業、クルーズ事業のビジネスの現状と課題について学習する。</p> <p>講義概要：          旅行産業の発展経緯、ビジネスの概要、さらにオンライン旅行市場について学習する。宿泊産業においては、ホテル、旅館のビジネスの概要及び課題、さらに将来について学習する。航空事業、及び大きく成長しているクルーズ事業においては、最近の動向を中心に学習する。最後の「プレゼンテーション」では、各産業への提案を各自パワーポイント使用によって行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 旅行産業について（1）</li> <li>3. オンライン旅行市場</li> <li>4. 旅行産業について（2）</li> <li>5. ホテル、旅館等宿泊産業について（1）</li> <li>6. ホテル、旅館等宿泊産業について（2）</li> <li>7. ツーリズム産業におけるキャリアデザイン</li> <li>8. ディスカッション（テーマ：各産業の課題等）</li> <li>9. 航空事業の最近の動向</li> <li>10. クルーズ事業の最近の動向</li> <li>11. プレゼンテーション①</li> <li>12. プレゼンテーション②</li> <li>13. プレゼンテーション③</li> <li>14. プレゼンテーション④</li> <li>15. 講義全体の“まとめ”</li> </ol>	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	新聞や関連文献から各産業の最近の動向を事前に調べておくこと。講義内容の復習。		
テキスト	適宜個別資料を配布する。		
参考文献	『急変する世界下のエンプロイアビリティ-豊富な事例から導くキャリア形成のヒント』（丸善プラネット）		
評価方法	受講姿勢、発言、講義参画70%、プレゼンテーションとレポート30%		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

09年度以降	交流文化論（オルタナティブ・ツーリズム論）	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>オルタナティブ・ツーリズムとは、観光の大衆化（マス・ツーリズム）がもたらす様々な弊害（生活文化の形骸化や自然環境の破壊、新植民地主義等）を克服するために登場した「新しい」観光開発の理念です。本講義ではまず、オルタナティブ・ツーリズムが生まれた歴史的・社会的背景について概説します。その上で、エコツーリズムやコミュニティ・ベース・ツーリズム、場所性を取り入れたリゾートなどのオルタナティブな観光実践の現状について、主に文化人類学や社会学などの視点から検討し、その可能性について考えます。</p> <p>本講義では、出来る限り実際の観光の現場で生じている個別具体的な事例から、観光の問題と可能性について考えてみたいと思います。その際に扱う事例としては、東南アジアをはじめとする「第三世界」や、先住民族や少数民族などの「第四世界」的状況の事例が中心となります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 趣旨説明</li> <li>2. ビデオ上映（ジャマイカの観光開発）</li> <li>3. 場所性の商品化—アマンリゾートの戦略</li> <li>4. 環境主義の商品化—エコリゾート</li> <li>5. 世界遺産と観光1—ラオス・ルアンパバンの事例</li> <li>6. 世界遺産と観光2—中国・麗江の事例</li> <li>7. 貧困の商品化—都市貧困とツーリズム</li> <li>8. バックパッカーの歴史と現状</li> <li>9. 先住民とアート—北米イヌイットの事例</li> <li>10. 先住民とミュージアム—アイヌの事例</li> <li>11. エコツーリズムと先住民1</li> <li>12. エコツーリズムと先住民2</li> <li>13. コミュニティ・ベース・ツーリズム:タイの事例</li> <li>14. 現代日本における農山村の再編と観光</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	『観光学キーワード』『よくわかる観光社会学』などで、観光研究についての基本的知識について理解を深めておくこと。		
テキスト	特に定めない。		
参考文献	『観光学キーワード』（有斐閣）、『よくわかる観光社会学』（ミネルヴァ書房）等。		
評価方法	授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%)。ただし、4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

09年度以降	交流文化論（食の文化論）	担当者	中野 美季
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>始めに、味わうという行為を五感の仕組みから把握します。次に食の文化的側面についてイタリアをフィールドに考察します。イタリアにおける食の位置づけ、伝統食品の知恵、食の地域性と郷土料理について、写真資料とともに概観します。講義の参加者数、進度によりシラバスに記載の内容・順序は変更されます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 食と五感1</li> <li>3. 食と五感2</li> <li>4. おいしさとは何か</li> <li>5. イタリアの味覚教育</li> <li>6. イタリアにおける食</li> <li>7. 生産物認証制度</li> <li>8. 伝統食品1</li> <li>9. 伝統食品2</li> <li>10. 伝統食品3</li> <li>11. 郷土と食1</li> <li>12. 郷土と食2</li> <li>13. 郷土と食3</li> <li>14. 郷土と食4</li> <li>15. まとめと試験対策</li> </ol>	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回リアクションペーパーを提出する		
テキスト	定めない		
参考文献	適宜紹介する		
評価方法	定期試験（50%）、学期中課題（50%）		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

13年度以降 12年度以前	交流文化論（地域開発論） 交流文化論（市民参加のまちづくり論）	担当者	中野 美季
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「食と農によるイタリアの地域振興」</p> <p>食と農を軸に近年のイタリアの地域振興を概観します。農業の持つ多面的機能を活かしたイタリア農村における経営多角化（アグリツーリズム、教育農場、社会的農業）、スローフード運動、イタリアの地産地消、新たなフードネットワーク等、近年見られる地域性へと向かう動きを考察します。講義の参加者数、進度によりシラバスに記載の内容・順序は変更されます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. イタリアの概要</li> <li>3. イタリアの地域性</li> <li>4. EUとイタリア</li> <li>5. イタリアの都市と農村</li> <li>6. 農業の多面的機能1（アグリツーリズム）</li> <li>7. 農業の多面的機能2（食育と教育農場）</li> <li>8. 農業の多面的機能3（社会的農業）</li> <li>9. スローフード運動</li> <li>10. イタリアの社会的経済</li> <li>11. イタリアの地産地消1</li> <li>12. イタリアの地産地消2</li> <li>13. フードネットワーク1</li> <li>14. フードネットワーク2</li> <li>15. まとめと試験対策</li> </ol>	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	毎回リアクションペーパーを提出する		
テキスト	定めない		
参考文献	適宜紹介する		
評価方法	定期試験（50%）、学期中課題（50%）		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

13年度以降 12年度以前	交流文化論（ツーリズム特殊講義（ツーリズム・メディア論）） 交流文化論（ツーリズム・メディア論）	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、ツーリズムとメディアが取り結ぶ多様な関係を、さまざまな事例から考えます。その目的は、多くの人々が「観光（ツーリズム）」という形での移動（モビリティ）を実行することで、きっと体験できるだろうと想像する「観光的現実」が、どのように生まれるのかを理解することにあります。</p> <p>「観光的現実」とは、単に観光者と観光地の人々が共有するイメージ（疑似イベント）には留まりません。ときに「観光まちづくり」や「観光くにつくり（観光立国）」のシンボルにもなります。また「観光的現実」は必ずしも経済的發展や地域再生などに役立つばかりではなく、その逆に観光者や観光地の人々を対立させ、歴史や文化を根本から造り替えたりすることがあります。</p> <p>ここでは担当者が研究しているグアム、観光ガイドブック、映画観光などの具体的な事例を解説することで、ツーリズムとメディアの節合（アーティキュレーション）から生じる「観光的現実」の特性とメカニズムを検討します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス：メディアとツーリズムが取り結ぶ関係</li> <li>2. グアムから考える①：かつてグアムは日本の島だった</li> <li>3. グアムから考える②：ツーリズムとメディアの「節合」</li> <li>4. グアムから考える③：「日本人の楽園」が埋立てた記憶</li> <li>5. 理論編①：「疑似イベント論」をアップデートする</li> <li>6. ツーリズム・メディア史①：近代の観光ガイドブック</li> <li>7. ツーリズム・メディア史②：ミシュランと自動車文化</li> <li>8. ツーリズム・メディア史③：「地球の歩き方」と若者</li> <li>9. 理論編②：真正性とアーティキュレーション</li> <li>10. メディア・ツーリズム①：観光地とメディア</li> <li>11. メディア・ツーリズム②：映画観光の特徴</li> <li>12. メディア・ツーリズム③：「歴史」の観光資源化</li> <li>13. 理論編③：複製技術時代の真正性と観光</li> <li>14. 理論編④：メディア・ツーリズムのメカニズム</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めてください。		
テキスト	各回講義で適宜提示します。		
参考文献	各回講義で適宜提示します。		
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。		

# 外国語学部共通科目シラバス

08年度以降	総合講座	担当者	柿田 秀樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>人は何かが見えているとき、本当に何かを見ているのであろうか。何かが見えていることは純粋に世界の何かを経験していると疑いなく言えるのであろうか。見る以前に見るべきモノやコトが客観的にあると言えるのだろうか。何が人に、&lt;見える&gt;という経験を確信させるのであろう。その経験の明証性はどこからくるのであろうか。</p> <p>これらの問いは、我々にとって&lt;見える&gt;という事実が自明であることから生じているようである。本講義では、このあまりに自明なく見える&gt;という経験を問い直し、見えるという経験がいかに可能となるのかを考えてみたい。</p> <p>どのように&lt;見える&gt;のか、どのように見るのが(不)可能になり、何を見るのが許され(ず)、何が強いられるのか。&lt;見える&gt;という経験を考察する多様な学問の中で、見ることをより根本的な仕方で見え直す様々な視点を本講義で提示してみたい。</p> <p>&lt;見える&gt;という視覚経験は人間のさまざまな営みから形成される。化学や文学、芸術や文化、哲学や思想、メディア論やコミュニケーション論などの様々な学問のアプローチから、様々な&lt;見える&gt;ことの事例と共に、それらの事例に考察される&lt;見える&gt;とは何かを、講師がそれぞれの立場で講義していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション ——「&lt;見える&gt;を問い直す」開講にあたり (柿田秀樹)</li> <li>2. 「パブリック・スクリーン」時代の視覚文化 (菅野 遼)</li> <li>3. 空からバリを撮る——ナダールの写した19世紀 (福田美雪)</li> <li>4. ポスト写真時代のリアリティ： タッチパネル・スクリーンショット・ゲーム (松本健太郎)</li> <li>5. 「見る」と「観る」のメディア社会学 (山口誠)</li> <li>6. (暗室) 箱の中の手——デヴィッド・ホックニーの逆遠近法 (柿田秀樹)</li> <li>7. 像を拝むときひとは何を拝んでいるのか いくつかの事例から (森元庸介)</li> <li>8. 戦争と作家：ヴァージニア・ウルフの『三ギニー』を中心に (片山亜紀)</li> <li>9. 「能」における「見る・見えるもの」 (柿沼義孝)</li> <li>10. 神の見え方を問い直す——宗教改革と聖画像の問題 (青山愛香)</li> <li>11. 精神分析から「見える」を問い直す (若森栄樹)</li> <li>12. ソマトフォビアと異性愛中心主義 ——ホロコースト博物館の髪の色展示論争から—— (藤巻光浩)</li> <li>13. 視覚の文法——ヒトの脳は世界をどう表現するか—— (安井美代子)</li> <li>14. 我々が知覚する世界はリアルと言えるか ——プラトンの「イデア」をめぐって (M. ビティヒ)</li> <li>15. まとめ (柿田秀樹)</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	講義の後で、授業やプリント等で紹介された文献を読み、関心を持ったテーマについて自分で調べて理解を深めてほしい。必要な場合、事前の読書課題があるかもしれない。		
<b>テキスト</b>	テキストは授業内で適宜指示する。		
<b>参考文献</b>	参考文献は授業内で適宜指示する。		
<b>評価方法</b>	各講義後コメントペーパーを試験解答として提出するため、出席と講義の内容の復習が不可欠である。 75分の講義の後、担当の先生の各テーマについて15分ほどのテストを毎回行う。このテストをもとに成績を評価する。		

09年度以降	総合講座	担当者	A. ゴーリンジャー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「フィールドワーク」とは、研究対象が存在する環境の中で、研究者自身によって行われる実際の作業のことである。実験室や研究室ではなく、現場にある資料・データなどの調査や探索である。現場は大都市中心部、小部族の集落、会社、バスターミナルかもしれない。フィールドワーク作業は、対象への面談や観察を通しての人類学的・社会学的データの収集、対象言語の記述を目的としたデータ収集、あるいはアーカイブにある史料の書き写しなど実にさまざまである。人類学、社会学、言語学、民俗学、政治学、美術史学など広範囲の分野の研究者がフィールドワークを行う。フィールドワークは研究過程の中でもっとも興味深く価値ある部分であり、研究において、方法的、創造的に研究の翼を広げ、独創的要素と経験的信頼性を証明できる機会である。</p> <p>本講義では、さまざまな分野の研究者が実際に行ったフィールドワークについていろいろな角度から論じる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「フィールドワークの実践」開講にあたって (A. ゴーリンジャー)</li> <li>2. 歩いて学ぶニューヨーク：パブリック・メモリーの考察 (板場良久)</li> <li>3. 未定 (金井満/黒子葉子)</li> <li>4. Research Interviews and Knowledge (Re)Production (工藤和宏)</li> <li>5. 関わりながら知ること——民俗芸能の伝承と企業活動をめぐるフィールドワークの実践 (鈴木涼太郎)</li> <li>6. Gaining Access: More Than Just Walking Through the Door (E. 本橋)</li> <li>7. 脆弱国家支援の考察——シエラレオネ (佐野康子)</li> <li>8. From Classrooms to Cities: Adventures in Data Collection and Fieldwork (J. N. ウェンデル)</li> <li>9. ことばを守るということ (田中善英)</li> <li>10. ドイツ現代史とフィールドワーク ——東ドイツ史研究の事例から (伊豆田俊輔)</li> <li>11. 農村調査——フィリピンの農村でのフィールドワークの実践を中心に (堀芳枝)</li> <li>12. 民俗学のフィールドワーク……民間の伝統的習俗 (行事・祭礼・生活等) の調査と観察 (飯島一彦)</li> <li>13. 本ではわからない福祉の現場 (尾玉剛士)</li> <li>14. ドイツでの企業調査からの教訓 (大重光太郎)</li> <li>15. まとめ (A. ゴーリンジャー)</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	配布プリントや授業内で紹介された参考文献をもとに自分が関心を持ったテーマを調べ理解を深める。		
<b>テキスト</b>	授業内で適宜指示する。		
<b>参考文献</b>	授業内で適宜指示する。		
<b>評価方法</b>	期末テストは行わず、毎回提出するコメントペーパーで評価する。		

09年度以降	総合講座	担当者	木村 佐千子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>鍵盤音楽史①</b> いわゆるクラシック音楽をたくさんの録音資料で聴き、楽しみながら音楽の歴史をたどっていく授業です。2018年度は、鍵盤楽器（ピアノ、オルガン、チェンバロ等）のための音楽に注目します。春学期は、古代から18世紀半ば頃までの音楽を扱う予定です。映像資料が少ないため、CD等の録音で鑑賞することが多くなると思いますが、ご了承ください。2015～2017年度に総合講座（西洋音楽史）を履修した方の重複履修も可能です。  ◇一度、外部講師による楽器説明の回を設ける予定です。 ◇注意事項：音楽を鑑賞する授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。音楽の専門的な知識は必要ありませんが、楽譜を用いて説明することがありますので、予め了解しておいてください。		1. 導入・概観、評価方法の説明等 2. 鍵盤楽器について 3. 鍵盤楽器について、14～16世紀の鍵盤音楽 4. 16～18世紀のイベリア半島とイタリアの鍵盤音楽 5. 16～18世紀のイギリスの鍵盤音楽 6. 17～18世紀のフランスの鍵盤音楽 7. スウェーデン、17世紀北ドイツの鍵盤音楽 8. 17世紀南ドイツの鍵盤音楽 9. J.S. バッハの生涯と鍵盤音楽 10. J.S. バッハのオルガン音楽 11. J.S. バッハのクラヴィア音楽 12. J.S. バッハの鍵盤楽器を含む室内楽曲等 13. バッハの息子たちの世代 14. ハイドン 15. まとめ・授業内試験	
<b>到達目標</b>	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業で扱う内容に関連する音楽を聴いたり（図書館 HP から「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」を利用）、文献を読んだりしてください。		
<b>テキスト</b>	プリントを配布します。		
<b>参考文献</b>	必要に応じ、『音楽中辞典』や『ニューグローヴ世界音楽大事典』等を参照してください。		
<b>評価方法</b>	授業への参加度 30%、試験 70%。全授業回数の3分の2以上の出席が評価の前提です。		

09年度以降	総合講座	担当者	木村 佐千子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>鍵盤音楽史②</b> いわゆるクラシック音楽をたくさんの録音資料で聴き、楽しみながら音楽の歴史をたどっていく授業です。2018年度は、鍵盤楽器（ピアノ、オルガン、チェンバロ等）のための音楽に注目します。秋学期は、18世紀後半から現代までの音楽を扱う予定です。春学期の内容を踏まえての授業になりますので、ご了承ください。2015～2017年度に総合講座（西洋音楽史）を履修した方の重複履修も可能です。  ◇注意事項：音楽を鑑賞する授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。音楽の専門的な知識は必要ありませんが、楽譜を用いて説明することがありますので、予め了解しておいてください。		1. 18世紀中頃までの鍵盤音楽 2. モーツァルトの鍵盤音楽 3. ベートーヴェンの鍵盤音楽 4. シューベルトのピアノ音楽 5. 19世紀のピアノ音楽概観 6. ショパンのピアノ音楽 7. メンデルスゾーン、シューマンの鍵盤音楽 8. リスト、ブラームスのピアノ音楽 9. 国民楽派のピアノ音楽 10. ロシアのピアノ音楽 11. 1750年以降のオルガン音楽 12. 19世紀後半～20世紀のピアノ音楽 13. 20世紀のピアノ音楽 14. チェンバロの復興、20～21世紀のチェンバロ音楽 15. まとめ・授業内試験	
<b>到達目標</b>	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業で扱う内容に関連する音楽を聴いたり（図書館 HP から「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」を利用）、文献を読んだりしてください。		
<b>テキスト</b>	プリントを配布します。		
<b>参考文献</b>	必要に応じ、『音楽中辞典』や『ニューグローヴ世界音楽大事典』等を参照してください。		
<b>評価方法</b>	授業への参加度 30%、試験 70%。全授業回数の3分の2以上の出席が評価の前提です。		

09年度以降	情報科学概論 a	担当者	呉 浩東
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>高度情報化社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。</p> <p>本講義では、(1) コンピュータと情報処理に関する基礎知識 (2) コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み (3) コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。さらに、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要、データ表現、基数変換、論理演算</li> <li>2. オペレーティングシステム (OS)</li> <li>3. データ構造—リスト、スタック、キュー、2分木</li> <li>4. アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例</li> <li>5. プログラム言語</li> <li>6. プログラミングの仕組み</li> <li>7. コンピュータの構成要素</li> <li>8. 自然言語とは</li> <li>9. コンピュータによる言語情報処理技術 (1)</li> <li>10. コンピュータによる言語情報処理技術 (2)</li> <li>11. 人工知能と言語処理</li> <li>12. 情報検索と質問応答システム</li> <li>13. インターネット上の多言語処理技術</li> <li>14. 講義のまとめ</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	コンピュータの基礎理論およびコンピュータ言語に関する知識を習得し、コンピュータの基本的操作ができるようになる。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの指定される内容を予習し、前回出される課題を次回に提出してください。		
<b>テキスト</b>	学内ネットに開示するテキストを使用します。		
<b>参考文献</b>	特にありません。		
<b>評価方法</b>	定期試験 60%、小テスト 10%、課題 20%、授業への参加度 10%です。		

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>到達目標</b>			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
<b>テキスト</b>			
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>			

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習) [総合]	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的:</b> この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word (1)</li> <li>4. Word (2)</li> <li>5. Word (3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel (1)</li> <li>9. Excel (2)</li> <li>10. Excel (3)</li> <li>11. PowerPoint (1)</li> <li>12. PowerPoint (2)</li> <li>13. PowerPoint (3)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	担当教員より指示する。		
<b>テキスト</b>	担当教員より指示する。		
<b>参考文献</b>	担当教員より指示する。		
<b>評価方法</b>	担当教員より指示する。		

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習) [総合]	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的:</b> この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word (1)</li> <li>4. Word (2)</li> <li>5. Word (3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel (1)</li> <li>9. Excel (2)</li> <li>10. Excel (3)</li> <li>11. PowerPoint (1)</li> <li>12. PowerPoint (2)</li> <li>13. PowerPoint (3)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	担当教員より指示する。		
<b>テキスト</b>	担当教員より指示する。		
<b>参考文献</b>	担当教員より指示する。		
<b>評価方法</b>	担当教員より指示する。		

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習) [英語]	担当者	黄 海湘
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word (1)</li> <li>4. Word (2)</li> <li>5. Word (3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel (1)</li> <li>9. Excel (2)</li> <li>10. Excel (3)</li> <li>11. PowerPoint (1)</li> <li>12. PowerPoint (2)</li> <li>13. PowerPoint (3)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	担当教員より指示する。		
<b>テキスト</b>	担当教員より指示する。		
<b>参考文献</b>	担当教員より指示する。		
<b>評価方法</b>	担当教員より指示する。		

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習) [英語]	担当者	黄 海湘
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word (1)</li> <li>4. Word (2)</li> <li>5. Word (3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel (1)</li> <li>9. Excel (2)</li> <li>10. Excel (3)</li> <li>11. PowerPoint (1)</li> <li>12. PowerPoint (2)</li> <li>13. PowerPoint (3)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	担当教員より指示する。		
<b>テキスト</b>	担当教員より指示する。		
<b>参考文献</b>	担当教員より指示する。		
<b>評価方法</b>	担当教員より指示する。		

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習) [ヨーロッパ言語]	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的:</b> この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。受講生の外国語の能力自体は問わない。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word (1)</li> <li>4. Word (2)</li> <li>5. Word (3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel (1)</li> <li>9. Excel (2)</li> <li>10. Excel (3)</li> <li>11. PowerPoint (1)</li> <li>12. PowerPoint (2)</li> <li>13. PowerPoint (3)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	担当教員より指示する。		
<b>テキスト</b>	担当教員より指示する。		
<b>参考文献</b>	担当教員より指示する。		
<b>評価方法</b>	担当教員より指示する。		

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習) [ヨーロッパ言語]	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的:</b> この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。受講生の外国語の能力自体は問わない。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word (1)</li> <li>4. Word (2)</li> <li>5. Word (3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel (1)</li> <li>9. Excel (2)</li> <li>10. Excel (3)</li> <li>11. PowerPoint (1)</li> <li>12. PowerPoint (2)</li> <li>13. PowerPoint (3)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	担当教員より指示する。		
<b>テキスト</b>	担当教員より指示する。		
<b>参考文献</b>	担当教員より指示する。		
<b>評価方法</b>	担当教員より指示する。		

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：</p> <p>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、ExcelおよびPowerPointの使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1)</li> <li>3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出</li> <li>4. グラフ作成、装飾の確認</li> <li>5. 関数の利用(1)</li> <li>6. 関数の利用(2)</li> <li>7. 関数の利用(3)</li> <li>8. マクロの利用(1)</li> <li>9. マクロの利用(2)</li> <li>10. プレゼンテーション実習(1)-1</li> <li>11. プレゼンテーション実習(1)-2</li> <li>12. プレゼンテーション実習(2)-1</li> <li>13. プレゼンテーション実習(2)-2</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より指示する。		
テキスト	担当教員より指示する。		
参考文献	担当教員より指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：</p> <p>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Excel および PowerPointの使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1)</li> <li>3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出</li> <li>4. グラフ作成、装飾の確認</li> <li>5. 関数の利用(1)</li> <li>6. 関数の利用(2)</li> <li>7. 関数の利用(3)</li> <li>8. マクロの利用(1)</li> <li>9. マクロの利用(2)</li> <li>10. プレゼンテーション実習(1)-1</li> <li>11. プレゼンテーション実習(1)-2</li> <li>12. プレゼンテーション実習(2)-1</li> <li>13. プレゼンテーション実習(2)-2</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より指示する。		
テキスト	担当教員より指示する。		
参考文献	担当教員より指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、実際の発表（質疑応答も含む）を通じて、「わかりやすいプレゼンテーションとは何か」を考えていく半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>なお、課題（演習）が締め切り日までに提出されなかったり、また提出はあっても、発表の準備をしていない場合は、実際の発表ができません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 基本知識と操作の確認</li> <li>3. プレゼンテーションとは</li> <li>4. スライドの作成法(1)</li> <li>5. スライドの作成法(2)</li> <li>6. 演習1：時間の意識</li> <li>7. 発表(1)</li> <li>8. 発表(2)</li> <li>9. 演習2：配布資料の利用</li> <li>10. 発表(1)</li> <li>11. 発表(2)</li> <li>12. 演習3：「言葉」の定義</li> <li>13. 発表(1)</li> <li>14. 発表(2)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	各回で指示される、課題、復習、準備（予習）等を行うこと。		
テキスト	授業用 Web にて情報の提示や資料等を配布。		
参考文献	随時紹介。		
評価方法	原則として、欠席数が規定回数以内であること。 演習（作成・発表・振り返り）90%、平常点（練習問題等）10%。		

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>講義目的：</b> この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。  実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ 15. まとめ	
<b>到達目標</b>	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	担当教員より指示する。		
<b>テキスト</b>	担当教員より指示する。		
<b>参考文献</b>	担当教員より指示する。		
<b>評価方法</b>	担当教員より指示する。		

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>講義目的：</b> この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。  実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ 15. まとめ	
<b>到達目標</b>	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	担当教員より指示する。		
<b>テキスト</b>	担当教員より指示する。		
<b>参考文献</b>	担当教員より指示する。		
<b>評価方法</b>	担当教員より指示する。		

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Office 中級)	担当者	松山 恵美子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、WordおよびExcel、PowerPointについて、より広い知識と活用法の習得を目的とする半期完結授業である。</p> <p>個々のソフトの基本的操作だけでなく、ソフトの連携による活用ができる力を養成することを目的とする。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>Word、Excel、PowerPointの基本を習得していることが望ましいが、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義のガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. Wordの基本操作の確認</li> <li>3. Excelの基本操作 (セル参照・関数) の確認 (1)</li> <li>4. Excelの基本操作 (関数・入力規則) の確認 (2)</li> <li>5. Excelの基本操作 (グラフ・抽出) の確認</li> <li>6. WordとExcelの連携処理 (1)</li> <li>7. WordとExcelの連携処理の確認テスト</li> <li>8. データベースの準備・作成</li> <li>9. PowerPointの基本操作の確認</li> <li>10. フィルタによるデータ抽出</li> <li>11. プレゼンテーション資料作成 (1)</li> <li>12. プレゼンテーション資料作成 (2)</li> <li>13. プレゼンテーション実習 (1)</li> <li>14. プレゼンテーション実習 (2)</li> <li>15. レポートへのまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業の進行により随時指示する。		
<b>テキスト</b>	『情報活用法とアカデミック・スキル』(共立出版株式会社、2018年)		
<b>参考文献</b>	授業中に紹介		
<b>評価方法</b>	確認テスト 30%、授業内課題 20%、レポート 30%、プレゼンテーション実習 20%		

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>到達目標</b>			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
<b>テキスト</b>			
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>			

16年度以降 15年度以前	[応用] 情報科学各論 (コーパス言語学 a) [応用] 情報科学各論 (言語情報処理 1)	担当者	羽山 恵
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、コンピューターを活用して計量的に言語を見る洞察力と分析力を身につけることを目的とします。</p> <p>コーパス言語学aでは、「コーパス (=言語データ) とは何か?」という基本的な概念を共有するところから始めます。その上で、「コーパスを分析することで何がわかるのか?」、「コーパスをどのように分析するのか?」という実習へ発展していきます。その後は、受講生が自ら考えた言語分析課題(Research question(s))をたて、実際にコーパスデータを分析し、その成果を発表するという一連の演習を行います。</p> <p>授業では、教科書(下記参照)に沿って様々な研究例を見ながら、「言語を分析する」適切な視点を養って頂きたいと思えます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・第1章「コーパス言語学への招待」</li> <li>2. 第2章「コーパスとは何か」</li> <li>3. 第3章「さまざまなコーパス」</li> <li>4. 第5章「コーパス検索の技術」</li> <li>5. 第6章「コーパス頻度の処理」</li> <li>6. 第7章「コーパスと語彙」(1)</li> <li>7. 第7章「コーパスと語彙」(2)</li> <li>8. 第8章「コーパスと語法」(1)</li> <li>9. 第8章「コーパスと語法」(2)</li> <li>10. 第9章「コーパスと文法」(1)</li> <li>11. 第9章「コーパスと文法」(2)</li> <li>12. プレゼンテーション準備(1):RQを検討</li> <li>13. プレゼンテーション準備(2):データ分析</li> <li>14. プレゼンテーション準備(3):資料作成</li> <li>15. プレゼンテーション</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	課題が授業時間内に終わらない場合は、期日までに仕上げ、オンラインで提出する。		
<b>テキスト</b>	『ベーシックコーパス言語学』(石川慎一郎著 ひつじ書房)		
<b>参考文献</b>	英語コーパス研究シリーズ (ひつじ書房)		
<b>評価方法</b>	毎回の授業における課題への取り組み (60%)、最終プレゼンテーション (40%)		

16年度以降 15年度以前	[応用] 情報科学各論 (コーパス言語学 b) [応用] 情報科学各論 (言語情報処理 2)	担当者	羽山 恵
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「日本人英語学習者のコーパス」を扱います。究極的な研究課題(Research question)は、「日本人英語学習者の話す/書く英語の特徴にはどのようなものがあるか?」ということです。それらの特徴は、使用する語彙、使用する(あるいはしない)文法項目、誤り(error)などの観点から特定できるものを指します。加えて、「英語力」が異なる学習者グループを比較することによって、英語力が低い段階から高まっていくに従い、どのような語彙・文法項目が使われるようになるのか、あるいはどのような誤りは減少し、どのようなものは高い英語力を持つ学習者でもおこなってしまうのか、といったことも、本授業で扱うテーマに含まれます。従って、英語教員を目指す人、英語学習に対する興味・関心が高い人に向いている内容と言えます。</p> <p>授業では、演習が中心になります。コーパス言語学 a を履修していなくても構いません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・学習者コーパスとは何か</li> <li>2. 学習者の言語データと第二言語習得</li> <li>3. 学習者コーパスの仕組み</li> <li>4. 学習者データの収集(1)</li> <li>5. 学習者データの収集(2)</li> <li>6. 学習者データの入力</li> <li>7. 学習者データの加工</li> <li>8. 学習者コーパスの語彙分析</li> <li>9. 学習者コーパスの文法分析</li> <li>10. 学習者コーパスの流暢さ分析</li> <li>11. 学習者コーパスの誤り分析</li> <li>12. プレゼンテーション準備(1):RQを検討</li> <li>13. プレゼンテーション準備(2):データ分析</li> <li>14. プレゼンテーション準備(3):資料作成</li> <li>15. プレゼンテーション</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	課題が授業時間内に終わらない場合は、期日までに仕上げ、オンラインで提出する。		
<b>テキスト</b>	テキストは使用せず。Ppt スライドを提示する。		
<b>参考文献</b>	英語コーパス研究シリーズ (ひつじ書房)		
<b>評価方法</b>	毎回の授業における課題への取り組み (60%)、最終プレゼンテーション (40%)		

09年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級) (月5)	担当者	金子 憲一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、実際のWebページの作成を通じて、Webページの仕組みとインターネットにおける情報の発信、著作権等について学んでいく半期完結授業である。</p> <p>まず、コンピュータとネットワークの基本構成、ファイル・フォルダ・ドライブといったコンピュータに関する基本知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである「WWW (World Wide Web)」における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML (Hyper-Text Markup Language)」を学ぶ。更に自分自身のWebページ (ホームページ) も作成する。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>コンピュータの言語 (Language) を習得するには、外国語を習得するのと同様に、「繰り返し (復習)」が極めて重要です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 基本知識と操作の確認、情報倫理</li> <li>3. Webページとは、著作権</li> <li>4. 文字中心のページ、リンク</li> <li>5. 画像(1)</li> <li>6. 画像(2)、表</li> <li>7. FTP</li> <li>8. 課題(1)</li> <li>9. 課題(2)</li> <li>10. 小鑑賞会、企画書の作成</li> <li>11. CSS</li> <li>12. 総合課題(1)</li> <li>13. 総合課題(2)</li> <li>14. 作品紹介のプレゼンテーション</li> <li>15. 鑑賞会・まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	各回で指示される、課題、復習、準備 (予習) 等を行うこと。		
<b>テキスト</b>	授業用 Web にて情報の提示や資料等を配布。		
<b>参考文献</b>	随時紹介。		
<b>評価方法</b>	原則として、欠席数が規定回数以内であること。 総合課題 (作品) 40%、平常点 (課題、著作権のレポート等) 60%。		

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>到達目標</b>			
<b>事前・事後学修の内容</b>			
<b>テキスト</b>			
<b>参考文献</b>			
<b>評価方法</b>			

09年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級) (木4)	担当者	金子 憲一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、実際のWebページの作成を通じて、Webページの仕組みとインターネットにおける情報の発信、著作権等について学んでいく半期完結授業である。</p> <p>まず、コンピュータとネットワークの基本構成、ファイル・フォルダ・ドライブといったコンピュータに関する基本知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである「WWW (World Wide Web)」における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML (Hyper-Text Markup Language)」を学ぶ。更に自分自身のWebページ (ホームページ) も作成する。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>コンピュータの言語 (Language) を習得するには、外国語を習得するのと同様に、「繰り返し (復習)」が極めて重要です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 基本知識と操作の確認、情報倫理</li> <li>3. Webページとは、著作権</li> <li>4. 文字中心のページ、リンク</li> <li>5. 画像(1)</li> <li>6. 画像(2)、表</li> <li>7. FTP</li> <li>8. 課題(1)</li> <li>9. 課題(2)</li> <li>10. 小鑑賞会、企画書の作成</li> <li>11. CSS</li> <li>12. 総合課題(1)</li> <li>13. 総合課題(2)</li> <li>14. 作品紹介のプレゼンテーション</li> <li>15. 鑑賞会・まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	各回で指示される、課題、復習、準備 (予習) 等を行うこと。		
<b>テキスト</b>	授業用 Web にて情報の提示や資料等を配布。		
<b>参考文献</b>	随時紹介。		
<b>評価方法</b>	原則として、欠席数が規定回数以内であること。 総合課題 (作品) 40%、平常点 (課題、著作権のレポート等) 60%。		

09年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 中級)	担当者	金子 憲一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、「情報科学各論 (HTML初級)」の次に位置する中級科目である。コンピュータやインターネットの基礎知識、及び「HTMLを用いたWebページ作成技術を習得した人 (FTPの理解を含む) を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページの作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。</p> <p>まず、コンピュータとネットワーク (インターネット) の基礎知識の確認、及びHTML、FTPなどの復習を行う。次にJavaScriptやCGIプログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。</p> <p>受講上の注意：授業内容や評価方法等を詳しく説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。原則として、HTML初級を履修済みであること。プログラミングの授業なので、特に欠席や遅刻はしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>抽象度が高いので、準備と復習をしっかり行い、こまめにメモを取ることが必須です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. HTMLとFTPの復習(1)</li> <li>3. HTMLとFTPの復習(2)</li> <li>4. インタラクティブなページとは</li> <li>5. プログラミングの基礎知識</li> <li>6. JavaScript(1)</li> <li>7. JavaScript(2)</li> <li>8. JavaScript(3)</li> <li>9. JavaScript(4)</li> <li>10. JavaScript(5)</li> <li>11. CGIの利用</li> <li>12. 総合課題(1)</li> <li>13. 総合課題(2)</li> <li>14. 総合課題(3)</li> <li>15. 鑑賞会・まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	各回で指示される、課題、復習、準備 (予習) 等を行うこと。		
<b>テキスト</b>	授業用 Web にて情報の提示や資料等を配布。		
<b>参考文献</b>	随時紹介。		
<b>評価方法</b>	原則として、欠席数が規定回数以内であること。 総合課題 (作品) 70%、平常点 (課題等) 30%。		

09年度以降	経済原論 a	担当者	野村 容康
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義概要</b> 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p><b>講義目的</b> 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済学の目的と方法</li> <li>2. 家計の行動①－効用の概念と予算制約</li> <li>3. 家計の行動②－効用最大化</li> <li>4. 家計の行動③－消費者余剰の概念</li> <li>5. 企業の行動①－生産技術の決定</li> <li>6. 企業の行動②－費用曲線と利潤最大化</li> <li>7. 企業の行動③－生産者余剰の概念</li> <li>8. 市場価格の決定</li> <li>9. 不完全競争市場</li> <li>10. 厚生経済学の基本定理</li> <li>11. 市場の失敗</li> <li>12. 所得分配の決定</li> <li>13. 政府の役割①－規制および補助金政策</li> <li>14. 政府の役割②－租税政策</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	経済学の基礎知識を習得し、様々な経済事象を分析できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	各回の講義で解説した専門用語（プリントを配布）について復習し、十分に理解したうえで、次回の講義に臨むこと。		
<b>テキスト</b>	特に指定しない。		
<b>参考文献</b>	初回の講義にて紹介する。		
<b>評価方法</b>	定期試験の成績（80％）に授業内での小テストの結果（20％）を加味して評価する。		

09年度以降	経済原論 b	担当者	野村 容康
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義概要</b> 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p><b>講義目的</b> 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. マクロ経済学の体系</li> <li>2. 国民所得の諸概念</li> <li>3. 消費と貯蓄の理論</li> <li>4. 企業投資の理論</li> <li>5. 国民所得決定の理論</li> <li>6. 生産物市場の分析</li> <li>7. 金融市場の分析</li> <li>8. 財政政策の有効性</li> <li>9. 金融政策の有効性</li> <li>10. 国際収支と為替レートの決定要因</li> <li>11. 開放マクロ経済下での経済政策</li> <li>12. 公債発行と財政赤字</li> <li>13. 経済成長の決定要因</li> <li>14. 日本の公的債務と経済成長</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	経済学の基礎知識を習得し、様々な経済事象を分析できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	各回の講義で解説した専門用語（プリントを配布）について復習し、十分に理解したうえで、次回の講義に臨むこと。		
<b>テキスト</b>	特に指定しない。		
<b>参考文献</b>	初回の講義にて紹介する。		
<b>評価方法</b>	定期試験の成績（80％）に授業内での小テストの結果（20％）を加味して評価する。		

09年度以降	社会心理学 a	担当者	樋口 匡貴
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
人間は必ず、他者と関わりを持ちながら生きている。その中で、他者から影響を受け、そして他者に影響を与えている。つまり、人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学a, bでは、日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ、社会心理学的に解釈していく。特に社会心理学aでは、個人の心の働きに主に焦点を当てる。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション・「社会心理学」講義の前に</li> <li>2. 社会心理学の概要</li> <li>3. 社会的認知(1)：人の印象はどう決まるか</li> <li>4. 社会的認知(2)：ステレオタイプと差別</li> <li>5. 社会的アイデンティティ理論(1)：個人の中の集団</li> <li>6. 社会的アイデンティティ理論(2)：差別は集団からうまれる</li> <li>7. 自己(1)：自分はどんな人間か</li> <li>8. 自己(2)：自分のことを相手にどう伝えるか</li> <li>9. 態度と態度変容：好きになるのはどうしてか</li> <li>10. 社会的影響(1)：集団での意思決定における個人の役割</li> <li>11. 社会的影響(2)：規範的影響と情勢的影響</li> <li>12. 社会的影響(3)： 「助けて!」と聞こえてきたらどうするか</li> <li>13. 社会的影響(4)：そして集団全体が動き出す</li> <li>14. まとめと振り返り</li> <li>15. 社会的影響(5)：人間の力</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	社会心理学に関する基礎知識を習得し、社会に生きる個人および集団の認知過程や行動特徴などについて分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	毎回、事前に配布する資料に目を通して頂くこと。またリアクションペーパーにコメントした内容について、授業後に自らの答えを出して頂くこと。		
<b>テキスト</b>	テキストは使用しない。		
<b>参考文献</b>	亀田・村田『複雑さに挑む社会心理学（有斐閣、2000；スミス・ハスラム『社会心理学・再入門』（新曜社、2017）		
<b>評価方法</b>	中間レポート 30%，期末試験 60%，その他 10%で評価する。なお、第1回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に、授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。		

09年度以降	社会心理学 b（金2）	担当者	樋口 匡貴
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
人間は必ず、他者と関わりを持ちながら生きている。その中で、他者から影響を受け、そして他者に影響を与えている。つまり、人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学a, bでは、日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ、社会心理学的に解釈していく。特に社会心理学bでは、主に個人と社会との間の相互作用や、社会心理学の応用的発展領域に焦点を当てる。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション：「社会心理学」講義の前に</li> <li>2. コミュニケーション(1)： 言語的・非言語的コミュニケーション</li> <li>3. コミュニケーション(2)： コミュニケーションと対人行動</li> <li>4. コミュニケーション(3)：コミュニケーションのズレ</li> <li>5. ソーシャルネットワーク(1)：ネットワークの諸相</li> <li>6. ソーシャルネットワーク(2)：つながりを生み出すもの</li> <li>7. ソーシャルネットワーク(3)：つながりが生み出すもの</li> <li>8. 信頼社会と安心社会</li> <li>9. 社会的感情(1)：互惠性を生み出す感情～感謝</li> <li>10. 社会的感情(2)：表情と感情</li> <li>11. 社会的感情(3)：生死を分ける感情</li> <li>12. 健康行動と社会心理学(1)：健康に関する様々な理論</li> <li>13. 健康行動と社会心理学(2)：感染予防のための挑戦</li> <li>14. まとめと振り返り</li> <li>15. 社会心理学の未来</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	社会心理学に関する基礎知識を習得し、社会に生きる個人および集団の認知過程や行動特徴などについて分析し、見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	毎回、事前に配布する資料に目を通して頂くこと。またリアクションペーパーにコメントした内容について、授業後に自らの答えを出して頂くこと。		
<b>テキスト</b>	テキストは使用しない。		
<b>参考文献</b>	亀田・村田『複雑さに挑む社会心理学（有斐閣、2000；スミス・ハスラム『社会心理学・再入門』（新曜社、2017）		
<b>評価方法</b>	中間レポート 30%，期末試験 60%，その他 10%で評価する。なお、第1回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に、授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト			
参考文献			
評価方法			

09年度以降	社会心理学 b (金 3)	担当者	樋口 匡貴
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人間は必ず、他者と関わりを持ちながら生きている。その中で、他者から影響を受け、そして他者に影響を与えている。つまり、人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学a, bでは、日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ、社会心理学的に解釈していく。特に社会心理bでは、主に個人と社会との間の相互作用や、社会心理学の応用的発展領域に焦点を当てる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション：「社会心理学」講義の前に</li> <li>2. コミュニケーション(1)：言語的・非言語的コミュニケーション</li> <li>3. コミュニケーション(2)：コミュニケーションと対人行動</li> <li>4. コミュニケーション(3)：コミュニケーションのズレ</li> <li>5. ソーシャルネットワーク(1)：ネットワークの諸相</li> <li>6. ソーシャルネットワーク(2)：つながりを生み出すもの</li> <li>7. ソーシャルネットワーク(3)：つながりが生み出すもの</li> <li>8. 信頼社会と安心社会</li> <li>9. 社会的感情(1)：互惠性を生み出す感情～感謝</li> <li>10. 社会的感情(2)：表情と感情</li> <li>11. 社会的感情(3)：生死を分ける感情</li> <li>12. 健康行動と社会心理学(1)：健康に関する様々な理論</li> <li>13. 健康行動と社会心理学(2)：感染予防のための挑戦</li> <li>14. まとめと振り返り</li> <li>15. 社会心理学の未来</li> </ol>	
到達目標	社会心理学に関する基礎知識を習得し、社会に生きる個人および集団の認知過程や行動特徴などについて分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回、事前に配布する資料に目を通して頂くこと。またリアクションペーパーにコメントした内容について、授業後に自らの答えを出して頂くこと。		
テキスト	テキストは使用しない。		
参考文献	亀田・村田『複雑さに挑む社会心理学 (有斐閣, 2000; スミス・ハスラム『社会心理学・再入門』(新曜社, 2017)		
評価方法	中間レポート 30%, 期末試験 60%, その他 10%で評価する。なお、第1回目の授業において授業実施上の注意点を詳細に説明する。特に、授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。		

シラバス フランス語学科

---

2018年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電話 048-946-1656



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学年	氏 名
学科	年	